
平成21年度 連携取組事業評価報告書

【事業名称】

「岡山オルガノン」の構築 —学士力・社会人基礎力・
地域発信力の融合を目指した教育—

平成22年4月1日



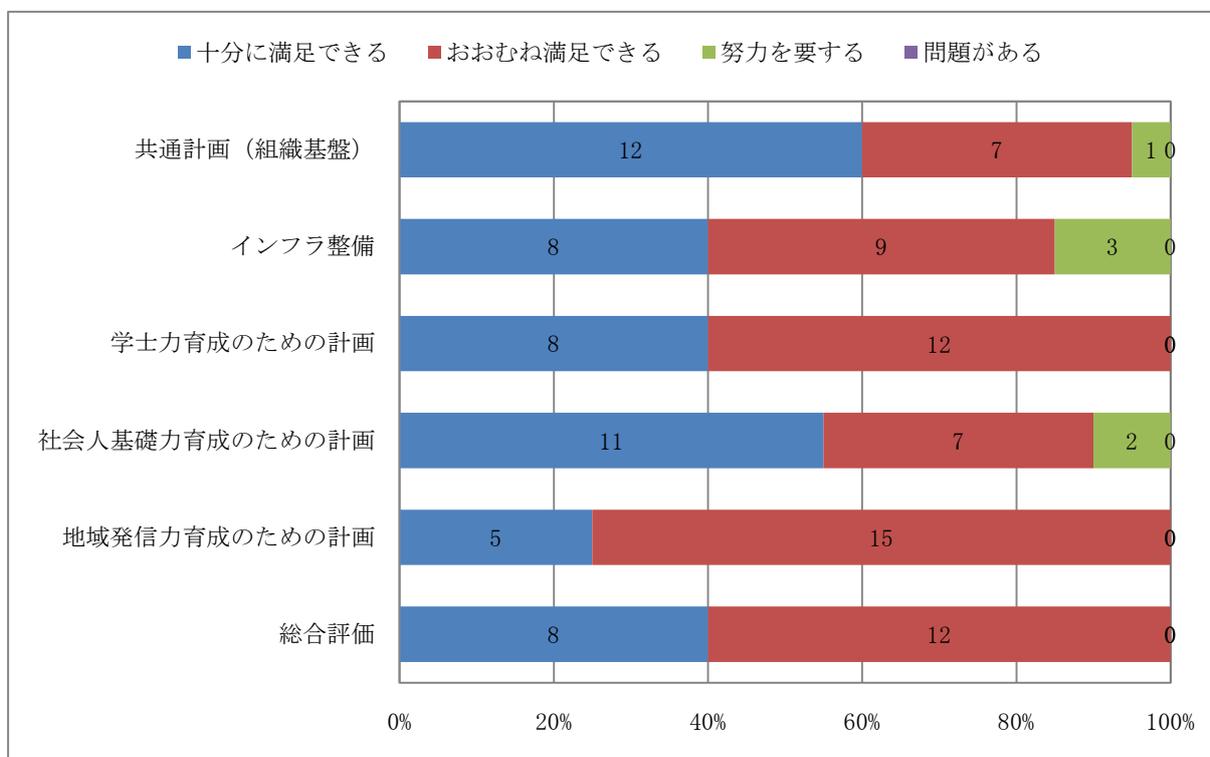
岡山オルガノン 大学教育連携センター

目 次

目次	1
1. 連携取組評価における集計結果	2
2. 連携取組評価結果の分析	2
3. 平成 22 年度補助事業実施計画	4
4. 平成 22 年度補助事業実施方針	5
参考資料	
1. 「岡山オルガノン」連携評価委員会要項	6
2. 平成 21 年度 連携評価委員会 名簿	7
3. 連携取組事業評価について	8
4. 評価報告全文	12

1. 連携取組評価における集計結果

連携取組評価における各点検項目別および総合の評価を集計した結果は以下の通りである。



2. 連携取組評価結果の分析

各点検項目別、総合およびその他の各コメント記述からそれぞれの項目について、「良好評価」「改善要求」の2つの観点から分析を行った。

2-1. 共通計画（組織基盤）

良 好 評 価	改 善 要 求
主幹大学や委員会の組織基盤の整備 先行事例の視察 連携間の連絡調整や情報共有体制の確立 設立記念シンポジウムの開催	各大学の役割の明確化 連携校間の連携協力意識の強化 情報発信・ホームページの充実 広報宣伝活動の展開 連携評価委員会の選定・現地視察の実施 連携評価委員会の実施方法 地域と一体となった取組の展開

2-2. インフラ整備

良好評価	改善要求
テレビ会議システムの整備 e-Learning 用パソコンの設置 単位互換の制度化 学習環境の多様化 教職員の意識向上	配信用コンテンツの充実 授業時間の検討 遠隔授業運用面でのノウハウの蓄積・共有 設置時期の年度末集中の回避 テレビ会議システムの 15 大学同時接続の実現 各大学の環境整備状況の公開

2-3. 学士力育成のための計画

良好評価	改善要求
i*See2009 の共催 吉備創生カレッジの活用 FD・SD シンポジウムの開催 授業評価アンケートに関する実質的な議論	科目提供大学数・科目数の増加 連携校間での履修しやすい科目選択 学生ニーズに応じた科目選択 FD・SD 活動に対する連携校の共通認識の向上 FD・SD 活動の協働体制の整備 各大学の共通課題の探求 サテライトオフィスの役割・方向付けの明確化

2-4. 社会人基礎力育成のための計画

良好評価	改善要求
実践的キャリア指導チームの組織化 キャリア形成講座プログラムの作成 職業指導のための体制強化	企業ニーズを踏まえた人材養成 キャリア教育指導者養成内容の充実化 キャリア教育における ICT 活用 大学間での連携・協働体制の強化 他大学への取組波及 受講者数増加と受講成果の具現化

2-5. 地域発信力育成のための計画

良好評価	改善要求
ボランティア・プロフェッサー科目の提供 産学（学生を含む）民の連携強化 双方向コンテンツ委員会での連携校への周知 会議でのテレビ会議システムの活用	講義内容・実施方法の検討 学生参画強化・学生教育への寄与の視点 地域が求める人材育成への取組 地域と大学の協働関係の構築 イベント開催の早期検討 共通イベントの連携校での周知 サテライトオフィスの役割・方向付けの明確化

2-6. 総合評価

良好評価	改善要求
次年度本格実施に向けた準備 連携校間の連絡調整・情報共有	全大学の協働体制作り 連携校間の意思統一 各大学が持つ特色を生かす 地域に対するアピール 継続的な事業展開 成果データの公表 負担や費用に関する将来的議論 実施時期の年度末集中の回避

2-7. その他

良好評価	改善要求
短期間での事業推進	学生が地域で活躍する場の提供 地域活性化や産業振興への貢献 持続可能性と将来的な事業負担の検討 より一層の代表校のリーダーシップ発揮 到達目標の共通認識と協働体制作り

3. 平成 22 年度補助事業実施計画

(1) 共通計画

- ①大学教育連携センターおよび各オフィスの運営
- ②「岡山オルガノン代表者委員会」の開催
- ③中間報告書の作成
- ④大学連携シンポジウムの開催
- ⑤平成 22 年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加
- ⑥「連携評価委員会」の開催、評価報告書の作成

(2) インフラ整備計画

- ⑦多地点接続装置の設置調整、9月より運用開始
- ⑧追加教材コンテンツの作成、8月～9月上旬に ICT 活用教材作成講習会の実施

(3) 学士力育成のための計画

- ⑨単位互換制度を活用した配信科目の内容の検討・協議・決定
- ⑩共同 FD 活動の取組内容の検討・協議・決定、1月に共同 FD・SD シンポジウムの開催
- ⑪共同 SD 活動を「吉備創生カレッジ」との業務委託により実施
- ⑫FD 研修事業「i*See 2010」の共催

(4) 社会人基礎力育成のための計画

- ⑬実践的キャリア指導チームによる連携校でのキャリア教育の検討・協議・試行実施
- ⑭「社会人基礎力養成」に関する共同SDワークショップの開催
- ⑮大学コンソーシアム岡山と連携した実践的体験型プログラムの実施

(5) 地域発信力育成のための計画

- ⑯ライブ型方式による遠隔授業の配信
- ⑰エコナイトの開催
- ⑱地域活性化シンポジウムの開催

4. 平成22年度補助事業実施方針

- (1) センターおよび各オフィスの役割分担の明確化
- (2) 年間活動計画を策定し、年間を通じてイベントの分散化および早期検討可能な体制整備
- (3) 補助金の適正使用を確認するための中間監査および会計経理担当者会議の実施
- (4) ホームページを活用した情報公開・情報発信の充実化
- (5) 単位互換科目履修生募集や学生参画イベント等の学生に対する周知徹底および呼びかけ
- (6) 本取組事業関連イベント等の地域に対する広報宣伝活動の連携校協力体制強化
- (7) 連携校独自のイベントや取組の共同開催の推進
- (8) 連携校教職員の本連携取組に対する連携・協働意識を高めるため、本事業取組を各大学の教授会等にて随時報告および学内での情報共有強化
- (9) テレビ会議システムや学習管理システムの有効活用に向けた各大学での検討実施
- (10) 連携校間の連絡調整時のメールおよび電話による二重確認の実施

(趣旨)

第1条 この要項は、岡山理科大学、岡山大学、岡山県立大学、岡山学院大学、岡山商科大学、川崎医科大学、川崎医療福祉大学、環太平洋大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、山陽学園大学、就実大学、中国学園大学、ノートルダム清心女子大学（以下、「構成大学」という）が、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムに基づく構成大学間の連携取組事業（以下、「連携取組事業」という）に関し締結した「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムの共同実施に関する協定書」第2条に基づき、連携評価委員会の組織及び運営に関し、必要事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 連携評価委員会は次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 構成大学が実施した連携取組事業の内容および成果の評価を行うこと。
- (2) 構成大学が実施した連携取組事業の内容に関して指導および助言を行うこと。

(組織)

第3条 連携評価委員会の組織は次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 有識者（産学官の外部委員）
- (2) 構成大学代表者（学長等）
- (3) その他委員会が必要と認めた者（学生を含む）

(委員長)

第4条 連携評価委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

- 2 委員長は、連携評価委員会の会議を主宰し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(委員会の成立等)

第5条 連携評価委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 連携評価委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 連携評価委員会は、必要があるときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 連携評価委員会の事務は、構成大学の協力を得て、岡山理科大学内に設置している大学教育連携センターにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、連携評価委員会に関し、必要な事項は別に定める。

(平成22年1月22日：岡山オルガノン代表者委員会にて承認)

(1) 有識者（産学官の外部委員）

所 属	職 名	氏 名
岡山県	副知事	古 矢 博 通
岡山県教育委員会	教育長	門 野 八洲雄
岡山経済同友会	代表幹事	中 島 基 善
山陽新聞社	代表取締役	越 宗 孝 昌
立命館大学共通教育推進機構	教授	木 野 茂

(2) 構成大学代表者（学長等）

所 属	職 名	氏 名
岡山大学	学長	千 葉 喬 三
岡山県立大学	学長	三 宮 信 夫
岡山学院大学	学長	原 田 博 史
岡山商科大学	学長	井 尻 昭 夫
川崎医科大学	学長	福 永 仁 夫
川崎医療福祉大学	学長	岡 田 喜 篤
環太平洋大学	学長	大 橋 博
吉備国際大学	学長	藤 田 和 弘
倉敷芸術科学大学	学長	添 田 喬
くらしき作陽大学	学長	松 田 英 毅
山陽学園大学	学長	赤 木 忠 厚
就実大学	学長	押 谷 善 一 郎
中国学園大学	学長	松 畑 熙 一
ノートルダム清心女子大学	学長	高 木 孝 子
岡山理科大学	学長	波 田 善 夫

〔本連携取組事業の目的〕

連携校間における（A）教養教育の充実・共同FD・SD活動による「学士力」育成、（B）実践的キャリア指導・社会活動参画による「社会人基礎力」育成、（C）地域連携による人材育成・地域貢献活動による「地域発信力」育成、という核となる3つの力の育成であり、これらの取組が地域一体となった実践の実現により、「岡山オルガノン」が構築され、岡山県から発信される地域創生型の人材育成へとつなげることです。特に本事業では、ネットワーク網で結ばれたテレビ会議システムの活用により、遠隔授業などの教育支援だけではなく、教職員や学生の交流を深化させていくための重要なコミュニケーション支援としての役割も果たし、これにより大学間連携の充実化を図りたいと考えています。

〔評価の目的〕

本連携取組事業の各々の取組を年度毎に振り返り、今後の継続的事業展開だけではなく、さらに発展的な取組へとつなげ、岡山県内の大学教育・学生サービスの質的向上を図ることを目的として点検・評価を行います。これを通して、成果や課題を連携校すべてにフィードバックし、各大学の特色を踏まえた上での大学教育充実に向けた改善を図る契機として活用します。

〔実施期間〕

平成22年3月15日～平成22年3月29日

〔評価規準・評価観点〕

（1）事業取組評価

- ①本連携取組事業の内容が目的に沿って適切な企画・実施がなされているか
- ②大学間の連携が適切に図れているか
- ③本事業のために導入した設備が目的達成のために有効に活用されているか

（2）地域貢献評価：

- ①産官民や高校との連携が適切に図れているか
- ②地域の担い手となる人材育成につながる取組となっているか

〔評価基準〕

- A：十分に満足できる（期待する効果が十分に見られる）
B：おおむね満足できる（期待する効果はあるが、未到達の部分もある）
C：努力を要する（期待する効果が見られない）
D：問題がある（期待する効果へとつながるよう計画がなされていない）

[取組点検項目]

以下の5項目について評価をしていただきます。各項目の詳細な取組については文部科学省に今年度事業として提出した交付申請書の内容を掲載しておりますので、ご参照ください。

(1) 共通計画（組織基盤）

- ①代表校に「大学教育連携センター」および3大学に「サテライトオフィス」、また「岡山オルガノン代表者委員会」の設置
- ②大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン」の開催
- ③「連携評価委員会」の設置、3月に連携評価委員会を開催し、評価報告書を作成
- ④平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加

(2) インフラ整備計画

- ⑤次年度以降の遠隔教育の単位認定の制度化と単位互換協定締結の準備（年内に締結）
- ⑥ネットワーク、サーバー、コンテンツ管理およびパソコン設置に係る業者の決定、2月以降にe-Learning用パソコンの設置調整
- ⑦ライブ教育配信用のテレビ会議システムの整備、1月以降に試行運用の開始
- ⑧ICT活用教材作成講習会の実施、次年度配信用コンテンツの作成

(3) 学士力育成のための計画

- ⑨FD研修事業「i*See 2009」の共催
- ⑩「吉備創生カレッジ」に対して共同SD活動事業の委託内容の検討
- ⑪各大学における教養教育配信科目の検討及び候補の決定、12月に教養教育配信科目の検討・協議・決定
- ⑫共同FD・SDシンポジウムの開催、11月頃より共同FD・SD担当者会議の開催

(4) 社会人基礎力育成のための計画

- ⑬実践的キャリア指導チームの組織化、1月に実践的キャリア指導チーム会議の開催
- ⑭キャリア形成講座の発展型事業の委託

(5) 地域発信力育成のための計画

- ⑮ボランティア・プロフェッサーおよびコーディネート科目内容の検討会議の開催、1月以降に配信コンテンツの作成
- ⑯七タエコナイトおよび地域活性化シンポジウム準備会議の開催

[評価報告書の作成について]

連携評価委員会開催当日に、大学教育連携センターおよび各オフィスの代表者より、各取組点検項目につきまして配布資料に従って概略の説明を致しますので、以下のとおり、本連携取組の評価報告書の作成をお願い致します。

- (1) 評価報告書は連携評価委員会の全委員にご提出いただきます。
- (2) 委員会から評価報告書の作成につきましては、上記で説明しました [本連携取組事業の目的] および [評価の目的] をご理解いただき、[評価規準・評価観点] に従い、評定およびコメントの記載をお願いします。
- (3) 評定は大項目ごとに [評価基準] の4段階評価をお願いします。コメント欄には、評定に基づき「優れている事項」や「改善すべき事項」など、記述していただくようお願いいたします。特に、評定で「C」または「D」の評価をされた場合は、課題や改善点など具体的に記述していただき今後の取組に反映させたいと思っております。また、各取組点検項目の小項目の番号 (①～⑯) について個別にコメントを記述される場合は、小項目の番号を分かるように付記してください。
- (4) 「点検項目別評価」と「総合評価」のそれぞれ記述の方をお願いします。「その他のコメント」につきましては、本連携取組についてご意見・ご感想等ご自由にご記入ください。
- (5) 行数・頁数など必要に応じて追加していただいて結構です。

《記入例》

評 定	Ⓐ B C D
コメント	<p>全般的に・・・について目標が達成できている。</p> <p>今後は・・・の点に注意して・・・の一層の充実を図るよう期待する。</p> <p>(あるいは、・・・の点で特に効果が得られているようであり、今後も一層・・・に注意して成果を出していただきたい。)</p>

評 定	A Ⓑ C D
コメント	<p>・・・に関してはおおむね目標が達成され、その効果が期待できる。ただし、・・・については一部まだ取り組みの遅れ(あるいは、・・・などに不十分な点)が見られるので、・・・に注意して、次年度以降には達成させる必要がある。</p>

評 定	A B Ⓒ D
コメント	<p>・・・を実施したことにより、・・・に大きな成果があがっているのは確かである。ただし、実施した・・・の取組(①)が部分的であり、・・・と・・・を目標にしている・・・への寄与は低いと考えられる。そのため、・・・の取組(①)と・・・の取組(②)については、・・・を整備し、・・・に対してより発展的な事業を展開し、・・・の向上を図るよう検討する必要がある。</p>

評 定	A B C Ⓓ
コメント	<p>・・・に関しては、事業の当初目標が充分達成されているとは考えられない。特に、・・・の点で問題が有ると思われるので、・・・に留意し、早急に実施体制や・・・を見直す必要がある。(あるいは、・・・のように目標設定を変更し、・・・のような効果が得られるよう見直す必要がある。)(あるいは、導入した・・・等の設備が・・・活用されていないようであり、今後は・・・のような適用方法に変更して、導入効果を得るよう努力されたい。)</p>

※句読点や誤字脱字等は修正、文体は原文のままとしている。

(1) 共通計画（組織基盤）

[評定 A：コメント]

- ・初年度の目標である組織基盤の整備については、設備・物品の購入や運営のための打ち合わせなどを通じ、概ね目標のレベルに達しているものと思われる。
- ・連携大学間で協定を締結し計画実施のための組織基盤は確立されている。また、構成大学間において、本事業で実施する目的も共有されている。本事業を実施するため3つのオフィスを設置し、設置大学がリーダーシップを発揮し事業計画を推進している。
- ・代表校に「大学教育連携センター」、3大学に「サテライトオフィス」、「岡山オルガノン代表者委員会」を設置したことにより、本取組全体の統括を行い連携校間の連絡調整や情報共有等の中心的な役割を果たしたことに大きな成果があがっていることを認める。また、連携評価委員会を設置し、実績報告による連携取組事業の各々の取組の評価を行うなど、本連携取組事業が目的に沿って企画・実施がなされている。
- ・当初予定されていた「大学教育連携センター」と3つのサテライトオフィスが組織され、それぞれに計画された事業を実施している。組織基盤としては、十分であるように思われる。それぞれの組織をお引き受け頂いた大学に、感謝申し上げる。
- ・実施計画で策定された①から④の事業を確実に実施したことにより、『岡山オルガノン』の本格稼動に向けた組織基盤の確立について大きな成果があがっているのは確かである。実施計画の①から④すべての取組についてほぼ計画どおりの成果が得られたと考えられる。今後は、この組織基盤をもとにスタートする様々な取組が、岡山県全体の教育力向上に資することができる期待できる。
- ・全般的に組織基盤に関しては、目標が達成できている。今後は、大学教育連携センター及びサテライトオフィスの機能と関連性(連携協力)の点に留意して一層の充実を図るよう期待する。
- ・当初の計画どおり、「大学教育連携センター」「サテライトオフィス」の設置、設立シンポジウムの開催など予定されていた事業を順調に進めてきており評価できる。細かい点であるが、HPの運用が不十分であり、整備が必要である。
- ・代表校の「大学教育連携センター」と3大学の「サテライトオフィス」を設置し、学士力・社会人基礎力・地域発進力の3つの基本目標の達成を目指して分担しながら連携していく基本組織がしっかりしており、組織基盤は強固であると言える。今後は、組織がスムーズに展開していくための具体的な取り組みや4機関間の連携協力体制を作っていく必要がある。
- ・代表校に大学教育連携センターをおき、3大学にサテライトセンターを置くという組織的整備は成功しています。その成果が、「ハッシン！岡山オルガノン」となったと考えています。合同フォーラムへの参加、評価委員会の設置も重要な成果であると評価いたします。
- ・代表校に「大学教育連携センター」および岡山理科大学、岡山商科大学、中国学園大学の3大学に「サテライトオフィス」を設置するとともに、センター及び各オフィスにコーディネーター及び事務連絡員を配置し連携校との連絡調整を綿密に行うなど、共通意識の強化及び連携校

間の相互協力の体制強化に大きな役割を果たすとともに各大学が抱える問題解決の場となる等大きな成果を上げることができた。

- ・計画していた「大学教育連携センター」「サテライトオフィス」「岡山オルガノン代表者委員会」はいずれも設置され、会議や先進地視察など行って順調な滑り出しを見せた。また設立記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン」も平成21年11月に開催され、事業の情報発信に寄与しており、事業を運営していくための組織基盤づくりが順調に行われたと評価できる。
- ・実質半年の間であることを考えると、いずれも十分に満足できる結果と思われる。とくに①は組織基盤として必須であるが、岡山理科大学にセンターを、岡山大学、岡山商科大学、中国学園大学にサテライトオフィスを設置し、それぞれにコーディネーターを配置したことで、組織基盤の第一歩は固まったと思われるので、今後は全連携校の実質的な連携を進めるための核としての役割が期待される。

[評定B：コメント]

- ・①本取組の運営体制は、短期間で予定どおり構築されている。②「ハッシン！岡山オルガノン」開催の趣旨には、学生、地域住民へのPRがあるが、学生数が少なかったのは残念。地域住民の参加者の記録がないが、何人だったのか。③連携評価委員のうち、大学関係者でない有識者に対しては、現地調査を実施すれば良かった。
- ・大学教育センター及び3大学のサテライトオフィス、代表者委員会の設置・運営については、各大学の速度感に合わせ進行している。ほとんどのサテライトオフィスについては、大学間連携の機運が高まっていた経緯も感じられ、スムーズな取り組みが行えた点が評価できる。一部のサテライトオフィスの取り組みについては、実態があまり見えてこない部分があり、さらなる情報発信を行っていただきたい。
- ・7月採択で3年計画の初年度であるため、この基盤整備は必須の事業となると考えられる。本年度事業計画の①、②、④についてはほぼ満足される効果があったと思われるが、③については、評価委員の選定や委員会の開催について、若干余裕がなかったこと、また事業の説明が文章と口頭によるものであったが、プレゼンテーションに工夫が必要ではないかと思われる。加えて、連携大学代表者以外の外部評価者が、本事業の基盤となった大学コンソーシアム岡山に関連するメンバーが中心で完全な外部が1名であったことは検討の余地がある。
- ・初年度であるため準備期間が比較的短かったが、補助事業実施計画に沿って、共通した組織基盤(①)が立ち上がったことは大いに評価できる。ただし、3大学に設置された「サテライトオフィス」の活動の進捗状況に差がみられる。また、創立記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン」への参加状況にかなりの温度差がみられ、参加していない連携大学が散見されることは、連携事業の趣旨からして、今後の工夫・改善が求められる。
- ・本事業決定後、すみやかに「大学教育連携センター」と3箇所の「サテライトオフィス」が設置され、それぞれの事業がスタートしていることから、おおむね計画どおりに進んでいると評価できる。しかし、②の設立シンポジウムについては、実施内容や参加者の人数等をみると事前の準備や広報が十分とは言い難い。連携校、地域とより一体になった取り組みのしかたが期待される。
- ・この項目は、本取組の今後の成果を左右する極めて重要な、組織基盤に関するものであるが、組織づくりである①③の取組により、体制が整い、また、組織の運営についても、コーディネ

ーター会議での検討、先進地の調査等に取り組んでおり、今後の適切な組織運営が期待できる。ただ、関係者の本取組への周知、意識向上を図る②の取組で、パンフレットの作成が年度末になったが、組織立ち上げ期の機運の醸成に活用できていれば、より効果的であったと考えられる。

- ・代表校に「大学教育連携センター」および3大学にサテライトオフィスが設置されたことにより、連携校間の連絡調整や情報共有等取組全体を統括する体制が整い、今後3年間の事業展開を図る基盤整備できたことは、大きな成果である。今後さらに、大学間の連絡・調整を密にし、オルガノン全体としての活動ができるよう、組織基盤の強化が望ましい。また、連携評価委員会は、PDCA サイクルによって事業の質的向上を図る重要な組織であり、今後その機能が十分に生かされ、各大学の取組の改善や、全大学による地域創生型の人材育成の充実が図られることが期待される。シンポジウムの開催やパンフレットの作成・配付等により、取組の目的や内容等についての広報が図られているが、関係団体等を含めて産学官民の共通理解の一層の促進や、地域に対しての発信が必要であると考えられる。

[評定 C : コメント]

- ・「大学教育連携センター」やサテライトオフィスの設置、代表者委員会等の委員会の設置など組織作りは順調に進捗している。ただし計画が多岐にわたり検討や整備しなければならないことが多く、中心となる大学教育連携センター等に負荷が掛かりすぎのためと思われるが、全体の見通しが悪く、委員会相互の連携を改善する必要があるように思われる。

(2) インフラ整備

[評定 A : コメント]

- ・次年度以降の遠隔教育の単位認定の制度化と単位互換協定締結の準備は、e-Learning 用の各機器を15大学に対して着実に配置整備を実施したことにより、インターネット等を用いることによる多様なメディアを高度に利用して授業を行うための基盤整備に大きな成果があがっていると認める。
- ・15大学の単位互換が円滑に制度化できたことは評価できる。インフラ整備について、特にライブ配信講義を中心とした設備については、順調に設置できたことが評価できる。提供する科目については、専門の異なる大学でも履修しやすい科目を選択するなどの対応が必要ではないか。
- ・実施計画で策定された⑤から⑧の事業を確実に実施したことにより、『岡山オルガノン』の中核をなす e-Learning およびライブ教育配信ためのシステム環境の整備が整った。この結果、ネットワークで結ばれたテレビ会議システムの活用により大学間連携の充実化のための環境が整い、今後、遠隔授業だけでなく、教職員や学生の交流を深化させていくことができると考えられる。
- ・インフラ整備の⑤の点で特に効果が得られているようであり、今後もライブ教育配信用テレビ会議システムの整備について留意し、成果を出していただきたい。
- ・インフラ整備(⑤～⑧)も、補助事業実施計画に沿ってほぼ順調に進められている。遠隔教育の単位認定の制度化(⑤)については、大学コンソーシアム岡山との関係をより明確にして、円滑な運用がなされるよう検討する必要がある。ライブ教育配信用のテレビ会議システムの整備(⑦)は、予定通り試行運用が開始されている。3月23日に開催された「地域活性化委員会」

には、本学が学位記授与式のためテレビ会議で参加したが、画像や音声および機器の操作方法にも問題はなく非常に有効であったとの報告を受けている。

- ・遠隔教育の単位認定の制度化と単位互換協定締結への準備やテレビ会議システムなどの整備への準備が着実に進められていて、システム試行運用も進んでいて、準備段階としてはインフラ整備が着実に進んでいると言える。今後は、配信用コンテンツの作成やシステムの実際運用に向けた連携協働体制をしっかりとしたものとして整備していかなければならない。
- ・全提携校に e-Learning を活用した単位認定制度の整備（パソコン整備を含む）、テレビ会議システムの整備等により各大学の学生の学習環境の多様化及び教職員の意識向上にも大きな役割を果たしている。ライブ型授業を実施することにより学生は所属大学内の教室において他大学の授業を受講できることは学生の他大学への移動する必要がなくなり、学生が他大学の授業を受講することに大きな役割を果たすことができる。
- ・ネットワーク、サーバー、コンテンツ管理およびパソコン設置に係る業者決定、eラーニング用パソコンの設置調整が平成 21 年度内に完了した。次年度配信用コンテンツには加計教育コンソーシアムで使用しているものを借用する工夫も図られ、本事業の中核を担う TV 会議システムや、eラーニングのためのインフラ整備は順調に行われたと評価できる。いっそうのコンテンツ充実を期待したい。

[評定 B : コメント]

- ・ハードの整備については、ほぼ目標に到達している段階と評価できるが、運用に関するコンテンツ、ノウハウの集積段階には至っていない。今後、コンテンツの充実が必要である。
- ・遠隔教育のためのネットワーク等、および各大学間における単位互換協定の準備も順調に進展している。初年度ということもあり、スタートが少々遅れたが、年度内にはほぼ計画通りの水準に到達できるものとする。
- ・ネットワーク、サーバー等のハードの準備は計画通りに進んでおり、すでに使える状態になっている。Live 方式での e-Learning については授業時間のすり合わせに問題が残っており、VOD 方式での e-Learning については、コンテンツの作成が遅れ気味である。
- ・具体的な事項なので事務的に処理が進められることが多く、日程的にきつい条件の下に順調に進んでいると思われる。実際に導入した ICT 機器を使ってみると問題点も出てくると思われるので、遠隔授業のみならずいろいろな場面で使用する機会を作ることが重要と思われる。また e-Learning 用コンテンツ制作のノウハウを連携大学に広げる活動も重要である。
- ・遠隔授業における単位互換協定の締結、ネットワーク等に係る業者選定、テレビ会議システムの整備など計画どおり進めており、遠隔授業を受配信することができるようになった。次年度以降もハード面での整備が必要であるが、各大学に満遍なく設置されるようお願いする。
- ・各大学に、ライブ型遠隔授業配信システム、e-Learning 用パソコン等が順次設置されており、設備の準備は着実に進んでいると評価できる。しかし、⑦事業 2 年目のスタート時点ではまだすべての連携校においてライブ型遠隔授業用システムが利用できる状態になっていない点については、速やかな対応が必要と思われる。
- ・この項目は、来年度以降の遠隔教育を円滑に実施するための準備に関するものであるが、遠隔教育の単位認定制度や単位互換制度の整備に関する⑤の取組は適切に実施できている。また、ハード整備に関する⑥⑦の取組も年度内に終了し、順調に進められている。事業実施が年度後

半になったため、やむを得ない部分もあるが、ハード整備が年度末になったことから、⑧の取組が十分実施できたのか危惧される。

- 学生が大学を移動することなくライブ配信で授業を受けることができるようハード面の整備が順調に進んでおり、実施に向けての環境が整っている。今年度中に、VOD教材の作成方法等の研修も行われているが、学生にとって適切かつ魅力的なVODコンテンツの作成・蓄積が重要であり、今後はその充実を目指すことが求められる。
- インフラ整備として必須の⑥⑦が順調に進んでいるようなので、おおむね満足できるが、⑧については実際に単位互換の科目配信が始まらないと何とも言いえないので、未到達な部分を含んでいる。

[評定C：コメント]

- ⑤～⑧オルガノンとしては、必要なインフラ整備は整えられているように思う。しかし、15大学間では進行速度に多少の差が生じているのではないかと、その部分が不明。各大学のハードの整備及び単位認定等の学内規程の改正の現状を一覧表にして公表すべきである。そのデータに基づいて、本評価は行うべきである。
- インフラ整備についても7月採択で3年計画の初年度であり、かつ15大学の連携という裾野の広い事業計画であるため、順調に推移させることへの困難さは容易に想像できる。しかし、⑤～⑧について、特に⑦は、次年度初頭からライブ遠隔授業を実施するため、その準備がかなり切迫した状況で行われた。各大学が入試や年度末の多忙な期間であったため、若干綱渡りであったことは否めない。努力と労力を注ぎこまれたことは十分に認識しているが、この運用がもう少し早い時期に行われていればと思い、C評価とする。
- 単位互換協定は必要な事柄です。テレビ会議システムの導入、パソコンの設置等スムーズであったと思います。ただ、ネットワークの一層の充実と使いこなしのノウハウの蓄積の面で、まだ不安が残ります。ライブ授業の実施の際の細かな条件等に、これから詰めるべき点があるように思います。また、ICT教材の作成・運用等の面でも、ノウハウの蓄積・共有にさらに努めるべき点が多いと思います。

(3) 学士力育成のための計画

[評定A：コメント]

- 共同SD、共同FD・SDシンポジウムの試みは、大きな成果をあげつつある。シンポジウムや講習会などでは、優良校の発表となることが多く、様々なレベルの大学の実態を知ることはほぼできない。今回の試みは、その意味で実質的な議論を行うことができ、有意である。今後の発展が望まれる。
- 共同FD・SD、学生参画のFD等を実施したことにより、FDは学生と教職員も教育改善活動の補助的役割にとどまらず主体的に関与すべきであるという認識を学生自身が持つことができるようになるなど学士力育成に大きな成果があがっていると認める。また、ICTを活用した授業配信の取組も学士力育成のために着実に進捗していると認める。
- FD・SDシンポジウムの開催について、FDの第一人者による講演会の実施、参加大学のFD・SD活動情報の共有化が行えたことが評価できる。

- ・ 学士力育成のための計画については、全般的に目標が達成されている。今後は、共同 FD・SD の担当者会議のあり方に留意され、一層の充実を図っていただきたい。
- ・ FD・SD については、具体的に実施され、また、シンポジウムも開催され大きな成果もあったと認められる。ライブ型遠隔授業も次年度からスタートすることになり、順調に進めてきている。科目については今後とも検討して、学生のニーズに添った科目を配信できるように期待する。
- ・ 共同 FD・SD 活動事業への準備と担当者会議や FD 研修事業などの具体的展開が始まっていて、学生主体の教育改善活動は非常にユニークで、全国的な反響も大きく、大変好ましいことである。今後は、とかく当該サテライトオフィスだけの主体的な展開となりやすい問題を、どのように各大学の協働体制を整備することによって解決していくかが大きな課題となる。
- ・ FD 研修事業の開催、共同 FD・SD シンポジウムの開催等により学生目線による教育改善活動及び連携校の授業評価アンケートの有効性の確認等に大きな役割を果たすことができた。各大学における教養教育配信科目の検討等により連携校間の教養科目の受講が可能になり、学生の主体的学びの促進及び地域で生きる学生の育成にも役立つものであると思う。また連携校間で教養科目を共有することは非常勤講師の確保にも道を開くものである。
- ・ FD 研修事業「i*See 2009」の共催、FD・SD シンポジウムの開催、吉備創生カレッジの活用により、教職員の資質向上を図った。また各大学における教養教育配信科目の検討が行われ、次年度は岡山商科大学、倉敷芸術科学大学、川崎医科大学の 3 大学から 5 科目の配信が決定され、大学間連携が具体的に動き始めたと評価できる。配信科目については、他の大学も含めたさらなる科目数の充実が図られるよう期待したい。

[評定 B : コメント]

- ・ 初年度ということもあり、スタートが少々遅れたが、当初の計画は年度内に実施できるものと考ええる。
- ・ ⑪教養教育科目を主に配信する計画であるが、教養科目は各大学とも初年時に設定されていることが多い。初年時は各大学の教員による講義をまず学生に聴かせて、高年次になってからオルガノン科目を活用するのが良いと考える。その場合に、高年次向きの教養科目を配信するようにプログラムを組むべきと思う。⑫FD、SD 共に各大学の当面の共通の課題を探求し、それを解決する手がかりを見出すような内容及び方法を採用するとよい。
- ・ 学士力育成について、⑨～⑫の取組は FD/SD のシンポジウム企画など順調に推移したと感じられる。ただし、⑪で示されている ICT を用いた授業配信については、本年度は基盤部分の整備が中心となっているためか、地域発信力育成担当サテライトオフィスに委ねられている印象があり、学士力育成担当サテライトオフィスでの事業内容や担当が明確になっていない感じが否めない点が残念である。次年度以降に、メインオフィスからの方向付けも含めて、判り易く活動することが望まれる。
- ・ 当初計画されていた事業（i*See 2009、吉備創生カレッジにおける共同 SD 研修、共同 FD・SD シンポジウム）はすべて実施された。本学の場合、大学の理念（医療福祉の創造的担い手の育成）がやや特殊であるため、一般大学と共有できない部分もいくらかある。可能な限りの協力は惜しまないつもりである。

- ・実施計画で策定された⑨から⑫の事業を確実に実施したことにより、『岡山オルガノン』の本格稼働に向けた学士力育成のための研修活動について大きな成果があがっているのは確かである。ただし、これらのFD・SDの取組を学士力の育成にどのように結び付け、活用していくのかについて、さらなる協議や趣旨の周知をより広範囲に行うことができれば、より多くの関係者に本取組の意義が理解されるのではないかと考える。
- ・学士力育成のための計画では、初年度はFD・SDに重点が置かれているが、次年度以降は年次計画に沿って、中心的な課題である学士力そのものの内実やその育成方法について具体的な取り組みの展開が期待される。3月14日に開催された「共同FD・SDシンポジウム」(⑫)は、学生による授業アンケートの成果や課題に関する基調講演に加えて、15大学が相互に情報交換・意見交換するイベントであり、連携事業として多く成果を得ることができている。
- ・全体の計画は順調に進んでいる。FD・SDに関するオルガノンの事業への各連携大学の取組みには跛行性がみられるし、また各大学で独自に進めてきたことな連携して進めようとする機運を高める必要がある。
- ・担当大学においてすでに実績のあるFD活動や、「吉備創生カレッジ」という既存の組織とうまく連携して本事業をより活発に推進しようとする試み、またFD・SDシンポジウムにおける大学間の情報共有や率直な意見交換は、連携事業にとって意味のあることと評価できる。一方⑩については、当初の計画に比べ遅れが見られ、また連携大学との連絡・調整も十分ではないと思われる。この点については2年目の着実な推進を期待する。
- ・i*See 2009、吉備創生カレッジのSD科目は好評で、よい成果をあげたと考えます。FD・SDシンポジウムも、授業評価のあり方を問うよい結果を残したと思います。教養教育科目配信については、その具体的な実施に関して細部にまだ詰める点があるように思います。
- ・FD、SD活動の充実を図る⑨、⑫の取組は、適切かつ効果的に実施できたものと考え。また、来年度に向けた準備となる⑩、⑪の取組も、適切にできているが、⑪の取組について、費用対効果の観点から、配信科目のさらなる拡大を期待したい。
- ・共同FD・SDシンポジウムや共同FD・SD担当者会議が開催されるなど、連携校においてFD・SD活動に積極的に取り組む必要性が共通理解されたことは成果であった。特に、FDの内容について、本事業の目的である学士力向上につながるかという観点で、さらなるブラッシュアップが望まれるとともに、来年度以降具体的な取組（例えば授業改善、授業評価の実施等）として、各校において実践されるよう検証を行っていく必要がある。また、教養教育配信については、連携校となっている各大学がそれぞれに特色ある科目を配信することができるよう、準備を進めることが求められる。
- ・⑨⑩⑫は、いずれも十分に満足できる。⑪の次年度以降の単位互換のための開講予定科目は初年度とはいえ、提供大学も科目数も少ない。ICTを活用した教養教育の共有化は岡山オルガノンにとっては魅力のあるものとして期待されるので、提供科目の開発にもっと力を入れることが望まれる。

(4) 社会人基礎力育成のための計画

[評定 A : コメント]

- ・⑬講座プログラムやカリキュラムを作成し、具体的に実施した結果を検証し、評価もなされたとのことで、取組が充実し進展しているように思う。学生のニーズを調査した上でテーマをしぼって、チームとして結束して活動したのが成功の要因であると考えている。
- ・実践的キャリア指導チームの組織化、1月に実践的キャリア指導チーム会議の開催、キャリア形成講座の発展型事業の委託等を実施したことにより、各大学で現在不足しているキャリア形成教育担当教員の確保につなげられると共に、平成23年度から義務化される職業指導（キャリアガイダンス）のための体制強化にも大きな成果があがっていると認める。
- ・社会人基礎力については、本事業の端緒となった母体である大学コンソーシアム岡山からの委託事業やその発展形を実施するという形態であったため、比較的円滑に実施されたと考えられる。十分な成果は出ているように感じられるが、今後は、キャリア指導の指導員育成の面でも、あるいは参加する学生数の面でも、拡大を目指して実施されるべきであろう。
- ・実施計画で策定された⑬から⑭の事業を確実に実施したことにより、『岡山オルガノン』の本格稼働に向けた社会人基礎力育成のために大きな成果があがっているのは確かである。特に、「キャリア形成講座の発展型事業の委託の取組」（⑭）は、受講学生の評価も高く、今後の連携校間での社会人基礎力の育成のための講座展開の取組に重要なヒントを与える良い取組であったと考える。
- ・全般的に目標が達成できており、今後一層の充実を図るよう期待する。
- ・実践的キャリア指導チームの組織化ということで、第一次チームを形成して、新カリキュラム・新プログラムを作成し、テスト実践などを企業・大学・高校で進めており、成果が期待できる。多くの学生が受講できるように広報などの検討を望む。
- ・地域の実践的キャリア指導のチームづくりや、学生自身のキャリアアップのための講義・演習を受講できる体制づくりとともに、次年度以降のキャリア形成講座への準備などが着実に進められていて、今後の成果が期待できる。今後は、各大学の連携協働体制と、講座の具体的内容・方法が受講学生の希望に沿うものとなって受講者数増と受講成果につながるような方策をとることが大きな課題となる。
- ・地域の実践的キャリア指導チームの組織化、キャリア形成講座の発展型事業の委託により各大学で不足しているキャリア形成教育担当者を確保できたとともに、多くの学生がキャリア教育を受講できる環境が整い学生のキャリア形成の体制を整えることができた。
- ・本項目に関する取組については、担当するサテライトオフィスの熱意が感じられ、⑬の取組では、次年度への展開可能性が見えてきており、高く評価できる。今後、さらに企業等のニーズを踏まえた人材の養成を期待したい。また、⑭の取組では、キャリア形成講座が、コンソーシアムでのこれまでの経験を踏まえた、さらに質の高いものとなることを期待する。
- ・実践的キャリア指導チームが立ち上げられ、企業・団体、大学、高等学校において試行を行うなど、積極的に講座プログラム案の検討がなされたことは、次年度に向けての基盤となったと考えられる。また、これまで大学コンソーシアム岡山が実施してきたキャリア形成講座の実績を踏まえての展開が構想されており、効果的な事業となることが期待できる。
- ・大学コンソーシアム岡山で実施したキャリア形成講座の成果を総括し、さらに発展させた新たなプログラムを作成。大学コンソーシアム岡山へ事業委託し、これまで培ったノウハウ、資産を次年度以降、有効活用するための道筋をつけた。また産業界からも人材を集めたキャリア支援指導チームづくりも綿密に行われ、次年度以降の展開に道筋をつけたと評価できる。

[評定 B : コメント]

- ・大学教育にはキャリア教育が義務化されたが、実際の教育にあたる人材は非常に少ない。このため、キャリア教育実務者の育成は急務である。しかしながら、現段階では学生を対象とした実践事例は数あるものの、指導者養成への動きは十分とはいえない状況と評価する。
- ・初年度ということもあり、スタートが少々遅れたが、当初の計画は年度内に実施できるものとする。
- ・担当サテライトオフィスから、他のオルガノン参加大学に対する働きかけが見えてこない。キャリア教育は重要なことであるので他大学へ取り組み内容を波及させるような一層の努力が求められる。
- ・初年度のためか、社会人基礎力育成に関する連携大学間における連絡調整が必ずしも十分ではないように思われる。15大学が相互に連携して活動するという本事業の趣旨の実現に向けて、これまで以上に連携大学を巻き込むための工夫や努力が求められるのではなかろうか。
- ・今年は準備期間ということで、計画は順調に進んでいる。具体的成果は来年度に期待する。
- ・キャリア形成講座の組織化、体系化が順調に進んでいるように感じました。今後は、それを連携校の取組としてどのように具体化するかに、力を注ぐことが必要かと思います。
- ・講座の内容はよく考えられており、十分満足できるが、新講座の企画案が諸事情により変更となったようで残念である。キャリア形成講座においても ICT 活用の可能性について検討してはどうか。

[評定 C : コメント]

- ・本学の特殊性が最も大きな足枷となる事業である。社会人基礎力は、分野によらず共通した社会人としての基礎的な力という意味であろうが、現場で必要とされる基礎的な力は必ずしも共通とは言い切れない。医療福祉は人の生命・生活に直接関わる職種であるため、一般的なキャリア教育（自己実現）では対応できない部分がある。
- ・現在までに実施してきたキャリア指導チームの組織化、講座のプログラム内容などが、各大学が現在行っているキャリア教育の支援に具体的にどのように資するのか現時点では見えてこない。また大学コンソーシアムへの事業委託という形での展開では、本事業が目指す連携取組としては不十分と考えられ、連携校にとって実質的に意味のあるキャリア教育支援となるような展開の仕方が望まれる。

(5) 地域発信力育成のための計画

[評定 A : コメント]

- ・ボランティア・プロフェッサーおよびコーディネート科目内容の検討会議の開催、1月以降に配信コンテンツの作成及び試験配信、七夕エコナイトおよび地域活性化シンポジウム準備会議の開催等を実施したことにより、これらの取組が、学生・企業・地域・大学との連携が深まり、学生のための地域が求める人材育成に大きく貢献できるものであることが確認できたので大きな成果があったと認める。

- ・双方向コンテンツ委員会をいち早く組織され、ボランティア・プロフェッサー科目の提供を紹介したこと、またライブ配信講義の受講体験をさせるため、テレビ会議システムを利用した委員会を開催したことが評価できる。
- ・ボランティア・プロフェッサー科目やコーディネート科目の配信コンテンツの作成や地域活性化シンポジウム会議への準備体制づくりなどが綿密に進められていて今後の成果が期待できる。今後は、「双方向コンテンツ委員会」などでの具体的実施内容・方法を明らかにし、どのように地域連携を進めるかの体制・内容・方法の開発に力を入れるべきである。
- ・テレビ会議システムを利用して企業の経営者等が実施する「ボランティア・プロフェッサー科目」のライブ配信を試験実施する等次年度以降の本格実施に道を開くとともに学生の地元経済・社会への理解を深めることができ、学生・企業・地域・大学の連携を深めることができた。また七夕エコナイト及び地域活性化シンポジウムの開催により学生の環境教育の実践的活動の実施及び地域住民との交流に役立つとともに学生が地域住民との協働できる取り組みに役立つことができた。
- ・岡山商科大学と岡山大学で行われているボランティア・プロフェッサー科目は、協力している岡山経済同友会にとっても看板事業となっており、テレビ会議システムを使用した遠隔授業を実施することにより、さらなる産学連携が期待できる。学生と地域住民が協力しあえる「七夕エコナイト」の実施とあわせ、次年度以降、地域と大学が協働関係を深めることで、地域に開かれた大学づくりに向けたさらなる事業展開が期待できる。

[評定B：コメント]

- ・地域発進力育成に向けた講義科目も準備され、地域活性化に向けたシンポジウムの準備も軌道に乗っている。
- ・⑮大学では開講が難しい講義が用意されており、学生のやる気を誘発することが期待される。その検証及び評価は次年度の活動に委ねられる。
- ・地域発信力について、サテライトオフィスが実施していた事業を組み込んで発展形で充実させる試みは評価できる。しかし、学士力育成の e-Learning 方式のライブ単位互換授業の実施拠点と、地域発信力のサテライト拠点とが相互に乗り入れしている状況は、本事業全体の構想と組織構築において、個々のサテライトオフィスの役割分担と連携協力体制の境界が曖昧な印象を拭えない。次年度以降は、この辺りの整備も必要な印象を受ける。
- ・本格的な活動は来年からであり、今年度はその準備であろう。計画された事業（ボランティア・プロフェッサーの検討会議、七夕エコナイトの準備会議）はすべて実施されている。地方の大学として、地域との連携は決して無視できない視点であり、それぞれの特徴を生かした地域連携をどのように統合するか、今後のさらなる検討が必要と思われる。
- ・実施計画で策定された⑮から⑯の事業を確実に実施したことにより、『岡山オルガノン』の本格稼働に向けた地域発信力育成のための準備が進んでいるのは確かである。ただし、実施した⑯七夕エコナイトおよび地域活性化シンポジウム準備会議の開催については、実施時期について新年度に向けての人事異動もあるため、もう少し早い段階で実施していただけた方がありがたかった。
- ・地域発信力育成のための計画については、概ね目標が達成され、その成果が期待できる。ただし、大学のみでなく地域と一体化して進めるプログラムの導入などを検討して欲しい。

- ・補助事業実施計画に沿って地域活性化委員会が立ち上がり、3月23日に委員会が開催され、連携大学における地域活性化をめざした取り組みが紹介された。今年度は各大学それぞれの取り組みが紹介されたが、次年度以降は地域発信力育成のために、大学相互の“連携”あるいは“つながり”を重視した事業展開を検討する必要がある。その意味でも、平成22年7月に実施が予定されている「七夕エコナイト」の成功に向けての周到な準備が期待される。
- ・来年度にむけて準備計画は順調に進んでいる。具体的成果は来年度に期待する。とくに大学が連携して地域活性化に寄与できそれが学生教育に繋がるよう期待する。
- ・次年度以降の実施に向けての準備段階であり評価し難いが、委員会は開催されており計画とおりに進められている。本学は、「エコナイト」について全く知らない状況であり、参加し易い広報を期待する。
- ・ライブの遠隔授業の試験的配信の実施、地域活性化委員会における連携大学間での情報交換・共有など、次年度の事業に実質的に結びつくような活動が進められていることは評価できる。ただし、「ボランティアプロフェサ科目」「コーディネート科目」の内容や、連携組織として地域の活性化へどう取り組むかについては、さらに十分な検討を行なうことが必要である。
- ・ボランティア・プロフェッサー科目、コーディネート科目については期待されます。これらを共同配信することは、学生に対しても社会に対しても十分に有意義な活動になるものと評価しております。
- ・⑮の取組については、次年度に向けて準備が確実にできていると考えられる。⑯の取組では、今後、地域活性化シンポジウム開催に向けた検討を行うとのことであるが、「地域活性・環境教育の創出」「地域人材の活用」「地域貢献活動」といった地域発信力育成というテーマに合致したものとなることを期待する。
- ・同時双方向テレビ会議システムを活用し、ライブ方式で講義を受講することができるようシステムが構築されたことは、連携校間で単位互換制度を充実させていくことに大きな成果があったと考えられる。また、ボランティア・プロフェッサー科目の活用は、学生が企業や地域に対する関心を高め、地域で活躍できる人材育成につながるため、今後一層の充実を期待したい。今後、単位互換制度が有効に活用されていくためには、双方向コンテンツの内容の充実や受講環境の整備などが不可欠であると考えられる。地域住民と学生の交流促進については、連携校でエコナイトの実施に向けた準備が進んでいるが、さらに各大学において取り組まれている地域と連携した研究に、学生が参加・参画できるような仕組みづくりを行うなど、地域が必要とする人材育成に向けて幅広い取組を期待したい。
- ・地域発信力育成のために双方向ライブ遠隔授業とeラーニングとしてのVOD講義の準備がテレビ会議システムを活用して進められていることは認められるが、今後の講義展開およびその効果の全体像を明らかにする努力が望まれる。

3. 総合評価

[評定A：コメント]

- ・代表校に設置された「大学教育連携センター」、3大学に「サテライトオフィス」、「岡山オルガン代表者委員会」が、本取組全体の統括を行い、連携校間の連絡調整や情報共有等の中心的な役割を果たしたことで全ての取組に大きな成果をもたらしたものと認める。

- ・初年度にしては、各大学の速度差があるにもかかわらず、コアになるライブ設備も設置でき、事業の取り組みについて、見通しがついた。今後、このシステムを活用し、どのような成果が出せるのか、さらなる努力が期待される。
- ・学士力、社会人基礎力、地域発信力の3つの力の育成を図るため、1. 大学連携推進のための組織体制を整え、2. シンポジウム開催、専門家チーム編成、単位認定制度確立等により、関係機関に対して事業内容の周知徹底を図るとともに、3. 本事業推進に不可欠であるインフラ整備、テレビ会議システムの試行運用、ICT活用教材作成講習会を実施することにより、次年度以降の本格的な事業展開に向けた準備を行うという本補助事業の本年度の目的が十分達成されたと考えられる。
- ・全般的に目標が達成できている。今後は、上述のコメント内容に注意して一層の成果が得られるよう期待する。
- ・初年度ということで、インフラの整備、諸計画実施に向けての委員会の開催など準備段階であるが、全体的に計画通り実施されており評価できる。次年度以降の実施に期待している。
- ・採択後半年という短期間であったにもかかわらず、「センター」と「サテライトオフィス」とを核とした諸準備が精力的に進められ、次年度からの実質的な事業展開への期待が大きく膨らんでいる。課題としては、中核4大学の連携と他の11大学との協働体制づくりを精力的に進めるとともに、単発的な事業の集積に終わることなく、岡山県内の総合的の大学力を増進することを目標とした連携・協働を進めなければならない。
- ・計画初年度であるにもかかわらず、ほぼ当初の計画通りに実施しており目的である「学士力」「社会人基礎力」「地域発信力」の育成に着実に道筋を付けており次年度以降の更なる発展が期待できる。本計画を完遂することにより岡山県全体の学生の学士力向上は勿論のこと、学生が在学中から主体的に地域貢献活動に積極的に取り組むことにより、地域活性化の担い手として卒業後も地域での活躍が期待できるものである。
- ・全体的に、順調に滑り出した印象を受ける。参加校が15校と多く、事業も多岐に渡るため、意思統一には困難も予想されるが、各校の連携・調整を十分に図り、「木を見て森を見ず」にならぬよう、「地域発信力」「学士力」「社会人基礎力」の向上という所期の目的達成を目指し、引き続きご尽力いただきたい。

[評定B：コメント]

- ・15大学の参加によるオルガノンであり、連帯の活動は簡単ではない。初年度の活動としては、困難な環境の中、良好な活動結果であると評価する。
- ・計画された諸課題はほぼ準備が完了している。次年度からの本格実施が期待できる。
- ・全般的に短期間に予定の計画をほぼ達成できているように思う。その成果を具体的に（定量化できるものは定量化して）表面に出すことが必要。評価は、公表されたデータの裏付けの基に行わねばならない。
- ・種々のコメントを加えてきたものの、7月採択で実質半年間の事業としては十分な進捗状況であり、また内容も当初の目的に合致したものとなっていると感心する。ただし補助金で賄われる3年間とその後、母体に近い大学コンソーシアム岡山への吸収によって、各連携校の費用や実施事業に関連する負担に関して、十分な議論のないままに推移することは、やはり協力と連

携を謳う限り、極力避けるべきであろう。十分な理解と合意の中で遂行、発展させていくべき性格のものであらうと感じられる。

- ・計画されていた事業はほぼ順調に実施されており、大きな問題があるとは思えない。ただ、複数の大学が連携する場合、それぞれの特殊性を損なうことなく、むしろ積極的な多様性として利用するには、それなりの知恵を絞る必要がある。
- ・初年度に予定されていた基盤整備を、総じて順調に進めることができた点は大いに評価できる。ご尽力いただいた代表校の「大学教育連携センター」および3大学の「サテライトオフィス」、そして連携大学の関係者の皆様に対して、厚く御礼申し上げる次第である。15もの大学が連携することは必ずしも容易ではなく、大学間に少なからず温度差がみられることはやむを得ないことである。基盤整備も進んでいることから、次年度以降は連携をより深めることに重点を置いた事業展開が求められる。
- ・全体の計画は順調に進んでいる。各連携大学の取組みやこの事業の認知度に跛行性がみられるように思われる。各大学で全学的な取組みにできるようにさらなる連携を期待する。
- ・準備時間の不足によるものか内容的に不十分と思われる事業や、連携事業の進め方としては改善の望まれる点がみられるのも事実である。これらの修正を図りながら、より発展的な展開が期待される2年目の事業につなげていく必要がある。ともあれ、15大学連携という大きな取り組みであり、補助金交付決定から実質的に半年間での実績としては、おおむね順調に進められていると評価したい。
- ・組織体制の整備と学士力、社会人基礎力、地域発信力の育成にかかわる事業について、基礎的な整備と基本的な作業が充実し、次年度以降に大きな成果が期待できるかと思えます。インフラ整備に関して今後より一層の充実を図るとともに、細部の詰めを十分に行って事業全体を進めることが必要かと思えます。
- ・今年度は、初年度ということで、実質的には半年の取組期間であったことから、本年度に予定していた事業の実施が、年度末に集中しているが、次年度の本格的な事業展開に向けた準備は、概ね順調に進められているものと評価できる。
- ・事業1年目であるが、連携校がそれぞれの特色を生かしながら、大学相互の連携や地域との連携を推進することにより、学生の学士力、社会人基礎力、地域発信力の向上を図る取組が着実に進められている。今後、連携校間の一体性を高めるなど事業の基盤となる部分について、さらなる強化が望まれるとともに、連携校、関係団体等での共通認識の確立にも意を用いることが期待される。
- ・半年間という短い期間にもかかわらず、各方面の準備状況は十分満足できる程度であるが、来年度以後の展開とその期待される効果について不明の部分も少なくなく、来年度の実施の過程で明確になることを望みたい。

4. その他

- ・代表校ならびにサテライトオフィスの大学の関係職員の皆さまには、本当に短い期間でよく整備されたと感心しております。全国的に実施されているコンソーシアムでもそうですが、連携と協力に入り込み切れない個々の大学の目標とする教育体制との折り合いをどのように付けていくのか、その様な場合に、連携各校の事業負担の程度をどのように構築するのかという点に

については終了後を見据えて是非早期からの検討を期待したいと存じます。オルガノン事業では15大学が終了時点を目指して集束していくことが望まれますが、その後は、再び拡散していく中で、こういった事業を個々の大学としてどの程度求めているのかという尺度の中で、関係を深くする大学とそうでない大学が生じてくるのは、ある面、致し方ないのかも知れないと感じております。そのような緩やかな連携に向けて、終了時点（平成23年度末）への集束とその後の拡散についてイメージしていただければ嬉しいと思います。

- 本取組の代表校である岡山理科大学が大きなリーダーシップを発揮していただき、着実に推進されていることについて敬意を表するとともに、本学も次年度以降の本格稼動に向けて連携校のひとつとして全学的に、より積極的に参画していきたいと考える。
- 補助事業であるからには成果を検証して報告する説明責任が求められる。したがって、本事業の3本柱であるところの、「学士力」「社会人基礎力」「地域発信力」を構成する資質・能力項目を具体的に明示して、到達目標を設定し達成度を評価するなどの一連の検証方法について、連携校大学間で共通認識ないしは合意を得ておく必要がある。
- 本事業の成果による大学教育・学生サービスの向上とともに、15大学が連携して総合的の大学力を上げていくためには、本事業および「大学コンソーシアム岡山」の存在意義と理念・目標の共有化が前提となる。そのための具体的な事業として、例えば「教養教育」の共同プログラムの策定によって、「教養教育岡山方式」の確立への努力をするなど、具体的な目標設定による協働体制づくりが重要である。
- 本計画は地域の産学官連携の中核をなすものであり、環境整備を実施することにより更なる発展が期待できる。今後も積極的な財政支援をお願いしたい。
- こうした大学連携の取組が、大学間のメリットにとどまらず、地域社会の活性化や産業の振興等に広く貢献できるものとなること期待したい。また、そうした成果を上手に県民にアピールしていくことも大切だと考える。国の補助は、平成23年度までであることから、この取組が持続可能なものとなる方策について、検討を進めることも必要であると考えます。
- 県教育委員会としては、学生が地域で活躍できる場の提供やキャリア形成に資する学習機会の提供など、本取組の充実が図られるよう一層連携を推進していきたい。

平成22年度 連携取組事業評価報告書

【事業名称】

「岡山オルガノン」の構築 ―学士力・社会人基礎力・
地域発信力の融合を目指した教育―

平成23年4月1日



岡山オルガノン 大学教育連携センター

目 次

目次	1
1. 連携取組評価における集計結果	2
2. 連携取組評価結果の分析	4
3. 平成 23 年度補助事業実施計画	7
4. 平成 23 年度補助事業実施方針	8
参考資料	
1. 「岡山オルガノン」連携評価委員会要項	9
2. 平成 22 年度 連携評価委員会 名簿	10
3. 連携取組事業の評価について	11
4. 評価報告全文	15

1. 連携取組評価における集計結果

連携取組評価における各点検項目別および総合評価の集計結果は図1～6の通りである。

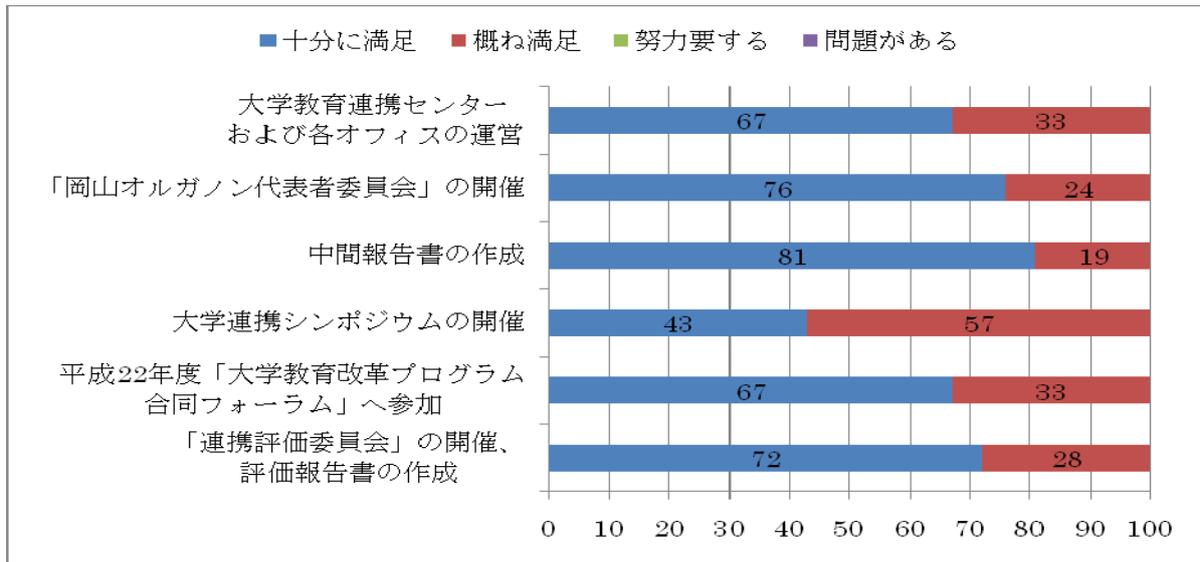


図1 共通計画(組織基盤)

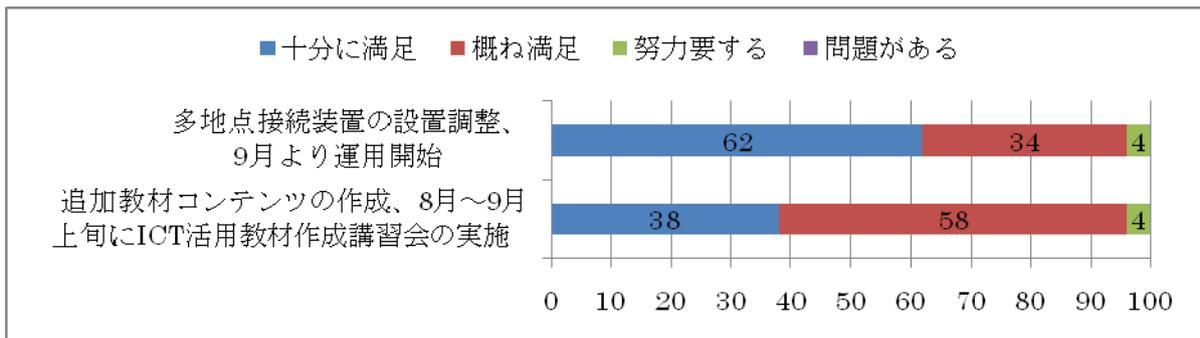


図2 インフラ整備

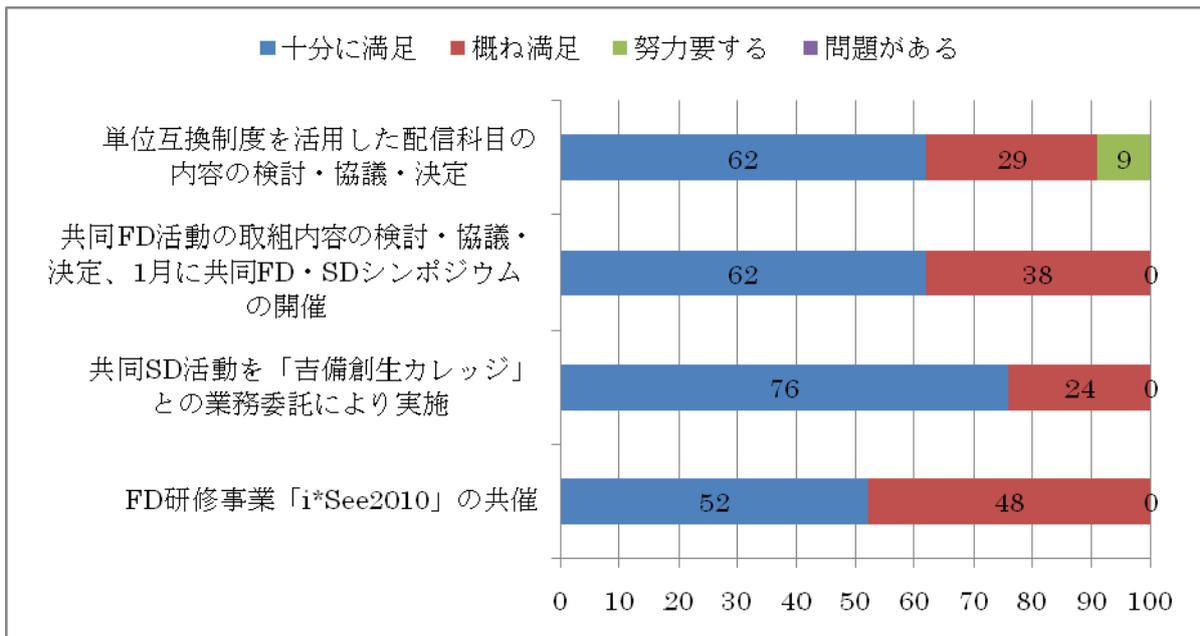


図3 学士力育成のための計画

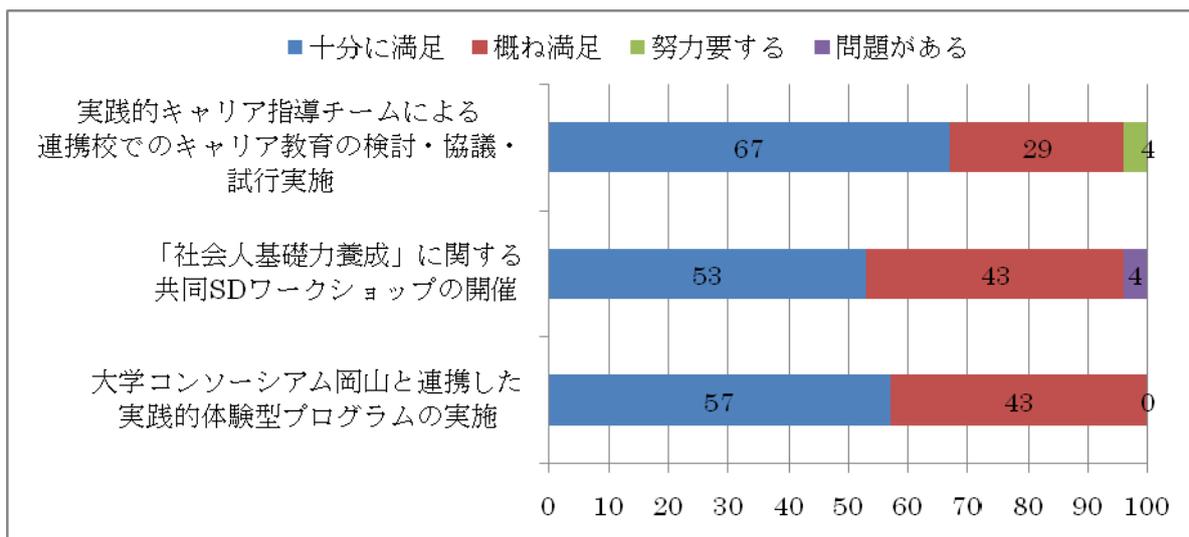


図4 社会人基礎力育成のための計画

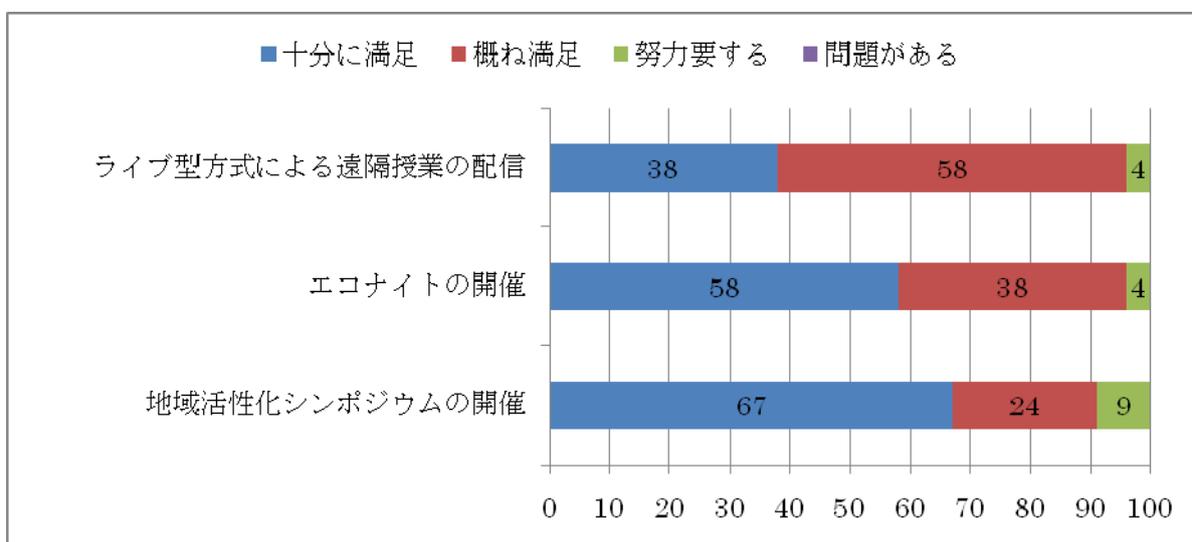


図5 地域発信力育成のための計画

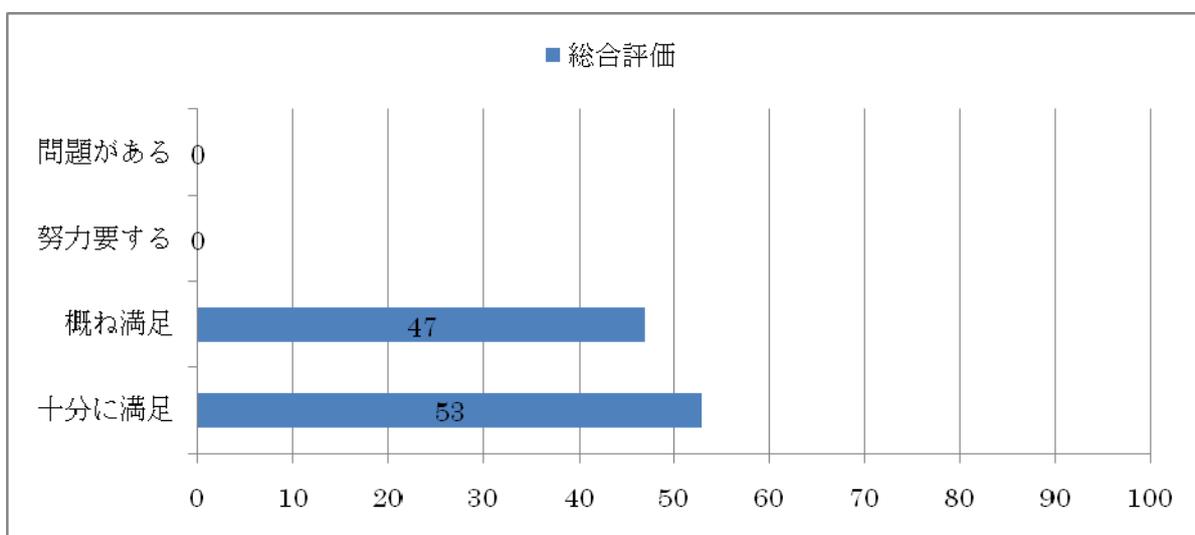


図6 総合評価

2. 連携取組評価結果の分析

各点検項目別、総合評価およびその他の各コメント記述から各項目について、「良好評価」「改善要求」の2つの観点より分析を行った(表1から7)。

表1 共通計画(組織基盤)

良好評価	改善要求
連携校間の連携協力意識の強化 代表者委員会、連携評価委員会の開催 現地視察の実施 各大学の役割の明確化 大学教育改革プログラム合同フォーラムへの出席 各大学の課題の共有化と相互協力の体制強化	地域と一体となった取組の展開 情報発信・ホームページの充実 広報宣伝活動の展開 各大学内での事業の浸透化 本事業と大学コンソーシアム岡山との連携 岡山オルガノン事業実施の必要性

表2 インフラ整備

良好評価	改善要求
テレビ会議システムの15大学同時接続の実現 各大学の環境整備状況の公開 設置時期の年度末集中回避 遠隔授業運用の面でのノウハウの蓄積・共有 ICT活用教材作成講習会の開催 単位互換制度の制度化 学習管理システムの運用開始	配信コンテンツの充実 授業時間の検討 大学教員の負担軽減 広報活動の充実 危機管理マニュアル手引書の作成 本格的な実用化 テレビ会議システムの積極的な活用 インフラ整備の安定した運用 コンテンツ開発のための協力体制 コンテンツ開発費支援の検討 著作権関連事項の早期検討

表 3 学士力育成のための計画

良好評価	改善要求
<p>連携校間での履修しやすい科目選択</p> <p>FD・SD 活動に対する連携校の共通認識の向上</p> <p>FD・SD 活動の協働体制の整備</p> <p>各大学の共通課題の探求</p> <p>科目提供大学数・科目数の増加</p> <p>サテライトオフィスの役割・方向付けの明確化</p> <p>共同 SD の地域貢献</p> <p>単位互換制度の活用による教育内容・質の充実</p>	<p>事業の理念・方針を明確化した上で科目設定</p> <p>単位互換制度のライブ配信科目専用時間の徹底化</p> <p>学生ニーズに応じた科目選択</p> <p>産官民との連携の強化</p> <p>事業主体と学生ニーズの調和</p> <p>提供科目による学生数格差の軽減</p> <p>PDCA サイクルの CA の検討</p> <p>学生ニーズに応じた学生参画型授業の検討</p>

表 4 社会人基礎力育成のための計画

良好評価	改善要求
<p>企業ニーズを踏まえた人材育成</p> <p>実社会で人材育成能力開発を目指した実践プログラム</p> <p>今後の連携校間における社会人育成に貢献</p> <p>実践的キャリア指導チーム力の強化</p> <p>キャリア教育を中心とした高大連携</p>	<p>社会人基礎力育成のためのキャリア教育への受講者数増加</p> <p>プログラムの有効活用</p> <p>ライブや VOD 配信科目への提供</p> <p>連携校間で積極的に質の高い講座を活用</p> <p>これまでの大学コンソーシアム岡山で実施してきた取組以外の岡山オルガノン事業独自の取組の実施</p>

表 5 地域発信力育成のための計画

良好評価	改善要求
イベント開催の早期検討 共通イベントの連携校での周知 サテライトオフィスの役割・方向付けの明確化 地域活性化シンポジウムの開催 エコ啓発活動の地域発信 産学民の連携 連携校の共通認識による事業の推進	地域が求める人材育成への取組 地域と大学の協働関係の構築 講義内容・実施方法の検討 学生参画強化・学生教育への寄与の視点 ライブ型遠隔授業に関するアンケートの有効活用 効果的な受講環境の整備

表 6 総合評価

良好評価	改善要求
連携校間の意思統一 継続的な事業展開 成果データの公表 実施時期の年度末集中の回避 連携校間の連絡調整・情報共有	全大学の協働体制作り 各大学が持つ特色を生かす 負担や費用に関する将来的議論 地域に対するアピール

表 7 その他

良好評価	改善要求
より一層の代表校のリーダーシップ発揮 到達目標の共通認識と協働体制作り 短期間での事業推進	学生が地域で活躍する場の提供 地域活性化や産業振興への貢献 持続可能性と将来的な事業負担の検討 事業のアピールの強化 連携評価委員会の資料内容の検討

3. 平成 23 年度補助事業実施計画

本年度の補助事業の目的を達成するため、

■共通計画（岡山理科大学）

- ① 4月～大学教育連携センターおよび各オフィスの運営
- ② 4月～「将来構想委員会」の開催
- ③ 5月～「岡山オルガノン代表者委員会」の開催
- ④ 12月上旬「岡山オルガノン事業報告会」の開催
- ⑤ 1月 平成 23 年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加
- ⑥ 1月下旬 「連携評価委員会」の開催、最終報告書の作成

■学士力育成のための計画（岡山大学）

- ⑦ 4月～単位互換制度を活用した配信科目の追加検討・協議・決定
- ⑧ 4月～新規 VOD 科目のコンテンツ制作、8月～9月に ICT 活用教材作成講習会の実施
- ⑨ 8月 独自の共同 SD 研修会「クレイマー対策講座」を実施
- ⑩ 9月 FD 研修事業「i*See 2011」の共催
- ⑪ 11月 「共同 FD・SD 実施報告会」（遠隔授業による成果報告を含む）の開催

■社会人基礎力育成のための計画（中国学園大学）

- ⑫ 4月～連携校および高校（高大連携）への出張講義の実施
＜実践的キャリア指導チームの強化充実＞
- ⑬ 6月 学生参画によるキャリア教育担当者意見交換会（ワークショップ）の開催
- ⑭ 10月 「実践マナー&ビジネスマインド短期集中講座」の実施
- ⑮ 11月 「社会人基礎力養成シンポジウム」の開催

■地域発信力育成のための計画（岡山商科大学）

- ⑯ 4月～双方向ライブ型方式による遠隔授業の継続配信
- ⑰ 6月 「大学連携による地域活性化シンポジウム」の開催
- ⑱ 7月 「エコナイト」の開催

4. 平成 23 年度補助事業実施方針

平成 21 年度および平成 22 年度の連携取組の評価を受けて、改善要求に対するセンターおよび各オフィスにおいて対応を熟慮して、平成 23 年度における 9 の補助事業実施方針を策定した。

- ①事業の持続可能性と将来的な事業負担の検討
- ②各大学内での事業等の浸透化
- ③ホームページを活用した情報公開・情報発信の充実化
- ④著作権関連事項の早期検討
- ⑤単位互換履修生募集および学生参画イベント等の呼びかけと周知徹底
- ⑥配信科目の充実化と FD・SD 活動の協働体制の強化
- ⑦テレビ会議システムの積極的な活用
- ⑧大学におけるキャリア教育の充実化
- ⑨社会人基礎力育成のためのキャリア教育への受講者数増加

1. 「岡山オルガノン」連携評価委員会要項

参考資料 1

(趣旨)

第1条 この要項は、岡山理科大学、岡山大学、岡山県立大学、岡山学院大学、岡山商科大学、川崎医科大学、川崎医療福祉大学、環太平洋大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、山陽学園大学、就実大学、中国学園大学、ノートルダム清心女子大学（以下、「構成大学」という）が、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムに基づく構成大学間の連携取組事業（以下、「連携取組事業」という）に関し締結した「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムの共同実施に関する協定書」第2条に基づき、連携評価委員会の組織及び運営に関し、必要事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 連携評価委員会は次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 構成大学が実施した連携取組事業の内容および成果の評価を行うこと。
- (2) 構成大学が実施した連携取組事業の内容に関して指導および助言を行うこと。

(組織)

第3条 連携評価委員会の組織は次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 有識者（産学官の外部委員）
- (2) 構成大学代表者（学長等）
- (3) その他委員会が必要と認めた者（学生を含む）

(委員長)

第4条 連携評価委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

- 2 委員長は、連携評価委員会の会議を主宰し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(委員会の成立等)

第5条 連携評価委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 連携評価委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 連携評価委員会は、必要があるときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 連携評価委員会の事務は、構成大学の協力を得て、岡山理科大学内に設置している大学教育連携センターにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、連携評価委員会に関し、必要な事項は別に定める。

(平成22年1月22日：岡山オルガノン代表者委員会にて承認)

2. 平成22年度 連携評価委員会 名簿

参考資料2

(1) 有識者（産学官の外部委員）

所 属	職 名	氏 名
岡山県	県民生活部長	平 松 卓 雄
岡山県教育委員会	教育長	門 野 八洲雄
社団法人岡山経済同友会	代表幹事	中 島 基 善
山陽新聞社	代表取締役社長	越 宗 孝 昌
立命館大学共通教育推進機構	教授	木 野 茂
両備ホールディングス株式会社	代表取締役社長	小 嶋 光 信

(2) 構成大学代表者（学長等）

所 属	職 名	氏 名
岡山大学	学長	千 葉 喬 三
岡山県立大学	学長	三 宮 信 夫
岡山学院大学	学長	原 田 博 史
岡山商科大学	学長	井 尻 昭 夫
川崎医科大学	学長	福 永 仁 夫
川崎医療福祉大学	学長	岡 田 喜 篤
環太平洋大学	学長	梶 田 叡 一
吉備国際大学	学長	藤 田 和 弘
倉敷芸術科学大学	学長	添 田 喬
くらしき作陽大学	学長	松 田 英 毅
山陽学園大学	学長	赤 木 忠 厚
就実大学	学長	押 谷 善 一 郎
中国学園大学	学長	松 畑 熙 一
ノートルダム清心女子大学	学長	高 木 孝 子
岡山理科大学	学長	波 田 善 夫

3. 連携取組事業の評価について

参考資料 3

[本連携取組事業の目的]

連携校間における（A）教養教育の充実・共同 FD・SD 活動による「学士力」育成、（B）実践的キャリア指導・社会活動参画による「社会人基礎力」育成、（C）地域連携による人材育成・地域貢献活動による「地域発信力」育成、という核となる 3 つの力の育成であり、これらの取組が地域一体となった実践の実現により、「岡山オルガノン」が構築され、岡山県から発信される地域創生型の人材育成へとつなげることです。特に本事業では、ネットワーク網で結ばれたテレビ会議システムの活用により、遠隔授業などの教育支援だけではなく、教職員や学生の交流を深化させていくための重要なコミュニケーション支援としての役割も果たし、これにより大学間連携の充実化を図りたいと考えています。

[評価の目的]

本連携取組事業の各々の取組を年度毎に振り返り、今後の継続的事業展開だけではなく、さらに発展的な取組へとつなげ、岡山県内の大学教育・学生サービスの質的向上を図ることを目的として点検・評価を行います。これを通して、成果や課題を連携校すべてにフィードバックし、各大学の特色を踏まえた上での大学教育充実に向けた改善を図る契機として活用します。

[実施期間]

平成 23 年 3 月 14 日～平成 23 年 3 月 29 日

[評価規準・評価観点]

（1）事業取組評価

- ①本連携取組事業の内容が目的に沿って適切な企画・実施がなされているか
- ②大学間の連携が適切に図れているか
- ③本事業のために導入した設備が目的達成のために有効に活用されているか

（2）地域貢献評価：

- ①産官民や高校との連携が適切に図れているか
- ②地域の担い手となる人材育成につながる取組となっているか

[評価基準]

- 4：十分に満足できる（期待する効果が十分に見られる）
- 3：おおむね満足できる（期待する効果はあるが、未到達の部分もある）
- 2：努力を要する（期待する効果が見られない）
- 1：問題がある（期待する効果へとつながるよう計画がなされていない）

[取組点検項目]

文部科学省に今年度提出した交付申請書の「本年度の補助事業実施計画」にある以下の 18 項目について評価をしていただきます。

(1) 共通計画

- ①大学教育連携センターおよび各オフィスの運営
- ②「岡山オルガノン代表者委員会」の開催
- ③中間報告書の作成
- ④大学連携シンポジウムの開催
- ⑤平成 22 年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加
- ⑥「連携評価委員会」の開催、評価報告書の作成

(2) インフラ整備計画

- ⑦多地点接続装置の設置調整、9 月より運用開始
- ⑧追加教材コンテンツの作成、8 月～9 月上旬に ICT 活用教材作成講習会の実施

(3) 学士力育成のための計画

- ⑨単位互換制度を活用した配信科目の内容の検討・協議・決定
- ⑩共同 FD 活動の取組内容の検討・協議・決定、1 月に共同 FD・SD シンポジウムの開催
- ⑪共同 SD 活動を「吉備創生カレッジ」との業務委託により実施
- ⑫FD 研修事業「i*See 2010」の共催

(4) 社会人基礎力育成のための計画

- ⑬実践的キャリア指導チームによる連携校でのキャリア教育の検討・協議・試行実施
- ⑭「社会人基礎力養成」に関する共同 SD ワークショップの開催
- ⑮大学コンソーシアム岡山と連携した実践的体験型プログラムの実施

(5) 地域発信力育成のための計画

- ⑯ライブ型方式による遠隔授業の配信
- ⑰エコナイトの開催
- ⑱地域活性化シンポジウムの開催

[評価報告書の作成について]

連携評価委員会開催当日に、大学教育連携センターおよび各オフィスより、各取組点検項目につきまして配布資料に従って概略の説明を致しますので、以下のとおり、本連携取組の評価報告書の作成をお願い致します。

- (1) 評価報告書は連携評価委員会の全委員にご提出いただきます。
- (2) 委員会から評価報告書の作成につきましては、上記で説明しました [本連携取組事業の目的] および [評価の目的] をご理解いただき、[評価規準・評価観点] に従い、評定およびコメントの記載をお願いします。
- (3) 評定は各項目別に [評価基準] の4段階評価でお願いします。「総合評価」では全体の評定をお書きください。コメント欄には、大項目ごとに各評定に基づき「優れている事項」や「改善すべき事項」など、記述していただくようお願いします。特に、評定で「2」または「1」の評価をされた場合は、課題や改善点など具体的に記述していただき今後の取組に反映させたいと思っております。また、各取組点検項目の小項目の番号(①～⑱)について個別にコメントを記述される場合は、各項目の番号が分かるように付記してください。
- (4) 「点検項目別評価」と「総合評価」のそれぞれ記述の方をお願いします。「その他のコメント」につきましては、本連携取組についてご意見・ご感想等ご自由にご記入ください。
- (5) 行数・页数など必要に応じて追加していただいて結構です。

《記入例》

①・・・および・・・に関する科目の検討		④	3	2	1
コメント	<p>全般的に・・・について目標が達成できている。</p> <p>今後は・・・の点に注意して・・・の一層の充実を図るよう期待する。</p> <p>(あるいは、・・・の点で特に効果が得られているようであり、今後も一層・・・に注意して成果を出していただきたい。)</p>				

②「・・・シンポジウム」の開催		4	③	2	1
コメント	<p>・・・に関してはおおむね目標が達成され、その効果が期待できる。ただし、・・・については一部まだ取り組みの遅れ(あるいは、・・・などに不十分な点)が見られるので、・・・に注意して、次年度以降には達成させる必要がある。</p>				

③「・・・委員会」の開催		4	3	②	1
コメント	<p>・・・を実施したことにより、・・・に大きな成果があがっているのは確かである。ただし、実施した・・・の取組(①)が部分的であり、・・・と・・・を目標にしている・・・への寄与は低いと考えられる。そのため、・・・の取組(①)と・・・の取組(②)については、・・・を整備し、・・・に対してより発展的な事業を展開し、・・・の向上を図るよう検討する必要がある。</p>				

④・・・に対する・・・活動の展開		4	3	2	①
コメント	<p>・・・に関しては、事業の当初目標が充分達成されているとは考えられない。特に、・・・の点で問題が有ると思われるので、・・・に留意し、早急に実施体制や・・・を見直す必要がある。(あるいは、・・・のように目標設定を変更し、・・・のような効果が得られるよう見直す必要がある。)(あるいは、導入した・・・等の設備が・・・活用されていないようであり、今後は・・・のような適用方法に変更して、導入効果を得るよう努力されたい。)</p>				

※句読点や誤字脱字等は修正、文体は原文のままとしている。

(1) 共通計画（組織基盤）

- ・大学教育連携センター及び各オフィスは互いに良く連携し、代表者委員会の調整のもと、15大学の連携という困難な事業を円滑に推進していることが高く評価できる。
- ・シンポジウムの開催及び合同フォーラムへの参加で、情報発信は十分に行われていると感ぜられるが、中間報告書については、情報発信後のフィードバックについて今後期待したい点がある。
- ・初年度に比べ組織基盤の充実、大学間連携の強化が進んだことは間違いない。シンポジウム開催、フォーラム参加といった意欲的な試みも評価できる。惜しむらくは情報発信力の弱さである。メールマガジンの一般登録者はわずか20人程度である。「地域を変える」とうたったシンポジウムも、地域の関心をどれだけ集め、アピールできたか。オルガノンの最大のテーマは「地域創生型の人材育成」であり、そのためにも学生やこれから大学を目指す高校生、その保護者を中心とした「外」へ情報発信し、理解、共感を得て取り組みの発展を目指すことが欠かせない。最終年度は「いかに地域を巻き込むか」に知恵を絞っていただきたい。
- ・大学教育連携センター及び3つのサテライトオフィスのリーダーシップにより、連携校間の情報共有や連絡調整がスムーズに機能し、各種取組は計画どおり順調に進んだと評価できる。
- ・中間報告書を作成することにより、これまでの取組や成果、問題点を整理できた。また、報告書を関係機関へ配布したことや、⑤「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加したことにより本取組を広くアピールできたと思われる。メールマガジンの発行、ホームページの充実などにより関係者への情報発信は上手く機能しているが、一般の方を対象とした情報発信に、もうひと工夫加えると、いっそう事業を発展できると考える。
- ・全般的におおむね目標が達成され、その効果が期待できる。特に③の中間報告書では、各大学側ごとの取組を明らかにすることで課題の共有に結びつけていること、④の大学連携シンポジウムの開催では地域に対して直接情報発信しようとしていることが評価できる。ただし、④では一般参加者が20名に止まっており、次年度以降一層の周知などによりその増加を期待したい。
- ・全般的に個々の事業は活発に実施された。今後の問題は、それぞれの大学内での浸透である。
- ・実施計画で策定された①～⑥の事業を確実に、また計画通りに実施されている。組織基盤の確立について大きな成果が上がっている。シンポジウムの開催、フォーラムの開催などの様々な取り組みは岡山県全体の教育力向上に資することができると大いに期待できるものである。
- ・全般的に共通計画について目標が達成できている。
- ・全ての計画が順調に進展している。この調子で頑張ってもらいたい。
- ・入試志願状況の記事に関連して新聞広告を出すのならば、取組内容の説明とともに、何故今岡山オルガノンが必要かを説明しておくのがよい。
- ・中間報告書に、失敗談や改善策を明記するのは良い。

- ・大学連携シンポジウムで、大学と地域に gap は無かったのか。それを答えるパネリストはいたか。
- ・連携評価委員会では、⑤での意見交換で出た他の取組の「同様の課題」を披露してもらえばよかった。評価委員会では、良い話ばかり出さなくてよい。
- ・全体として、良く計画され実践されているが、センター・オフィス間の連携をもっと深めてほしい。また、委員会などの個々の会への協力体制も不十分であり、大学間の連携を深める努力を共にしたいものです。
- ・大学教育連携センター統括のもと、各連携校間で情報共有及び調整が図れたことは、今後の連携校間における協力体制の強化に繋がった。
- ・また、中間報告書の作成により取組事業内容も整理され、今後の課題も明確になった。組織基盤も概ね確立されたものと思われる。
- ・連携センターなど組織も確立され、各部門がそれぞれの役割を適切に果たしている。またホームページ、メールマガジン等を有効活用し情報発信に努めている。ただし、さらに多くの人々に周知を図る必要があると思われる。
- ・各種委員会、報告書などを開催・作成し参加範囲の拡大、問題点の改善に積極的に取り組んでおり、昨年より格段の成長がうかがえる。
- ・平成21年度の中間報告書及び評価報告書をもとに、大学教育連携センター及び各オフィスが中心となって、指摘された改善事項に取り組んだ結果、平成22年度では共通計画に関しておおむね目標が達成できている。今後も「岡山オルガノン」の事業目的、取り組み内容などについての情報発信をより一層図ることが望ましい。
- ・共通計画については、当初の目標が達成されており、かなりの成果があがっている。
- ・大学教育連携センター及び各オフィスの運営が行われている。
- ・HPは、「オルガノン」で google 検索するとトップで岡山オルガノンのページが表示される。内容も充実しているが、データ更新も頻繁に実施されていることを示している。多くの大学が加盟しており、日程調整は困難であると思われるが、比較的頻繁に会議が開催できている。
- ・代表者委員会の開催について、3回の会議を開催できており、2年目でありながら将来へ向けの方針に関する提案もなされるなど、成果を上げていると評価できる。
- ・中間報告書の作成について、多数の大学の取り組みなどを集めて編集する作業は大変であったと思われる。その意味では高い評価を与えるべきであるが、その点をのぞけば、良好という評価でよいのでは、と考える。
- ・大学連携シンポについて、シンポジウムの内容としては、比較的良質なものであり、人選や構成などの工夫が良好な成果になったと思われる。今一步の視点としては、一度の開催であった点であり、今後多地点での視聴が行えるようになったので、そのような取り組みも必要と考える。
- ・フォーラムへの参加について、平成22年度のフォーラムへの参加に関しては、十分な成果を上げたものと思われる。他の GP に関する情報収集も比較的活発に行っているようなので、そのような内容も含めるならば、4でもよい。
- ・評価委員会の開催、評価報告の作成について、評価報告書に関しては、大変要領よく要点をまとめて提示されており、高いレベルにある。

- ・ 3年のプロジェクト期間の2年度目であり，1年度目のインフラ整備と本事業に関わる多彩な個々のサテライト事業の展開を実質的に実施する年度として捉えると，十分な活動が行われたと感じられる。⑤フォーラムへの参加や③中間報告書，⑥連携評価委員会などでの報告は予定されていた各事業が，十分に展開出来たことを示す良い機会であったと評価できる。但し，事業仕分けによる文科省としてのこういった事業全体の廃止という判断の最大の要因である各大学の個別の努力で対応すべきという論点を凌駕する事業の必要性の説明は若干不十分な印象がある。

(2) インフラ整備

- ・15 大学の連携を行う上で、多地点接続装置は要となる設備である。本装置を教育活動に有効に活用し具体的な成果が上げられるよう期待する。
- ・VOD 科目の運用には様々な課題があると思うが個別の対応が取られていることは高く評価できる。
- ・多地点接続装置、ギガビット VPN 対応ルーターの導入により機能面では飛躍的に向上し、遠隔授業の充実などに期待が膨らむが、バージョンアップやメンテナンスにはどの程度の労力、頻度が必要だろうか。またトラブルなどが生じた場合、誰がどのように対処するのか。本格的な実用化へ試行を重ね、あらゆる課題を浮かび上がらせ、解消する努力を続けてもらいたい。「危機管理マニュアル」といった手引書を作成するのも一つの手だ。
- ・全連携校で多地点接続装置及びギガビット VPN ルーターを設置したことにより、ライブ型遠隔講義や VOD 科目を受講できる環境が整備されたことは、単位互換制度を推進するうえで大きな成果があった。次年度以降の VOD コンテンツの作成を早期から着手し、計画的に準備が進められたと評価できる。
- ・全般的におおむね目標が達成され、その効果が期待できる。特に⑧において導入した多地点接続装置を使用して「e-Learning 著作権セミナー」を開催しているが、ハードだけでなく、課題となる著作権の扱いについても整備を進められていることは今後の配信拡大に寄与するものと考えられる。
- ・VOD の教材作成についてはしっかり行えた。テレビ会議システムの利用については、会議や講義への利用に積極的に取り組めた。本学も学内のネットワークを張り替え、来年度からは本館棟においても接続可能になるため、さらなる利用が進むと考えられる。
- ・岡山オルガノンの中核をなす e-Learning 及びライブ教育配信のためのシステム環境が整ったと思われるが、大変な作業であるため若干時間的に遅れ気味かなと感じる。しかしネットワークで結ばれたテレビ会議システムが機能すれば大学間連携が充実し、遠隔操作だけでなく、教職員や学生の交流が活発に行えると大いに期待できるものである。*評価3は時間的な遅れである。
- ・全般的にインフラ整備について目標が達成できている。
- ・インフラ整備そのものは順調に整備されている。しかしながら、利用実績が低水準にあるため改善が必要。
- ・配信科目については利用実績の上がるような内容の検討が必要。FD, SDについては順調に実施されている。
- ・ハードの対応は速いが(予算執行の関係か)、ソフトの対応も遅れないように願いたい。
- ・著作権の関連事項は、早く具体案をまとめられた方がよい。オルガノンの連携校には使い易く、組織外の人に使い難いような措置が望ましい。
- ・インフラへの基本整備は順調に進行しているようであるが、コンテンツ開発のための協力体制や開発費支援のあり方などをもっと詳しく検討するべきであろう。
- ・多地点接続装置に加え、全連携校にギガビットルーターが設置され、テレビ会議システムの活用が充実したことは評価できる。

- ・課題となるVODコンテンツの著作権については「e-Learning 著作権セミナー」が開催されたが、今後は、著作権などの関連規程の更なる整備が必要である。
- ・多地点接続装置を導入することにより提携大学との同時テレビ会議を実施することが可能となり、来年度以降セミナー、委員会での活用の拡大が可能となるなどインフラの整備が進んだことは大きな成果である。
- ・教材コンテンツについてはさらに作成を進めるとともに、受講者の拡大を図る必要がある。
- ・平成22年度は、多地点接続用サーバーの設置により多地点同時接続が実現し、テレビ会議の開催、授業の配信など、インフラ整備の充実に向けて大きな成果があがっている。ただし、教材コンテンツの作成においては、各大学による新規VOD科目の選出依頼方法の検討、VOD科目受講生による授業アンケートの実施及びその対応など、今後もより一層の充実を目指す必要がある。
- ・インフラ整備については、計画通り進んでいるが、今後の運用についてその効果が最大限になるよう検討を要する。
- ・多地点接続装置について、実質的にこれを利用した講義が（ほとんど？）行われていないので、能力を発揮する段階にない。今後、そのような取り組みがたくさん行われる必要がある。
- ・追加教材コンテンツについて、現時点においては、提供科目数が少ないため、高い評価を与えにくい。コンテンツ作成への習熟と実現化が必要である。
- ・⑦については1年度目のインフラ整備を翌年に新たに機種を変更せざるを得なくなった印象があり、当初の見通しと機種選択についての適切性が問われる事態ではないだろうか。さらに⑧についても本来、1年度目を実施すべき項目ではなかったか。また連携評価委員会での説明にもあったがVOD作成に関して各科目の講師が、自学の学生への対面講義とは別途、VOD録画をボランティアで実施しているという事は、ある面、大学教員の負担増につながっている可能性もあり、計画として本当に適切であったのかどうか不明である。

(3) 学士力育成のための計画

- ・ライブ配信科目、VOD 配信科目について各大学から特色ある科目が提供され、大学間連携、設備の活用が三位一体となって運営され始めたことが高く評価できる。大学間連携による FD・SD シンポジウムは外部有識者などの意見も聞かれ有為なものであった。「i*See2010」も先進的な取り組みであるが、各連携大学関係教職員のさらなる参画を期待する。また、実施結果のみで結果の良否、今後の取り組み方について P D C A についての検討が必要である。
- ・シンポジウム、共同 SD 活動、FD 研修事業といった試みは、ワークショップやディスカッションを交え、参加した職員、学生の意識改革に大きく寄与したようだ。一方、授業のライブ配信、VOD 配信では「オルガノン時間」の設定が大きな収穫だ。参加 15 大学が足並みをそろえるということ自体が、オルガノン事業成功への意気込みを感じさせる。ただ、提供科目は、たとえば科目によって受講者数に大きく差が生じており、事業主体と学生ニーズの間の溝を感じさせる。原因の分析に加え、今後の配信科目の選定にさらなる検討が求められる。
- ・⑨は科目配信大学の特色を活かした講義を提供したことで、教育内容・質を充実させることができた。
- ・⑩及び⑫は連携校間で意見・情報交換が活発に行われ、FD・SD に対する意識が高められた。これらの取組で得たノウハウを今後の学生教育に反映させ、学士力のさらなる向上を目指したい。
- ・全般的におおむね目標が達成され、その効果が期待できる。⑨については、来年度は配信科目が相当増加するが、費用対効果の観点から、一層の配信科目の増加に加えて受講者の増加も期待したい。また、⑩の共同 SD 活動を「吉備創生カレッジ」という開かれた形で実施することは地域貢献に結びつくものとする。
- ・配信科目の内容についての検討や共同 FD、共同 SD は順調に行えた。FD 研修事業の開催については十分であったが、残念ながら本学からの積極的な参加が実施できなかった。
- ・⑨の問題点としてライブ科目授業のための専用時間（オルガノン時間）の徹底化が求められる。
- ・⑩～⑫の FD・SD の取り組みを、学士力の育成にどのように結びつけ、活用していくかについて、さらなる協議や趣旨の周知を広範囲に行うことが重要と考えられる。今年度おこなった取り組みの内容は評価される。
- ・全般的に学士力育成のための計画について目標が達成できている。
- ・配信科目の内容を検討するにあたり、まずその理念を確立する必要がある。二つの方向があり、一つは大学、地域の特色を生かした科目、他の一つは基礎学力を充実させる科目。後者は各大学で工夫されているが、それでも学生にとって不十分なこともある。方針をはっきりさせて科目を設定すべきである。
- ・FD や SD は各大学によって取組に差があることが予想されるので、担当オフィスはその実情を把握しておくことが今後の企画の参考になると思う。
- ・単位互換制度をさらに実質化するため、時間割の共有化や要望の高い科目の新設などの具体策への努力をしてほしい。FD・SD 活動をもっと大学間協働で進めるようになるとうい。
- ・共同 FD・SD 活動が実施され、「i*See2010」においては、教員・職員・学生が対等な立場で議論でき、積極的な教育改善への動機付けとなった。

- ・また単位互換制度を利用した配信科目については、「ライブ科目授業のための専用時間」も設定され、今後は各大学の特色を活かした更なる配信科目の充実に期待する。
- ・オルガノン時間の設定など単位互換制度の充実拡大に努めており、連携校の教育内容の充実に成果を挙げている。来年度以降配信科目がさらに拡大する予定であり、教養科目の講師の確保に貢献することが出来るなど当初の目的を充分達成している。
- ・単位互換制度を活用した科目配信は、連携大学の教育を質・量ともに充実させる上で、多いに評価できる取り組みであり、今後が期待される。共同 FD・SD シンポジウムや研修会の開催は、各大学が抱える教育上の問題点に対して、その対応・解決策を共有する上では、効果的である。学生参画型 FD 研修事業は、受益者目線の上に乗って議論を行うものであり、大学教員の教育改善活動のためには効果的な事業で、多いに評価できる。今後も学生の参加・参画型事業がより一層企画・実施されるよう期待する。
- ・⑨については配信科目に偏りが無いよう分野からみてバランスのとれた科目はもちろん、学士力養成に適する内容を盛りこむことが期待される。⑩については、FD と SD シンポジウムの共同開催により、どのような効果をもたらされるかを明確にする必要がある。また、⑨から⑫については、大学で実施されている学士力養成と岡山オルガノンにより期待されている学士力養成の相違や関連性について検討されたい。
- ・単位互換制度について、現段階においては、提供科目の抽出に一定の理念がない。今後、本格化に伴って単位互換に関するコンセプトの確立が必要である。
- ・共同 FD について、小規模の地方大学では FD,SD 活動が行いにくい。この点に関し、地域の大学がタッグを組んでの事業として大変期待したい。
- ・吉備創生カレッジについて、内容としては、もっとブレイクしてもよいのではないと思うが、会場の制約などもあるのかもしれない。この講義内容も VOD 化などの可能性もあるかもしれない。
- ・FD 研修について、岡山大学は従来から大きな成果を上げてきた。共催することによって、どのような前進があったのか、という点に関する情報がない。
- ・ライブ配信授業と VOD 授業が、3科目ずつであったこと、受講学生数がそれほど多数であったとは感じられないことは、これらの事業が本質的に各大学の学生の、更には大学の求めるものであるのかどうかという疑問につながると思われる。特に本学のような単科大学である国家資格に対する専門科目に特化した教育を展開する立場では、抱える教育の問題点などを、他の多くの大学と共有すること自体の困難さを感じる処であり、これら事業の継続性を論じる際に、県内に立地するという事だけで事業参加を強いられる印象になっているのは再考が必要なのかも知れない。

(4) 社会人基礎力育成のための計画

- ・キャリア指導チームの組織がはっきりしないが、その活動は、連携大学のみならず高校、企業団体まで広げられており、評価できる。
- ・大学コンソーシアム岡山でこれまで行われてきた取り組みだけでなく、岡山オルガノン事業独自の取り組みが期待される。
- ・実践的キャリア指導チームによる講義・講演、SDワークショップは、いずれもスキルアップを図りつつ事業展開できたと評価したい。他方、大学コンソーシアム岡山との連携プログラムは就活に励む学生を支援する有意義な試みだったが、残念ながら他の同種事業と日程が重なり、出席断念を余儀なくされた学生が出たことだ。入念な下調べの上での日程の選定はもちろんのこと、たとえば学生が足を運びやすい会場を確保したり、学生が最も活用しやすい開催曜日、時間を選ぶといった学生本位の日程調整に、より配慮すべきだろう。
- ・⑬は様々な受講形態に対応したプログラムを作成したり、講師のスキルアップに努めるなど、高い質の講座が提供されている。また、大学・高校・企業などにおいて数多くの講演を実施しており、社会人基礎力育成に向けて積極的な取組ができていると評価できる。今後は連携校においても積極的に活用することが望まれる。
- ・⑮はテレビ会議システムによる配信を行うなど、より多くの学生が参加できる体制を構築する必要がある。
- ・全般的に目的達成に向けた企画・実施がなされていると考えられる。担当するサテライトオフィスの熱意が感じられ、失敗を恐れず、高みを目指す学生が増えたとの評価も頷かれる。
- ・それぞれの事業の実施は十分であったと思われる。ただ、本学の場合には、医療福祉系であるという特殊性があるため、十分に利用させていただくことはできなかった。
- ・キャリア教育は連携校独自の方法で展開していると思われるが、コンソーシアム、オルガノンで取り組んでいることに敬意を表したい。今後の連携校間での社会人基礎力の育成のための講座展開の取り組みに重要なヒントを与えてくれる良い取り組みである。
- ・全般的に社会人基礎力育成のための計画について目標が達成できている。
- ・⑬は、連携校に広くプログラムを実践してもらうこと及びチーム力を強化することが望まれる。
- ・⑬と⑮は、実践的キャリア教育を実施するという点では共通である。方法などで違いはあるものの、計画として内容的に差がないので、関連させて取組まれることが望まれる。
- ・非常に効果的な取組みになっており、履修した学生のモチベーションがかなり高まっている。
- ・キャリア教育を中心とした高大連携はまだ不十分で、県内高校と大学間の魅力ある連携プログラムにして、高校生の地元大学への進学を増やす努力をすることの意義は非常に大きい。
- ・大学コンソーシアム岡山と連携した「実践マナー&ビジネスマインド講座」においては、連携大学のみならず四国・関西の学生も参加し、大学、高校、企業の連携により実施されたことは、大きな成果があったと認められる。
- ・キャリア教育の検討・試行については大学、高校、企業とも開催が偏っており、今後はSDワークショップ、大学コンソーシアム岡山との連携などを含め総合的に開催を検討し、実施校、企業の更なる拡大・拡充を図る必要があると思われる。
- ・実践的キャリア指導チームによるキャリア教育、共同SDワークショップの開催及び実践的な

体験プログラムの実施によって、受講者のチャレンジ精神の更なる高揚、内定難関企業への積極的な挑戦、社会人として必要なマナーの向上など、具体的な成果が上がっており、社会人基礎力育成の当初の目的が達成されつつある。今後は、キャリア教育や実践的体験型プログラムの取り組み内容、実績及び具体的な成果等を連携校の学生や教職員に対して十分周知し、受講者を増やすよう方策講じることが望まれる。

- ・社会人基礎力養成については、各大学が実施している中味との違いが明確で当初の目標が達成されている。
- ・⑬充実しており、発展しつつある。
- ・⑮参加学生の偏りをどう考えるか。
- ・就職活動とは異なるキャリア養成を展開している点は十分評価でき、本学などでもコミュニケーション能力の養成は必須であるので、興味深い。但し、多彩な将来像を描く多くの学生に対して如何に普遍的な教育として提供するかという点、更には参加学生が本質的にこういった事業への興味と才覚を元来有した者ではないかということ併せて考えると、本事業の拡大と継続については同好会的な色合いを拭い切れない印象もある。

(5) 地域発信力育成のための計画

- ・ライブ型遠隔授業の取り組みについてはPDCAサイクルにより、取り組みがなされており、高く評価できる。エコナイトは各連携大学それぞれ工夫を凝らしており、環境啓発活動に寄与したと考えられる。
- ・各大学の地域研究を取りまとめたシンポジウムは画期的であるが、各大学の教職員、学生の参画について期待したい。
- ・ライブ型遠隔授業は、他大学の受講者の少なさが気がかりだ。情報提供不足か、魅力の乏しさか、原因分析と対策の検討を急いでほしい。また、地域活性化シンポジウム、エコナイトは時宜を得たイベントが実践できたと評価したい。ただ、欲を言えば、もっと「学外＝地域」を巻き込む取り組みがあってもよさそうだ。住民たちの刺激になり、一方で外部の方々の視線、評価は活動をよりよいものに育てていくための大きな財産にもなる。「キャンパスを飛び出す」という試みに積極的にチャレンジしてほしい。
- ・テレビ会議システムを受配信テストを入念に行ったことにより、次年度から本格的に始まるライブ型遠隔講義を円滑に進める体制が整えられたと評価できる。但し、機器操作マニュアルに載っていないトラブルが生じた場合、直ちに対処できるかどうか懸念される。
- ・地域発信力育成に向けた講義の配信、七夕エコナイト及び地域活性化シンポジウムを開催したことにより、学生・地域・大学・企業などとの連携が深まった。地域活性化に寄与できる人材を育成するとともに、地域から必要とされる大学になれるよう、これらの取組を継続・発展させることを望む。
- ・全般的におおむね目標が達成され、その効果が期待できる。特に⑩の地域活性化シンポジウムの開催は地域貢献に結びつくものであり、来年度以降も開催されることを期待する。
- ・ライブ型方式による遠隔授業の配信に関しては、準備が完了した。来年度から配信予定である。エコナイト、シンポジウムの開催については、十分な実施ができたと思う。特に、エコナイトについては、来年度には岡山県との連携も期待されており、今後の展開が楽しみである。
- ・⑯は岡山オルガノンの中核をなすもので良い取り組みである。連携校に早く普及することを期待する。⑰は日本中で求められているテーマであり、岡山県全体で取り組むべき問題である。問題を提起したことは良い取り組みである。⑱は地域活性化に大学として何ができるかがテーマであるが、行政と大学と県民が情報を共有することが重要であり、一つの投げかけとして評価できる。
- ・全般的に地域発信力育成のための計画について目標が達成できている。
- ・エコナイトの写真④の説明（小講演の内容）があっても良かった。省エネの実践と同時にその背景にあるエネルギー問題を扱っていることも重要である。
- ・地域活性化は、今では各大学で実施されているので、SDやキャリア教育ほどの新規性はない。したがって、実施するならば、各大学での取組の違いを浮立たせ、意見交換の材料を提供するようにされるとよい。
- ・⑯他大学生の参加数が少ない。同じ授業を共有する他大学生の数を増やす必要がある。
- ・⑰参加大学数を増やす必要がある。
- ・遠隔授業は今後大きな役割を發揮することが期待されているので、提供科目を増やし、多くの

学生が受講するように指導と周知徹底を図りたい。エコナイトについては、もっと地域住民などを巻き込んで行えるようにするべきであろう。

- ・地域活性化シンポジウムでは、地域住民の方から率直な意見を聞くことができ、今後の地域住民の方と大学、学生との関わりの中で、何が共通して必要なものなのかなど、地域への活動のきっかけとなったことは評価できる。
- ・今後、様々な視点から地域を捉え、継続的な実施に期待する。
- ・受講者数は前後期合わせて500名足らずと若干少なく思えるが、地域と連携した科目を提供することにより、学生の地域への理解の深化をさらに図ることが出来たと思われる。今後は参加学生の更なる拡大が望まれる。
- ・エコナイトについては関係自治体などさらに参加範囲を拡大して実施することが望ましい。
- ・ライブ型方式による遠隔授業の配信、エコナイトの開催、地域活性化シンポジウムの開催など、地域発信力育成のための計画は順調に進んでおり、全般的に目標が達成されつつある。今後の課題として、大学と地域との有機的な連携（相互作用）のためには、エコナイトなどのイベントや地域活性化シンポジウムの開催意義を広く地域の方々と共有し、一般市民を多く巻き込んだ取り組みを展開する必要がある。
- ・地域発信力養成については、おおむね目標が達成され、その効果が期待できる。ただし、ライブ型方式による遠隔授業配信については、大学が限られており、より多くの大学が参画できるよう改善が望まれる。
- ・⑯まだまだ実施不足。
- ・⑰さらなる盛り上がりを期待したい。
- ・⑱参加人数の少なさ、連結地点数の少なさが、今年の課題です。
- ・エコナイトは地域や社会へのアピールという点では興味深い取り組みであろうと感じられる。しかし、本学特有の事情などもあり十分な参画は出来なかった。⑯については(3)の学士力育成の一部と感じられ本サテライト事業による展開で良いのであろうか？ 本サテライト事業が、各大学が展開する地域貢献の向上のための教育的啓発的事業として大学教職員（学生も含む？）を対象として実施する点と、⑰の様に実際に共同でアクションを起すという点の双方を目指していることは評価できると考える。

3. 総合評価

- 大学には地域との連携を行い社会のニーズを捉えると共に、知的資源及び地域で広く貢献する人材の育成を行う責務がある。平成 22 年度の取り組みは 15 大学の連携という困難を乗り越え、地域に対する責任を果たす具体的な成果があがり始めた初年と言える。
- 岡山オルガノン事業は連携 15 大学の全教職員の取り組みとして自覚され、大学教育の質向上に向け、推進されることを期待する。
- インフラ整備をはじめ計画されていた事業が着実に実践され、「岡山オルガノンの構築」へ、階段をまた一つ上ったと評価できる。ただ、最終年度へ期待は膨らむ半面、課題は少なくない。基盤が整う一方で、遠隔授業での配信科目などコンテンツは果たして充実しているといえるだろうか。事業の発展の下地となる個々の取り組みの「検証」は十分だろうか。大学によって温度差も見え隠れする。大学間の連携が生み出す力、可能性の限界はまだまだ先にあるはずだ。新年度は「地域創生型の人材育成」という大きな目的へ、いま一度、意思統一を図り、また補助が終わった後にどう継続、飛躍させていくかについても明確な方向性を示すべきだろう。
- それぞれの取組事業の方向性や意義が明確になり、取組内容も一層充実したと評価できる。また、来年度以降のライブ型遠隔講義や VOD 配信講義の本格的な実施に向けて、準備が着実に進められたことが評価できる。各種取組が充実している中で、今後は各連携校の特色を積極的に押し出した事業を展開することが望まれる。
- 2年目を終えた時点として、全般的におおむね目標が達成され、その効果が期待できると思われる。センター及び各オフィスの尽力によるものであるが、⑥の『「連携評価委員会」の開催、評価報告書の作成』にあるように、評価報告書で明らかとなった改善要求を重点項目 10 点に絞り、連携校の共通認識として事業を推進したことも寄与していると考ええる。
- 全体的には、問題なく実施された。但し、多くの大学が協力して行う事業であるため、それぞれの大学の特徴を考えると、どうしても参加できる事業の種類に濃淡ができる。これは、こうした取り組みを行う上で、いたしかたのない制約であると思う。その範囲ではあるが、十分に組み合わせたと思う。
- 学士力、社会人基礎力、地域発信力の 3 つの力の育成を図るため、本事業は周到な準備と実行が展開し成果を上げている。このような素晴らしい取り組みがなされているが、連携校で十分な周知が図られていない。今後何らかの方法で本事業の内容を周知することが望ましい。
- しかしながら、内容としては本事業の目的にふさわしい取り組みがなされ、目的を十分達成していると考えられる。
- 全般的に補助事業について目標が達成できている。
- 短期間、限られた予算の枠内で、よくここまで 2 年間の実績を積まれたことに感心し、十分評価したい。
- 非常に整然と、また効果的に活動が行なわれており、大いに評価できる。
- 全体的にスタートしたばかりで満足な結果は得られていないように思われる。
- 連携大学の学生、教職員、ならびに岡山県民にもっと知ってもらうべき PR の必要があると思われる。
- 「岡山オルガノン」及び「大学コンソーシアム岡山」への各大学内の協働実施体制が不十分であ

るとともに、大学間協働への積極的な取組にはまだまだなっていないので、今後とも体制づくりの強化に力を入れるようにしたい。

- ・初年度の実績を踏まえて、事業全体がほぼ順調に実施されている。
- ・今後の大学コンソーシアム岡山への吸収に向けては、各連携校間で十分な討論を行った上で、事業全体を進めること必要である。
- ・G P補助期間終了後の事業が、さらに充実していくことを期待する。
- ・3年計画の2年度が終了し、組織も整備され、インフラもほぼ整備された。当初の計画に沿って実施されており、次年度は最終年度であり、参加範囲の拡大、内容の更なる充実を図り連携校がそれぞれの特色を生かした取り組みを実施することにより、本事業の目的を達成することが出来ると思われる。
- ・「岡山オルガノン」連携事業の根幹となる「学士力」、「社会人基礎力」及び「地域発信力」育成に向けての各取り組みは、当初の目標がおおむね達成され、成果があがっている。しかしながら、大学間の連携が適切に図られているかについては、この事業のとらえ方に大学によって多少温度差があるように見受けられる。本事業において、ネットワーク網で結ばれたテレビ会議システムなどのコミュニケーション手段を有効に活用し、大学間、大学と地域間の連携が適切に図られていくことを期待する。
- ・全般的にみて、当初の目標が達成できていると評価する。
- ・1年度目に事業計画の整備をし、2年度目に実施、3年度目は2年度目の評価のもとに発展的な展開と、資金補助終了後の継続展開を確定するという流れであろうと考えると、中間年度として各事業はそれぞれに十分な展開を実施されたと評価できる。現在、連携校に在籍する学生に対して直接的に作用する部分（ライブ配信ならびに VOD 授業、キャリア養成講座への参加など）と、連携大学のそれぞれの事業の目標への理解と啓発、教育的事業の部分（FD/SD やシンポジウムなど）について、連携評価委員会においても、それぞれへの参画者の感想や意識の変化といった実施の効果についての情報が乏しかったことを加味すると、事業主体（理科大学メインオフィスとそれぞれのサテライトオフィス）は献身的な努力でそれぞれの事業を展開されているが、そのこと自体で完結している印象を拭い切れなとも感じられた。勿論、教育制度その他の改革がどの程度の効果を生み出すのかということは、短時日に評価されるものでもなく、これらの事業に参画した学生が数年～十数年後に社会人として如何に活動するかといったことがその評価になるので、現在、展開している事業がそういった効果を創出すると信じて展開せざるを得ないことも十分理解できる。

4. その他のコメント

- 大学が持つ「知」を地域に還元し、また 15 大学による連携という貴重かつ壮大な取り組みであり、これほど多彩な事業を展開しながら、認知度は百点満点といえるだろうか。活動に弾みをつけ、より充実したものに育てていくためにもアピール不足は何とか克服したいところだ。地域の、あるいは社会の理解を促し、共感を呼ぶには「分かりやすさ」も重要なポイントであり、要点を絞った資料作成、情報発信を心掛けるのはもちろんのこと、細かく言えば、専門的な横文字などなじみの薄い言葉の多用を控えるといった配慮がもっとあってよい。オルガノンの成功は地域力向上の一つの鍵でもあり、地域とともに歩むためのさらなる工夫に期待したい。
- 本年度は本格的な事業展開がなされたので、大学間の連携によるメリットが学生だけでなく、地域社会の活性化などにも結びつくことを、事業自体やその成果を通じて県民にアピールしていくことを期待する。
- 本取り組みについては、岡山理科大学が大きなりーダーシップを発揮していただき、着実に推進されていることに敬意を表するとともに、本学も次年度以降の取り組みに向けて連携校の一大学として全学的に積極的に参画していきたいと考える。
- 資料のまとめ方について、⑦⑧⑨及び⑩は「遠隔授業の配信」という事業で共通している。オフィス別にレポートがまとめられているが、共通しているものは連続して、内容も関連させて説明していただくと、分かり易いと思う。
- 評価委員会の資料としては、オフィブ別でなく（組織のたて割でなく）、内容別に整理して報告される方が良いと思う。
- 写真の説明のあるページとないページとがある。写真説明は入れておくこと。
- 地域社会の中で大学が果たすべき役割への認識が極めて不十分であるため、どのような活動を展開するにしても、十分な成果につながらない。大学の使命の一つである「地域連携」の重要性への認識を高めるための何らかの企画を考えて欲しい。
- 「岡山オルガノン」連携事業終了後の大学間の新たな連携について、早めに議論を進めて行く必要がある。
- 教育改革 GP 全体が事業仕分けによって事業全体が「廃止」という判定を受け、その主な理由として、ここで展開する事業は「それぞれの大学が自ら努力すべきことである」という主旨であったことを重く受け止めなければならない印象は強い。それぞれの学生も、自らの将来像と能力とキャラクターに合わせて志望大学を決め、入学への努力を行い、在籍する大学の中で各自の将来設計に合わせて努力しているなかで、「岡山県に所在」というくくりで、どういった共通項を連携大学で共有するのかというのは、特に本学のように単科医科という性質を内包する大学にとっては、熟慮が必要な点だと感じる。大学合同フォーラムにおいても、平成 21 年度の基調講演では 18 歳人口を上回る大学定員の全入時代を迎え、大学教育は 20 年前の高校教育に近い部分を含有しなければならなくなった故に、学生指導や共通教養科目などの充実も必要であり、いわゆる職能開発や専門研究は修士や博士課程で実施すべしという論点であったが、平成 22 年度の講演では、そうであるからこそ、それぞれの大学はその教育目標の独自性と専門性に合わせて、得意分野に特化した立脚点を更に向上させる方向へ向かう必要性が論じられていた。単位互換についても大学コンソーシアム岡山で実施していた学生が他大学に出向いて対面授業

を受講するというシステムから、オルガノンではライブ配信さらには VOD 利用という展開によって、利便性を高めることを目指していることは理解できるが、連携各大学あるいは総合大学の場合にはそれぞれの学部の独自性、更に連携校間であっても競合があり他大学と比較した優位性を旨とする展開において、連携校内で共有する部分を発展させようとする本事業への実質的な参画は、それぞれの連携校内である種の矛盾を内包しながら遂行する形になる印象がある。特に本学の場合、良医養成という命題に対して最大限の努力をする中で、入学直後から卒業までのタイトなカリキュラム、附属病院の存在など、現在のオルガノンの多彩な事業展開に対して十分な貢献が出来ないこともあるが、また実施事業からの恩恵を在学生在が受けることも物理的にも困難な状況がある。3年度目に2年度に比して、多くのライブ配信ならびに VOD 授業項目が構築されていく予定であることはオルガノン事業にとっては非常に素晴らしいことであろうと拝察するも、先述したが VOD にしても各連携校の教育担当者のボランティア的な負担増への対応の土台の上に成り立っていることなども考慮すると、今後の継続（大学コンソーシアム岡山への事業継承）に当たって、本質的な事業の再評価も必要なのかも知れない。但し、3年間で国から相当額の補助を受けた事業を見直して単に中止するというのも、国民に対して説明出来ない展開であり今後の3年間前後で、展開事業の合理的な方向性のシフトなどを検討することも必要になってくる印象である。

- この論理とは別に、担当の方々が、2年度目として、十分な事業展開をされたことには、感服するとともに、その御苦勞には最大限の敬意を表したい。

平成23年度 連携取組事業評価報告書

【事業名称】

「岡山オルガノン」の構築

—学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—

平成24年2月23日



岡山オルガノン 大学教育連携センター

目 次

目次	1
1. 連携取組事業の評価	2
2. 連携取組評価の集計結果	6
3. センター・サテライトオフィスによる自己評価の集計結果	27
参考資料	
1. 「岡山オルガノン」連携評価委員会要項	34
2. 平成23年度 連携評価委員会 名簿	35

1. 連携取組事業の評価

[本連携取組事業の目的]

連携校間における（A）教養教育の充実・共同FD・SD活動による「学士力」育成、（B）実践的キャリア指導・社会活動参画による「社会人基礎力」育成、（C）地域連携による人材育成・地域貢献活動による「地域発信力」育成、という核となる3つの力の育成であり、これらの取組が地域一体となった実践の実現により、「岡山オルガノン」が構築され、岡山県から発信される地域創生型の人材育成へとつなげることです。特に本事業では、ネットワーク網で結ばれたテレビ会議システムの活用により、遠隔授業などの教育支援だけではなく、教職員や学生の交流を深化させていくための重要なコミュニケーション支援としての役割も果たし、これにより大学間連携の充実化を図りたいと考えています。

[評価の目的]

本連携取組事業の各々の取組を年度毎に振り返り、今後の継続的事業展開だけではなく、さらに発展的な取組へとつなげ、岡山県内の大学教育・学生サービスの質的向上を図ることを目的として点検・評価を行います。これを通して、成果や課題を連携校すべてにフィードバックし、各大学の特色を踏まえた上での大学教育充実に向けた改善を図る契機として活用します。

[実施期間]

平成24年1月20日～平成24年1月31日

[評価規準・評価観点]

（1）事業取組評価

- ①本連携取組事業の内容が目的に沿って適切な企画・実施がなされているか
- ②大学間の連携が適切に図れているか
- ③本事業のために導入した設備が目的達成のために有効に活用されているか

（2）地域貢献評価

- ①産官民や高校との連携が適切に図れているか
- ②地域の担い手となる人材育成につながる取組となっているか

[評価基準]

- 4：十分に満足できる（期待する効果が十分に見られる）
- 3：おおむね満足できる（期待する効果はあるが、未到達の部分もある）
- 2：努力を要する（期待する効果が見られない）
- 1：問題がある（期待する効果へとつなげるよう計画がなされていない）

[取組点検項目]

文部科学省に今年度提出した交付申請書の「本年度の補助事業実施計画」にある以下の18項目について評価をしていただきます。

(1)共通計画

- ① 4月～ 大学教育連携センターおよび各オフィスの運営
- ② 4月～ 「将来構想委員会」の開催
- ③ 5月～ 「岡山オルガノン代表者委員会」の開催
- ④ 12月上旬 「岡山オルガノン事業報告会」の開催
- ⑤ 1月 平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加（実施せず）
- ⑥ 1月下旬 「連携評価委員会」の開催、最終報告書の作成

(2)学士力育成のための計画

- ⑦ 4月～ 単位互換制度を活用した配信科目の追加検討・協議・決定
- ⑧ 4月～ 新規VOD科目のコンテンツ制作、8月～9月にICT活用教材作成講習会の実施
- ⑨ 8月 独自の共同SD研修会「クレイマー対策講座」を実施
- ⑩ 9月 FD研修事業「i*See 2011」の共催
- ⑪ 11月 「共同FD・SD実施報告会」（遠隔授業による成果報告を含む）の開催

(3)社会人基礎力育成のための計画

- ⑫ 4月～ 連携校および高校（高大連携）への出張講義の実施
＜実践的キャリア指導チームの強化充実＞
- ⑬ 6月 学生参画によるキャリア教育担当者意見交換会（ワークショップ）の開催
- ⑭ 10月 「実践マナー&ビジネスマインド短期集中講座」の実施
- ⑮ 11月 「社会人基礎力養成シンポジウム」の開催

(4)地域発信力育成のための計画

- ⑯ 4月～ 双方向ライブ型方式による遠隔授業の継続配信
- ⑰ 6月 「大学連携による地域活性化シンポジウム」の開催
- ⑱ 7月 「エコナイト」の開催

[評価報告書の作成について]

連携評価委員会開催当日に、大学教育連携センターおよび各オフィスより、各取組点検項目につきまして配布資料に従って概略の説明を致しますので、以下のとおり、本連携取組の評価報告書の作成をお願い致します。

- (1) 評価報告書は連携評価委員会の全委員にご提出いただきます。
- (2) 委員会から評価報告書の作成につきましては、上記で説明しました [本連携取組事業の目的] および [評価の目的] をご理解いただき、[評価規準・評価観点] に従い、評定およびコメントの記載をお願いします。
- (3) 評定は各項目別に [評価基準] の4段階評価をお願いします。「総合評価」では全体の評定をお書きください。コメント欄には、大項目ごとに各評定に基づき「優れている事項」や「改善すべき事項」など、記述していただくようお願いします。特に、評定で「2」または「1」の評価をされた場合は、課題や改善点など具体的に記述していただき今後の取組に反映させたいと思っております。また、各取組点検項目の小項目の番号(①～⑱)について個別にコメントを記述される場合は、各項目の番号が分かるように付記してください。
- (4) 「点検項目別評価」、「総合評価」と「本事業3年間を通しての総合評価」の評価をお願いします。「その他のコメント」につきましては、本連携取組についてご意見・ご感想等ご自由にご記入ください。
- (5) 行数・页数など必要に応じて追加していただいて結構です。

※記入例は次頁をご参照ください。また、本資料集に過去2回の連携評価報告全文を掲載しておりますので、ご参照ください。

[提出方法]

大学教育連携センターにメールで添付してお送りください。

e-mail アドレス : info@okayama-organon.jp

提出期限 : 平成 24 年 1 月 31 日 (火) 17:00

《記入例》

①・・・および・・・に関する科目の検討		④	3	2	1
コメント	<p>全般的に・・・について目標が達成できている。</p> <p>今後は・・・の点に注意して・・・の一層の充実を図るよう期待する。</p> <p>(あるいは、・・・の点で特に効果が得られているようであり、今後も一層・・・に注意して成果を出していただきたい。)</p>				

②「・・・シンポジウム」の開催		4	③	2	1
コメント	<p>・・・に関してはおおむね目標が達成され、その効果が期待できる。ただし、・・・については一部まだ取り組みの遅れ(あるいは、・・・などに不十分な点)が見られるので、・・・に注意して、次年度以降には達成させる必要がある。</p>				

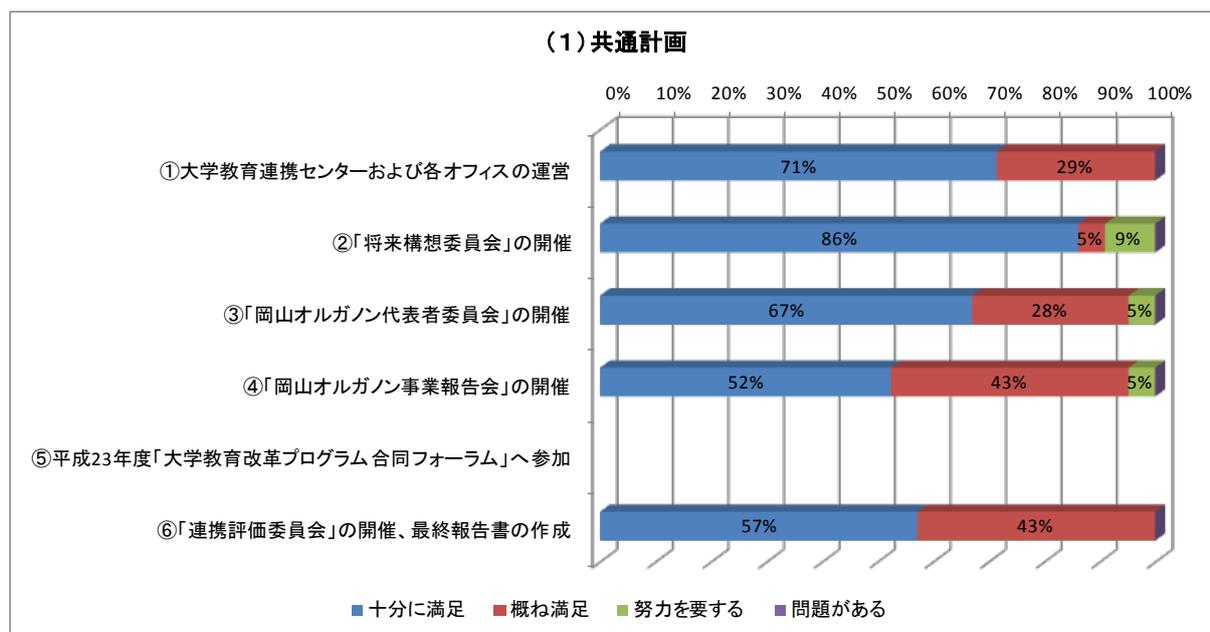
③「・・・委員会」の開催		4	3	②	1
コメント	<p>・・・を実施したことにより、・・・に大きな成果があがっているのは確かである。ただし、実施した・・・の取組(①)が部分的であり、・・・と・・・を目標にしている・・・への寄与は低いと考えられる。そのため、・・・の取組(①)と・・・の取組(②)については、・・・を整備し、・・・に対してより発展的な事業を展開し、・・・の向上を図るよう検討する必要がある。</p>				

④・・・に対する・・・活動の展開		4	3	2	①
コメント	<p>・・・に関しては、事業の当初目標が充分達成されているとは考えられない。特に、・・・の点で問題が有ると思われるので、・・・に留意し、早急に実施体制や・・・を見直す必要がある。(あるいは、・・・のように目標設定を変更し、・・・のような効果が得られるよう見直す必要がある。)(あるいは、導入した・・・等の設備が・・・活用されていないようであり、今後は・・・のような適用方法に変更して、導入効果を得るよう努力されたい。)</p>				

2. 連携取組評価の集計結果

各事業分野ごとに21名の連携評価員の評点(1~4)の分布(%)を最初に示し、続いて寄せられたコメントをすべて掲載している。ただし、コメントについては、句読点や誤字脱字等は修正、文体は原文のままとしている。

(1) 共通計画



【コメント】

- ・②について、それぞれの事業の達成水準について、その内容上の吟味をもっと掘り下げて欲しい。
- ・①②③について、委員会の運営等は、全般的に適切に実施され、目標を達成していると思う。
- ・④⑤について、本事業がマスコミ等でどのように報道されたという報告もあって良いと思う。事業報告会等に地域住民が積極的に参加することは必ずしも期待できないが、新聞等を読むことができる。
- ・大学教育連携センターおよび各オフィスの運営については、よく機能していたと評価できる。委員会等の開催については特に問題を感じていない。
- ・①②③⑤については、センター、オフィスが相互に連携し、所掌事項を計画実行することにより、当初の目的を達成できたことは、高く評価できる。
- ・④については、個別の報告会、全体の報告会について、参加者が伸び悩み、せっかくの成果を広く知らしめることができなかつたことには、今後の努力が必要である。
- ・⑥3年のまとめとしての報告書作成を早めに開始していたので、評価委員会での発表の内容は充実しており、高く評価できる。しかし、内容が盛りだくさんで、自己採点もされてなかつたことは、今後努力する必要がある。
- ・性格も規模も大きく異なる県下15大学の連携という困難な要素を持つ枠組みの中での活動は、開始されたばかりであり、大きな成果を得たとは言い難いが、この枠組みの中で動き始めること

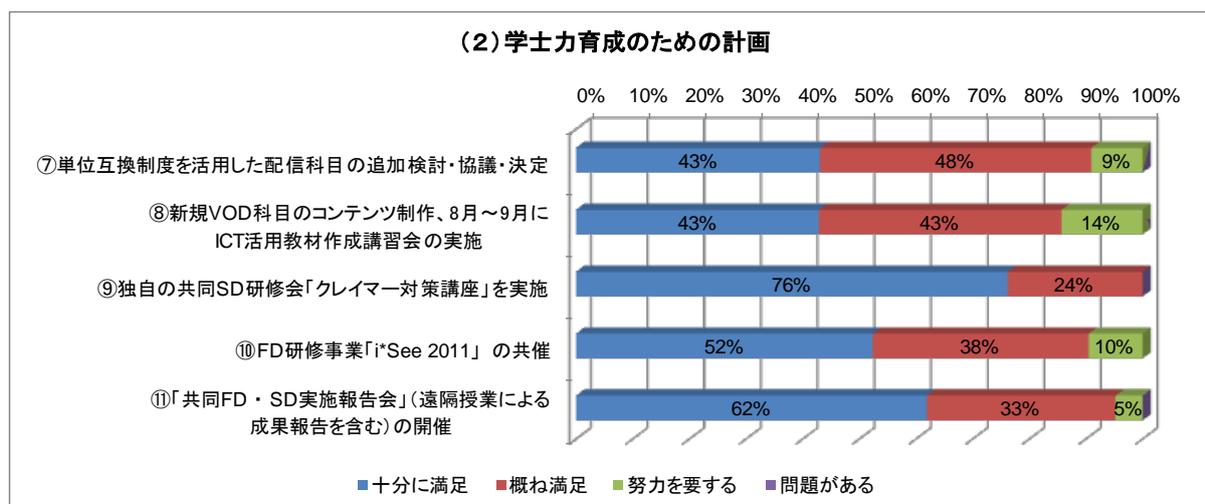
ができた点こそ、最大の成果と言えよう。将来へ向かって、より質的に高い活動へと発展することが期待される。

- ・オルガノン事業の大学コンソーシアム岡山への継承に関連して、双方の組織で、難渋される場面も多かったと存じます。それでも連携評価委員会前の大学コンソーシアム岡山の代表者会議で、無事に継承が決まって良かったと感じています。ただし、種々の会議が、相当急な連絡で対応しなければならなかったことは、担当者も苦慮していた様子でした。
- ・大学教育連携センターおよび各オフィスの運営に関しては持てる力を発揮されたと評価する。しかし「将来構想委員会」や「岡山オルガノン代表者委員会」の開催については無理な時間帯が多く、十分機能していなかった。特に「岡山オルガノン事業報告会」の開催概要の説明及び時間不足のため、形式的で満足いくものでなかったのは残念であった。「連携評価委員会」の開催、最終報告書の作成は評価に値する。
- ・熱心に取り組んでいただき、敬意を表すとともに感謝を申し上げたい。
- ・3年目なので組織基盤は完成され、大学教育連携センターをはじめ3つの各オフィスは互いによく連携し、円滑な事業の推進が行われてきたことは高く評価できる。その結果として大学間の連携はかなり推し進められたが、『地域との連携』『地域創生型の人材育成』に関しては残念ながら今一つで、最終年度の目標の一つであった『いかに地域を巻き込むか』という課題は、今後、努力すべき大きな課題の一つとして残されたように思われる。メールマガジンの発行、ホームページの充実など着実に前進しているが、一般の地域住民に対する情報提供にはさらなる工夫が必要とされ、各大学のホームページや地域行政の作るホームページ中の教育関係の情報欄から『岡山オルガノン』のホームページに入り込めるようにするなどの工夫も必要ではないだろうか。
- ・『将来構想委員会』『岡山オルガノン代表者委員会』などはうまく機能・運営され『岡山オルガノン』事業が支障なく『大学コンソーシアム岡山』に引き継がれることは最善の将来構想であったと考えられる。また、『連携委員会』により、最終報告書が順調にまとめられつつあることも、今後のさらなる取り組みへと繋がっていくうえでも、大いに評価できる。
- ・取組みの情報発信については、岡山オルガノン公式ホームページで積極的に発信しており、更新等のメンテナンスにも配慮され、大学教育連携センターとしての機能を十全に果たしている。また、将来構想委員会も約1年にわたって計8回の会議を開催しており、事業の継続に向けて計画的に取り組んでいる。
- ・全般的に共通計画について目標が達成できている。①②③の点で特に効果が得られているようであり、④⑥については現段階では計画の成果について十分に情報が得られないので、特に効果が得られているとは評価しがたい。
- ・大学教育連携センターは連携事業の目的に沿った取り組み全体の統括を適切に行い、各オフィスの運営も円滑に行われている(①)。次年度からの大学コンソーシアムへの事業継承についても「将来構想委員会」で十分に議論が行われているが(②)、コンソーシアム移行後の事業内容についてはより具体的な詰めが必要である。連携校間の連携体制は図られているが(③)、取り組みについて連携校間に温度差があり、より一層の協力体制の強化が望まれる。事業内容の広報活動は適切に行われている。
- ・将来構想委員会及び代表者委員会において、大学コンソーシアム岡山への事業継承後の人員配置や経費負担等について綿密に協議が進められており、事業のスムーズな移行が期待できる。

岡山オルガノン事業報告会を開催したことにより、本事業の取組成果や課題を連携校間で共有できた点は評価できる。しかし、地域住民や全国大学関係者に広く理解してもらうという目的に対して、一般参加者が2名しかいなかった点については、広報手段を再考する必要があると思われる。

- ・各構成オフィス・委員会などの組織は充実してきているが、センター・オフィス間などの連携をもっと深めてほしい。また、委員会などの個々の会への協力体制及び代表者委員会との連携がまだ不十分であり、今後の活動推進に不安が残る。
- ・連携センターおよび各オフィスの運営はうまくいったものと思います。とくに、各種会議にテレビ会議システムを利用することができたことは、本事業のスムーズな運行に役立つものと評価されます。将来構想委員会はオルガノン事業のコンソーシアムへのスムーズな移行のために必要なものでした。代表者委員会、連携評価委員会はよく機能しています。事業報告会も文部科学省の樋口氏の講演は有意義でした。
- ・3年間の補助期間の最終年度であり、大学コンソーシアム岡山への円滑な事業継承に向けた取組が求められたが、関係者の多大なご尽力により、全般的に概ね目標のレベルに達しているものとする。特に、②将来構想委員会では9回にわたり検討が重ねられ、持続可能な形での事業継承が決定されたところであり、また、④岡山オルガノン事業報告会では、すべての連携校からこれまでの成果と今後の課題が示され、認識を共有するとともに、在学生や地域住民はもとより全国に向けて取組内容の情報発信を行うことができたとする。こうした取組を通じ、連携校間の相互理解が深まったものと考えており、来年度以降の円滑な事業継承につながっていくものと期待している。
- ・①については、毎月メールマガジンを発行するなど情報発信の充実に向けた取組がなされている。また、関係会議も頻繁に開催し、大学間の連携が図られている。
- ・②については、岡山オルガノン事業の継承に向けて会議を重ね、方向性がまとめられており大いに評価できる。
- ・4箇所にサテライトオフィスを設置、部門別の取り組みを明確にするとともに、定期的にコーディネーター会議を開催し事業全体の進捗状況を的確に把握し、円滑な運営を行ない、本事業の目標達成に大きく寄与した。
- ・ホームページ及びメールマガジンを活用し情報発信に努めた。一般の人に対する購読をより増加させれば地域に対する情報発信力の向上にさらに寄与する。
- ・代表者委員会、将来構想委員会、事業報告会等を通じ今後のオルガノンの方向性を検討し成案を得ることが出来た。
- ・大学教育連携センターを中心として、各オフィスがそれぞれの役割を果たし、初期の事業計画を遺漏なくこなしたことは評価できる。
- ・3年間で岡山オルガノンの当初計画をほぼ実施に移されたことに敬意を表する。とくに大学教育連携センターおよび各オフィスの運営（①）が順調に達成されたことが大きく評価される。
- ・「将来構想委員会」（②）で事業を整理した上で大学コンソーシアム岡山にて継承されることも評価できるが、事業推進費の確保にいささかの不安を残している。
- ・なかなか各大学との連携は思いも異なり、足並みが揃わないことが多いが、きちんと運営し、管理されていると評価できる。

(2) 学士力育成のための計画



【コメント】

- ・ 学士力とは何かについて、最初から構成員で検討し、その中で共通する科目を選定する必要がある。その困難性は分かるが、少しでも、科目内容の検討まで踏み込んで欲しい。
- ・ ⑦写真1のチラシは大学の講義の案内らしくない。
- ・ ⑧各大学はどのようにして科目を定めたか（教員の申請又は上からの依頼）の情報ももっておくことは、今後の参考になる。
- ・ ⑨SD研修会のこの企画は、大変良いと思う。
- ・ ⑩「大きな効果があった」と結論することは、参加するだけでなく、どのような提言があったかが、重要。その説明もすべきと思う。
- ・ ⑪SDに関する内容が不明。
- ・ ICT 活用教材作成講習会はまだ少し回数や内容に工夫があってもよかったのではと考える。共同SD研修会などに関しては非常に参考になる試みと評価している。
- ・ ⑦センター、オフィスが連携を取りながら、遠隔講義の実施についての規定類の整備を努力したことは高く評価できる。
- ・ ⑧教育連携センターが中心となってまとめた成果は、高く評価できる。
- ・ ⑨教育現場での新しい問題について研修会が開かれ、多くの参加者を得たことは、高く評価できる。
- ・ ⑩既に岡山大学を中心にして行われている活動であり、岡山オルガノンの参加15大学への波及効果は高くないと考えられるので、今後の努力が必要である。
- ・ 単位互換およびVODコンテンツ作成に関しては、動き出したばかりであり、各大学として利点を実感できる段階には達していないと思われる。しかしながら、各大学とも将来性には大きく期待していると推察され、VOD科目のキャップ制の範囲外に設定するなどの受講への誘導対策が整えば、将来的には力を発揮するであろう。FD・SD等に関しては、有効に機能していると思われ、連携の魅力の一つとなっている。
- ・ ⑧については不測の事態だったとは存じますが、PCが作動しなかったのは残念でした。他の開催については、非常に良く運営されていたと感じます。特にVODもLIVE配信も科目数や受講生数が昨年度より増加した点は評価できると思います。⑪については、最初の講演が若干長く、

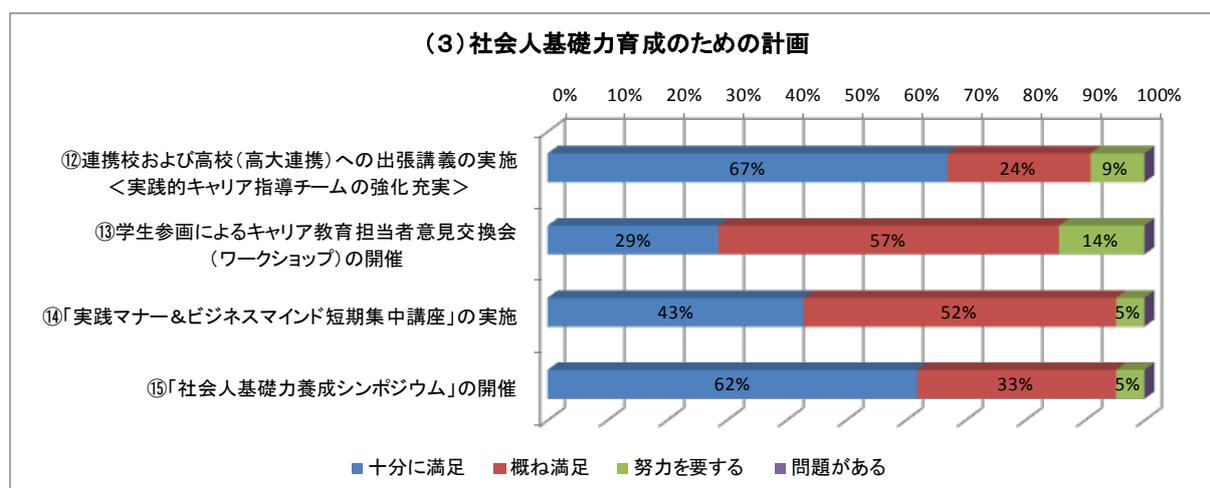
またそれぞれの授業形式についての利点と欠点について、もっと踏み込んだ意見交換が出来ればよかったと感じております。

- ・単位互換制度を活用した配信科目の追加検討及び遠隔授業に関する検討に関しては、本学として可能な限りの協力をしたが、その成果に関する評価及び再検討の協議の場に参加できなかった。
- ・独自の共同 SD 研修会「クレイマー対策講座」については、本学の多数の教職員が参加し得るところが大であった。
- ・⑦⑧については、担当者の確保の問題、各大学の授業時間帯の違い等をクリアしながら科目数の増加をお願いしたい。
- ・⑨⑩⑪は、各大学が取り組んでいる FD・SD の参考に大いになる事業と言える。
- ・全般的には目標に向かって前進しており、年々その効果が出てくることが期待できる。しかし、単位互換制度を活用した配信科目の検討では、ライブ配信科目、VOD 配信科目ともに科目数が十分とはいえ、とくにライブ配信科目では、受講者の数が少ない。専用のオルガノン時間を設定し、ライブ配信科目を実施しているが、各大学において、1日の講義時間の時間割がばらばらで必ずしも統一した時間帯にライブ講義が行えない点に問題が残るのではないだろうか。その意味では夏季休暇中や学期の間などの定期の授業のない時期にシンポジウムや集中講義といった形態の授業配信も工夫されてはいかがだろうか。また、地域の産官民との連携が今一つで、それらの領域からの講師の派遣も考えてみてはどうだろうか。そうすればそれぞれの大学独特な講義に加えて地域に立脚した講義のテーマも数多く生まれ、ひいてはキャリア教育の一端にも繋がることになる。さらに、VOD 講義では一般的な教養科目のみでなく、一つの大学にしか存在しない研究、講座、実験設備などを話題提供として配信することもよいのではないだろうか。一方、『i*See 2010』は先進的取り組みで、全国から参加者が集まったが、地域の学生をいかに動員するかが今後の問題点であろう。また、独自の共同 SD 研修会では、時を得たテーマが選ばれ、十分に目的を達したように思われる。これをきっかけとして今後引き続き共同 FD・SD 実施報告会において重要なテーマの選定が着実に進められるよう期待したい。
- ・学士力育成のためにさまざまな事業が展開され、それなりの成果をあげてきた点では、概ね目標を達成できたといえよう。今後に向けては、「学士力とは何か」についての本質的な検討と、学士力の達成基準や評価基準に関するさらなる検討が求められよう。
- ・全般的に学士力育成のための計画については目標が達成できている。⑧⑩の点で特に効果が得られているようであり、取組の内容や実績とかかわって具体的な成果が上がっており、今後の課題も明らかになっている。⑨⑪については同様に効果が上がっているが、今後の課題や見通しが必ずしも明示されていないのでその点への踏み込みが期待される。
- ・単位互換制度を活用したライブ配信、VOD 配信による遠隔授業の取り組みは(⑦、⑧)は、努力はしているものの受講者数、配信科目数ともに少なく、大きな成果を挙げているとはいえない。一層の工夫が必要である。また、受講学生が学習意欲を持続し、教育効果をあげるための学習管理システムの改善が求められる。SD、FD 研修事業については一定の成果を挙げているが、さらなる拡充が望まれる(⑨、⑩、⑪)。
- ・⑦～⑪のいずれの項目も目的に沿って計画どおり実施できた。⑦については、提供大学の特色ある科目や地域に根ざした科目が提供され、教育内容・質を充実させることができたことが評価できる。また、SD・FD 研修会は単独ではなかなか実施しづらいが、15 大学が連携すること

によって、種々多様な内容の研修を実施することができ、大変効果的である。

- ・ライブ科目やVOD科目の充実に努力がなされ、第一段階としては成果があったと思う。今後は、単位互換制度をさらに実質化するため、時間割の共有化や要望の高い科目の新設などの具体策への努力をしてほしい。FD・SD活動への参加度と高め、協働して進める方策をさらに検討してほしい。
- ・ライブ型VOD型の提供授業数が増え、VOD科目の受講者数が平成23年度には延べ400名を超えたことは、この事業の成果が上がりつつある事を示していると評価できます。SD研修会、共同FD・SD事業も有効でした。岡山大学が行ってきた研修事業への共催も、県内大学の参加学生数の増加に結びついたことは評価できます。
- ・全般的に概ね目標のレベルに達しているものとする。
- ・⑦配信科目については、今年度、ライブ・VODとも配信数が増加し、地域に根ざしたユニークな科目なども見られたところであり、今後は、更なる魅力アップを通じた一層の受講者増が望まれる。また、各連携校が直面している共通の課題への対処方法等がテーマとなった⑨共同SD研修会など、連携事業ならではの特性を生かした取組も見られ、今後の展開に期待したい。
- ・⑧については、岡山オルガノン事業の中核となるものであり、今後のさらなる科目の充実に求めたい。また、あわせて学生の利用促進策を講じられたい。
- ・⑨については、タイムリーな話題を取り上げ、参加者も多く、情報の共有化が図られるなど効果的な研修が行われたのではないかと評価できる。
- ・単位互換制度を活用し配信科目を増加させるとともに、新規のVOD科目のコンテンツも制作して受講者の着実な増加に寄与している。
- ・独自の共同SD研修会として弁護士資格を持つ教授による「クレイマー対策講座」を開催し、多くの教職員が抱える具体的な問題に対する対処法について講習を実施したことは教職員の意識改革に大きく貢献した。
- ・新たな試みにチャレンジし、それなりの成果を挙げた。FDは文部科学省の指導で各大学が取り組みつつあるが、他大学と連携した形へのテストケースとして意味があった。
- ・遠隔教育事業のVOD型(⑦⑧)は岡山オルガノンの中核事業であるが、3年間をかけてようやく質量ともに大学間連携教育にふさわしくなったと評価できる。今後は、科目の開発だけでなく、双方向型授業の開発にも取り組むことを期待する。学生参画型FD研修事業「i*See2011」(⑩)が岡山オルガノンとの共催で地元校の参加が増えたことも評価できる。
- ・各大学の特色を活かした科目が豊富になってきている。
- ・岡山学や倉敷まちづくり論など地域密着の講座と、「クレイマー対策講座」が実践的でユニーク。
- ・大学コンソーシアム岡山との合流は特筆に値する。

(3) 社会人基礎力育成のための計画



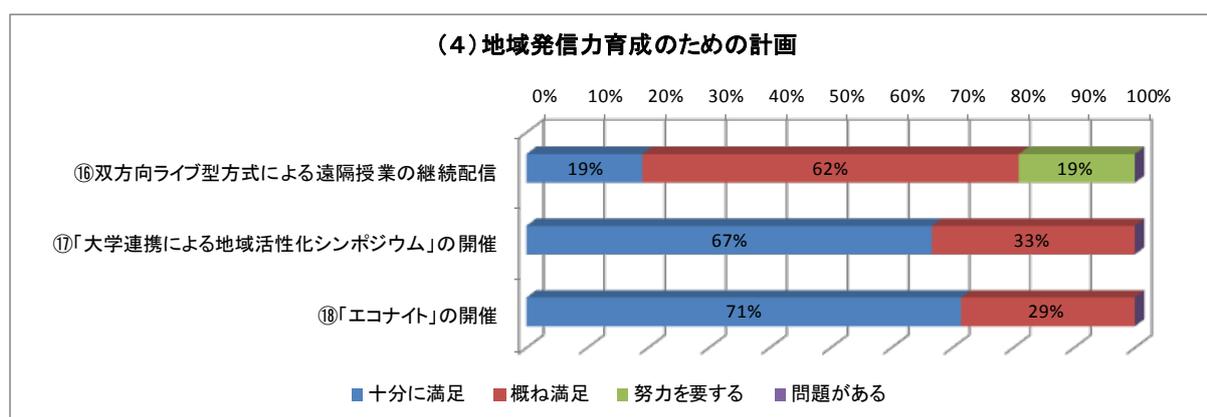
【コメント】

- ・社会人基礎力とは何か、今一つ分からない。学生コミュニケーション能力の養成ということか。大学教育の中での位置づけを明確にする必要がある。
- ・⑫大学での講義と高校・企業での講義の関連性、特に後者から前者への影響について述べると良いと思う。
- ・⑬学生(A、B)とC、D、Eとの間で「望むキャリア教育」の意見の差はどうであったかの説明が知りたいところである。
- ・⑭講師の講座後の感想が知りたいところである。
- ・⑮若手社会人とリーダ社員の間で基礎力に対する要求に差があったか、学生はどうとらえたか興味があるところである。
- ・特になし。
- ・この活動では、15大学の委員会組織が確立できなかったことには、大きな問題がある。オフィスの独自の計画の立案、実行であり、15大学の意見をまとめ切れていないことに問題がある。
- ・新しい取り組みであるだけに、様々な内容・項目における新規開発が必要であった。その中、キャリア教育の義務化が行われ、導入レベルは各大学においてそれぞれ実施されることになった。義務化によって、結果的に本取り組みにおける社会人基礎力養成の内容は、より本質的かつ高度なものであることが求められることになった。企業などへの講座開設もあり、各大学教員への研修講座が重要なポイントになると考える。
- ・高大連携や他府県大学での講義実施については、将来的に良いことなのでしょうけれど、限定された岡山下15大学の取組としては少し勇み足だった印象を受けます。他の企画については、本学が医学科単科のために状況を把握しにくいのですが、資格試験を目指さない(つまり卒業後の進路が学部学科に捉われない)取組の場合、医学生に患者さんと話すことの訓練をさせるようなものなのでしょうか？漠然とした自己表現能力などの養成という意味合いなのかどうか、少し理解しきれない部分がありました。
- ・本学の特質上ビジネス関連の学生指導の講座に参加できなかった。しかし社会人基礎力養成等については今後は積極的に参加したい。

- ・⑫実効が上がっているように思われる。
- ・⑬良い取り組みかと考えられるが、参加者確保の方法論を考えていただきたい。
- ・⑭⑮社会人基礎力養成としては、このあたりにポイントがあると考えられ、今後も積極的に取り組んでいただきたい。
- ・各大学間の協力により、不足傾向にあるキャリア教育担当者が確保でき、より多くの学生がキャリア教育を受講でき、しかもその活動が連携大学のみならず、高校や企業にまで広げられたことは大いに評価できる。講義の内容も高い質が保たれており、この領域では目標達成に向けて着実に前進し、より良い効果があげられつつあると確信できる。
- ・⑫に関しては、ワーキングの場で学生や社会人から要望のあがった訓練メニューを開発・導入した成果が大きく、しかも『講師力』が高く評価され、さらには『集中型講義』の実践もよい方向に作用したものとする。
- ・⑬については、なによりも『委員会』に代え『ワーキング』『ワークショップ』を取り入れた運営方式にしたことが、実践的な意味合いが大きくなり、有意義であったものと思われ、今後もこの方式で進めて行っていただきたい。
- ・⑭は、折角新たに実践的・体験型講義プログラムを『1日集中講義型』形式で実施したのであるから、夏期休暇中などにも開催することを考えたり、定員をオーバーするような場合には、積極的に開催回数を増やす方向でご一考いただきたい。
- ・⑮では、毎回参加者も多く、好評であるので年に2～3回の開催と各連携大学めぐりの方法をお考えいただければいかがでしょうか。
- ・大学生の就職状況が厳しい状況にある中で、社会人基礎力の育成は非常に時宜を得た取組であり、概ね目標が達成されており、その効果が期待できる。今後に向けては、「社会人基礎力」が向上したことを示す説得力のあるエビデンス（根拠）が求められている。
- ・全般的に社会人基礎力育成のための計画は⑫⑬⑭⑮を通じて③「おおむね満足できる」と評価できるであろう。取組の内容や実績などは計画どおり達成できているとみなされる。成果については、それぞれの取組において、自己点検評価によって吟味された結果が報告されていれば理解しやすいし、さらに今後の課題についても掘り下げた提言があれば理解しやすいと思われる。
- ・社会人基礎力育成のためのキャリア教育（⑫、⑬）、シンポジウム（⑮）は積極的に行われ成果を挙げている。利用している連携校が少ないので、一層の成果をあげるためには、今後より多くの連携校で活用されるための工夫、広報が必要である。
- ・いずれの項目も目的に沿って適切に事業が遂行され、昨年以上に成果が上がっていると評価できる。地域の担い手となる人材育成につながることを期待する。
- ・キャリア教育を中心とした高大連携やワークショップなど積極的に推進されていて良いが、就職支援に終わらないキャリア教育本来の姿を追求・発展する努力をしなければならない。
- ・キャリア指導チームによる社会人基礎力養成講座はたいへん充実したプログラムを開発されたようで、出張講義の要請が多いことは評価されます。
- ・全般的に、担当するサテライトオフィスの熱意が感じられ、高く評価できるものとする。特に、⑫実践的キャリア指導や、⑮社会人基礎力養成シンポジウムなどは、年々内容の改良が重ねられ、それが受講者増にも結びついていると考える。来年度以降は、限られた予算内で継続実施されることとなるが、これまでに蓄積されたノウハウを生かした取組に期待したい。

- ・⑫については、講義・講演回数が前年度に比べ1.6倍に増加しており、その充実が図られている。
- ・⑮については、来年度以降も実施される予定であるが、グローバル化に対応したシンポジウムを開催するなど今日的な課題に沿った内容での開催を期待する。
- ・大学、高校、企業等における出張講座を行うことにより地域における大学の役割を再確認させることが出来、また地域の人材育成にも貢献することが出来た。
- ・実践マナー講座、社会人基礎力養成講座等の開催を通じ学生に社会人としての自覚を持たせることが出来、基礎力の向上に大いに貢献することが出来た。
- ・大学、学生、企業社会それぞれにニーズが高い試みであり、選りすぐったスタッフによる活動で講義回数も着実に増やした。
- ・キャリア教育を大学教育の中でどのように位置づけるかは大学によって異なると思われるので、この種の連携事業は難しいと思われるが、コーディネーターや講師陣の熱意で活発な活動を行ってきたことは評される。(⑫、⑭、⑮)
- ・折角の講座で、多くの受講者が期待できるが、⑭のように参加者が少ないのは何故かの分析と増やす工夫が必要。内容的に素晴らしい、力が入った講座である。
- ・地元企業では社員教育の機会が少なく、恒例になれば、参加者は増えると思われる。

(4) 地域発信力育成のための計画



【コメント】

- ・大学間の連携という方式のあり方をもっと多面的に追求して欲しい。
- ・⑯十分な準備にかかわらず、履修生が少ないのは、学生の学習意欲の欠如と言って良いのではないか。
- ・⑰第2分科会の取り組みは適切で目標を達成した。
- ・⑱連携校学生の協働作業として評価されて良い。7月7日の1日を盛り上げる事業の他に、持続性のあるテーマも検討すると良い。
- ・双方向ライブ型方式による遠隔授業については、開講時間だけでなく対象者を絞り込んだ講義などの工夫が利用拡大には必要と考える。その他の計画については非常に評価できるものとなっている。
- ・⑯15大学にTV会議システムが導入され双方向ライブ型遠隔講義の運用が開始されたことは、高く評価できる。また、平成23年度は、双方向ライブ型科目として11大学14科目が開講されたことは、高く評価できる。しかし、受講者数が前後期合わせて27名であることには、学生、教職員への周知が不十分であるので努力が必要である。
- ・⑰学生、子供を対象とした大学連携での地域発信の方向性が明らかになったことは、高く評価できる。
- ・⑱平成23年度は全大学の学生、教職員参加のエコ活動となり、また岡山県、岡山市との連携も行えたことは、高く評価できる。
- ・ライブ講義に関しては、講義開始時間の統一など、大きな障壁が存在し、さらなる工夫が必要であることが明らかとなった。ライブ講義の時間を短くして自学する時間を設定するなどの対策が必要であろう。日ようびこども大学は盛況であり、大学と地域を繋ぐイベントとして成果を上げたと評価したい。エコナイトに関しては、各大学単位での活動だけではなく、より複合的な連携体制における活動が求められる。
- ・ライブ配信は本学も関与しました。現状では受講生が少なくても、ノウハウを熟知し、実施できる体制を構築することは必要だと感じますので、オルガノンの取組で実施できてよかったですと思います。⑰については、岡山商科大学で実施されましたが、今後、児童館の跡地など開催場所を考慮されると発展すると感じました。エコナイトは全県的な取組に発展しているようで、素晴らしいことだと評価します。
- ・双方向ライブ型方式による遠隔授業の継続配信については本学から安藤教授の「哲学」を配信し

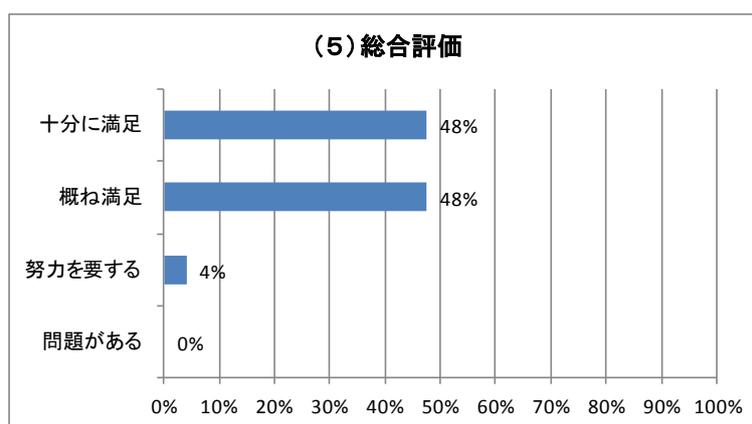
たが、受講者数の不足は残念であった。大学間での授業開始時間の不均等という負要因の解決が前提だろう。

- ・「大学連携による地域活性化シンポジウム」及び「エコナイト」の開催は成功であった。
- ・⑯手間がかかる取り組みではあるが、今後も時間をかけて、拡大することをお願いしたい。
- ・⑰地域が埋没しそうな今、地域の問題点は活性化であり、この事業は必要である。
- ・⑱かなり定着化してきたと思われる。
- ・双方向ライブ型方式による遠隔授業については、基本操作マニュアルが作成され、円滑に運用できる体制が完成した。このこと自体は評価でき今後の発展に期待するものであるが、残念ながら講義のテーマや単位履修者の数が極めて少ないことが問題である。この参加者が少ない原因分析と対策は是非とも必要ではあるが、折角『オルガノン時間』を取り決めても、基本的には各大学の授業時間割が異なることが影響しているのではないだろうか。一つの試みとして、夏期休暇中などにシンポジウムや集中講義形式での単位互換授業を試みることもいかがであろうか。
- ・⑲については、テーマを選び、大学の教職員と学生のみでなく広く地域の住民や企業人も参加できるようなものにできればと考える。すなわち、大学のみでなく地域と一体化して進めるプログラムを導入し、学生・大学・地域住民・企業の連携を深めて行く体制作り、テーマの選び方、会の開催方法などを熟慮してゆかねばなるまい。また、他大学やその地域の住民や企業にも十分な余裕をもった広報活動をしてゆくことも重要であろう。
- ・『エコナイト』は夏（七夕）と冬（クリスマス）の2回行っており、とくに七夕の折には、市内の高校とも連携して町をあげて行うことが出来た。しかし、冬は大学のみでの取り組みに終わった。折角なので大学が音頭取りを行い、周辺の高校、行政や企業にも声かけを行い、町をあげての『エコナイト』と発展してゆくことを望みたい。なお、本校ではライトダウンとマイ・カー乗るまあ day も着実に定着しつつある。
- ・双方向ライブ授業は、ハイビジョンで画像が鮮明であり音質も良好であるため、多くの成果をもたらしている。しかし費用対効果の面で分析すれば、受講人数をさらに増やす必要があるのではなかろうか。加えて、双方向ライブ授業の運営、受講手続や成績処理等に要する専任教職員の負担は、日常の本来の業務に上乗せされたものである。負担を軽減させるための対策が検討されなければならない。
- ・全体的に地域発信力育成のための計画は⑯⑰⑱を通じて③以上であり、「おおむね満足できる」と「十分に満足できる」の中間に位置づく評価できるであろう。⑯については、単位化が困難な状況のなかで関係者が努力されている取組であるが、連携校の参加を増やして一層の活性化が期待される。⑰⑱については、内容および実績を高めていると評価できるが、自己点検評価を踏まえて取組を今後持続する場合の課題を明らかにすることが期待される。
- ・双方向ライブ型方式による遠隔授業は、開講科目数、受講者数ともに少なく、一層の工夫、努力を要する。地域活性化シンポジウム、エコナイトはそれなりの成果を上げているが、地域に向けての一層の情報発信、広報活動が期待される。
- ・ライブ型遠隔授業の受講者の少なさが課題である。学生が興味を持つような魅力的な講義を配信することは無論、学生への情報提供を強化し、この制度をより多くの学生に周知しなければならない。地域活性化シンポジウムには一般の方が多数参加され、大学と地域が一体となった取り組みが展開できた。エコナイトは、イベントに参加する学生が昨年よりも増え、環境保護

の重要性に対する理解が年々浸透している。

- ・遠隔授業は今後大きな役割を發揮することが期待されているので、提供科目を増やし、多くの学生が受講するように指導と衆知徹底を図りたい。エコナイトについては、もっと地域住民などを巻き込んで行えるようにするべきであろう。
- ・双方向ライブ型の授業配信が継続され、かつ充実してきたことは評価されます。受講学生数が少ない点は、配信時間割等の工夫を要することになるでしょう。地域活性化シンポジウム、エコナイト等、地域との連携をはかる取組の充実がめざましいようです。エコナイトは岡山市や岡山県とも連携をはかることができ、有意義だったと評価されます。
- ・全般的に概ね目標のレベルに達しているものと考え。特に、⑰大学連携による地域活性化シンポジウムでは、各連携校が自校の教育の特色を生かした形で取り組み、教育関係者をはじめ多くの県民の参加を得たところであり、また、⑱エコナイトの開催など、地域の企業や行政と連携した活動の拡充も見られたところである。こうした取組が、今後、大学間連携による地域の活性化につながっていくものと大いに期待している。
- ・⑲については、来年度以降も継続されるが、これまでの受講者数が少なく、学生への一層の周知が必要と思われる。
- ・⑳については、多くの学生が参加して実施しており、大学生の社会貢献、学生間の連携、自己有用感の醸成につながったのではないかと。
- ・地域活性化シンポジウム等を開催することにより地域が参画することが出来、市民とのつながりを強化することが出来た。
- ・「日ようびこども大学」「エコナイト」等を開催したことにより、市民と学生の交流活動の推進及び本事業の取り組みを市民に理解してもらうことに大きく貢献した。
- ・双方向ライブ型は将来を見据えたテーマだが、結果をみると試行錯誤の途上にあるといえる。3年間の教訓から得たものを、今後はどう生かすか。
- ・双方向ライブ型遠隔講義（⑲）は開発と運用に関わる努力の割には履修者数が少ないように思える。教室間の双方向だけでなく、学習における双方向も検討の要がある。
- ・地域活性化シンポジウム（⑰）とエコナイト（⑱）は地域連携にふさわしい取り組みである。
- ・⑲については、大変効果的、また、ユニークな講座だが、参加者が少ないのは何故かの分析と対策が必要。
- ・エコナイトの取組みは、地域発信としてイメージ的にも実践的にも効果的な取組みと評価できる。

(5) 総合評価



【コメント】

- ・相互に異なった大学間の連携は大変困難な中で新しい試みが色々展開された点は評価できる。
- ・③補助期間の最終年度として、前年度までの活動を進展させ、大部分で期待する効果が得られていると思う。ただし、それぞれの計画では、何をどのように実行したのかという説明はあるが、その効果はどうであったかの説明が少ないように思う。とにかく、本年度の成果の検証及び更なる発展への検討は、補助期間外の活動に委ねることになるであろう。
- ・関係者の多大な努力で計画の非常に良好な運営・進行がはかられたものと考えている。個々の運営については今後の課題も見られたが、事業継続により検討できるものばかりであったので問題は感じない。
- ・3年間の活動として、15大学間で e-learning システムが完成し、運用できるようになったことは高く評価できる。また多くの遠隔講義科目が開発され実用に供されるようになったことも高く評価できる。
- ・学士力として、E-Learning の単位互換の制度が確立できたことは高く評価できる。学士力向上の活動は、特定の大学のコンテンツに依存している場合が多いことは、今後努力して各大学に広げていく必要がある。
- ・社会人基礎力として、既に各大学で基本的なプログラムが実施されていることは評価できる。さらに新たなコンテンツの方向性がはっきりしなかったことでは今後努力する必要がある。
- ・地域発信力として、大学からの発信を学生の活動、子供を対象とした活動の方向性を見出すことができ、地域への発信ができたことは高く評価できる。しかし、15大学には多くの教育研究資源が内在しているので、今後も地域発信に努力していく必要がある。
- ・多様な性格・立地の大学間の連携は簡単なことではなかったが、わずか2年半の機関において協力体制が構築され、将来に向けての継続と発展の体制が確保されたことは、大きく評価されなければならない。このベクトルを維持し、今後の連携を発展させることが必要である。
- ・県内でこれまで実施できていなかったライブあるいはVODによる遠隔授業など、オルガノンによる試みによって、各大学ともその方法や問題点などが非常に明瞭になったと感じられます。教育手法のトレンドは種々に変化するものかも知れませんが、本学が連携しております岡山大学主体の「がんプロフェッショナル養成コース」などでもVODが有効に用いられております。実際にどの程度、本学で用いていくかということは別としても、その実態を把握し選択肢として考える上で、非常に良い機会を与えていただいたと思います。また一般市民が高等教育機関

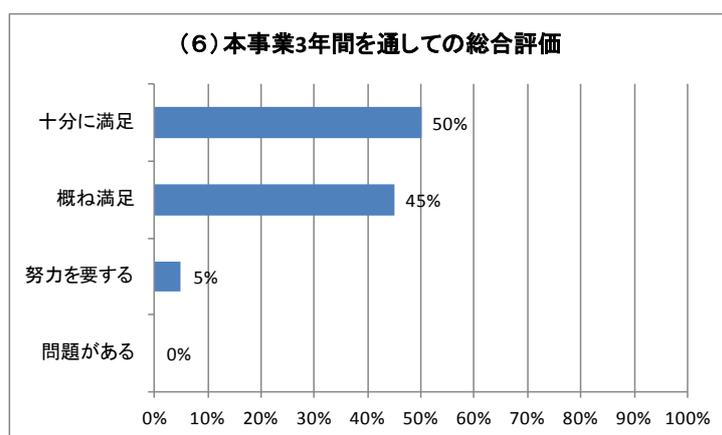
をどのように捉えているのかなど、大学自体の独自性と組織との連携や協調を考える側面も、オルガノンへの参加によってより明確になってきたと感謝しています。中心的に活動された岡山理科大学大学連携教育センターの皆様のご努力に称賛を送ります。

- ・単位互換制度に基づく遠隔授業は失敗であった。配信側の労力に比して、受講生のアンバランスの問題解決が図られなければならない。本学の場合、単位互換の必要性が低いうえに、講義開始時間が合わないため、配信はできても受信のメリットがなかった。また岡山オルガノンの委員会の回数も多く、また開催時間が本務時間帯に当たり、委員の出席がままならなかった。出席大学が特定の大学に限られていたことも、反省材料であろう。
- ・それぞれの分野、オフィスで、熱心に取り組んでいただいたと思う。更なる発展をしていただきたい。
- ・インフラの整備に始まり、大学教育連携センターを中心に3大学のオフィスの統括・運営の結果、連携大学間の連絡調整や情報共有などは極めて順調に前進し、成果を十分にあげてきたと総括出来よう。とくに3大テーマである『学士力』『社会人基礎力』『地域発信力』の育成は着実に進められて来た。また、将来の進路についてもはっきりと明示され、参加大学間で了解が得られたことも高く評価されるべきと考える。しかしながら、ライブ型遠隔講義やVOD配信講義では、まだそのコンテンツが十分に充実しているとはいえず、単位互換授業に参加する学生数も少ないままである。また、各大学が持っている独自性も十分には発揮出来ておらず、地域へのアピールも今一つといったところであろうか。コンテンツの充実といかにすれば多くの学生が参加可能になるかに関する再度の検討が必要であろう。また、『地域創生型の人材育成』という大目標に向かっては、いまだ多くの取り組みが主として連携大学と学生の間に留まっており、地域住民や地域企業まで巻き込んだ状況にまでは達していないと言わざるを得ないのは誠に残念であり、今後の発展目標に掲げてもらいたいものである。
- ・全体的な評価として、各取組みが事業計画に沿って、それぞれの目標を達成できていると結論づけられよう。今後に向けて、事業を長続きさせるためには、学生の「地域発信力」「学士力」「社会人基礎力」が向上したことを示す説得力のあるエビデンス（根拠）が求められている。そして、事業の推進によって得られる効果を大学はもとより、高等学校や産業界に広くアピールすることが不可欠である。そのためには、戦略的連携事業としての補助期間終了後に、「大学コンソーシアム岡山」に円滑に引き継いでいくことが最も重要な課題となる。
- ・総合的に③と評価されるが、詳細には、③から④の間に評点をつけられると考えられる。この種の取り組みの困難性を考慮すると、計画がほぼ十分に満足できる状態に達成されているとみなされるので評価は④に値する。同時に、今後の継続的な展開を考慮した場合は、取組によっては自己点検評価を踏まえて問題点や課題を明確にすることによって計画の見直しを行う必要があると推察されるので、その点に照準すると評価は③に値する。
- ・（1）大学教育連携センター、各オフィスを中心として、各連携校間の調整を取りながら事業を適切に遂行し、大学コンソーシアムへの事業継承を円滑に行った。（2）ライブ配信、VOD配信ともにコンテンツが不十分であり、配信システム、学習管理システムの改善、充実、e-learningについての講習が必要である。受講者数も少なく、講義時間の調整、広報活動が必要である。（3）地域の担い手となる人材育成につながる取り組みとして優れた取り組みであるが、連携校での活用が増える工夫が必要である。（4）遠隔授業については、配信科目数を増やす努力とともに、連携大学間でより広範囲に活用されるためには、双方向授業のための設備がより広く

整備される必要がある。

- ・全般的に計画どおり目標が達成され、成果があがっている。しかしながら、オルガノン事業の根幹の一つである「学士力（単位互換）」については、ライブ型遠隔講義の履修者が少なく、本取組が学生に十分な教育効果をもたらすことができたのか疑問に感じる面もある。
- ・そもそも県内大学間協働の必要性への意識が低くいために盛り上がり欠けている。第2段階に入るときにあって、もう一度基盤づくりに努力し、「岡山オルガノン」及び「大学コンソーシアム岡山」への各大学内の協働実施体制を強化するとともに、大学間協働への積極的な取組になるよう、今後とも体制づくりの強化に力を入れるようにしたい。
- ・3年間の事業で取り組んだ計画はよい成果をあげていると思います。オルガノン以前からあったエコナイト事業やI*See2011事業などは、オルガノンの協力を得てより活性化したと思われます。最大の成果はテレビ会議システムを用いた授業配信ですが、このシステムは各大学の授業システムを補うものとして可能性が示されたものと思います。今後は、授業中の学生管理システムおよび授業の双方向性をより充実させていくこと、さまざまなソフトの導入を図ることにより、一層充実するものと考えています。
- ・3年間の補助期間の最終年度であったが、各分野の計画に沿って、鋭意、集大成となる活動に取り組まれており、全般的に概ね目標のレベルに達しているものと考えます。今後、各分野の事業推進を通じて培われた連携校の緊密な連携・協力のもと、それぞれの事業が大学コンソーシアム岡山に円滑に継承されることを期待している。
- ・「共通計画」については、関係者による会議等が頻繁に行われ、円滑な事業運営の原動力となったものと考えます。
- ・「学士力育成のための計画」については、VOD型による遠隔教育事業の充実やクレイマー対策講座等、精力的に取り組まれている。遠隔教育事業については、学生に対して積極的にPRするなど利用者の増加を図っていただきたい。
- ・「社会人基礎力育成のための計画」については、講義やワークショップなど多彩なプログラムを展開しているが、内容的には大学生に限らず一般の方にも参加してもらえるプログラムもあったのではないかと。
- ・「地域発進力育成のための計画」については、地域活性化シンポジウムやエコナイトなど、学生が地域で活躍できる場として意義あるものと思われ、引き続き実施されることをきたいする。
- ・今年度は事業の最終年度であったが、過去2年間の経緯を踏まえた適切な計画により初期の目的を十分果たすことが出来た。
- ・本事業の目的である「学士力、社会人基礎力、地域発信力の向上」は関係各部の周到な準備と実行により確実に向上したものと認められる。
- ・本事業は参加各大学間の連携を強化することが出来るとともに、地域社会の活性化にも大きく貢献するものである。
- ・大学の連携による教育の充実と社会貢献という目標に向けて、新たな試みに挑戦したことは評価できる。未来への可能性を秘めた大学の連携をさらに発展させるための土台の構築という点で有意義だった。
- ・全体として、3年間で岡山オルガノンの当初計画をほぼ達成できたと認められる。
- ・活動はしっかり行われ、連携も素晴らしい、内容溢れる取組みと評価できる。後は、如何に参加者の輪を広げるかの工夫が大事である。

(6) 本事業3年間を通しての総合評価



【コメント】

- 大学教育が直面する新しい局面を見ることができた。しかし、一つ一つの概念がまだまだ不明である。
- 社会人基礎力とは何か、地域の活性化とは何か、学生参加によるFDの意義はどこにあるのか
- 遠隔地学生のためのVOD、Eラーニングの活動意義は分かるが、現場での大学教員の直接的な交流に組み込んだ方式を考えるべきではないか。
- 短期間（3年弱）で、広域に配置する15構成大学をまとめて、期待する効果が得られたと思う。未達成の部分があるのは、「当初の事業実施期間を縮小した補助」が原因と考えられ、やむを得ないと思われる。平成24年度以降で、どれだけ実質的な（PRや外向けアピールのような活動にとらわれることなく）活動をするかが課題である。
- 大学改革推進事業として「学士力」育成、「社会人基礎力」育成、「地域発信力」育成を目指す今回のプロジェクトは全体的に良好に計画が推進されたものと考えている。今後の課題としてはプロジェクトの効果を明確に判定できる評価基準を事業実施前に決めておくなど目標設定の必要性を感じた（PDCAの考え方を明確に導入する？）。
- 15大学が連携を取りながら3つの事業に関する活動を進めたことについては高く評価できる。
- 15大学は、多くの教育・研究資源を有しているので、今後、地域発信力で実施された“日よび子ども大学”の例に見られるように、各大学の教育研究内容について情報を集約することで、協働で教育の質の向上や地域に発信できる取組を増やしていく必要がある。
- 以上の成果をもとに、文部科学省の推進する「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」の趣旨にも合致するところの、地域から新しい教育を生み出し、次世代を担う人財の育成のために、新しいプロジェクトで引き続き連携活動を行う必要があると考えられる。
- 当初予測より遠隔授業の学生数が少なかったことや、3年間という期間でインフラ整備から始めて成果を達成するというなか、若干いろんな事業が、バタバタと決まって行った印象があります。しかし、補助金があったからこそ、大学コンソーシアム岡山のこれまでの事業から、格段に踏み込んでおり、また大学教育に関連して、連携校の相互理解や協調対応などの道筋が付けられたことに、評価したいと思います。本学でも、オルガノンの参加によって、大学連携の手法や問題点を掌握できましたし、それに基づいた本学の教育へ自己評価についても新しい観点が生じたと考えております。大学が独自で学生を集め、教育の充実、さらには研究の向上などに対応しながら、さらに独自性を構築していかなければなりません。18歳全入時代の今、今

回の事業への参加によって、縦軸としての各大学間の競合と横軸としての各大学の連携について深く考えさせられました。その点でもこの事業へ参加できたことに感謝の意を表したいと考えております。大学コンソーシアム岡山に継承後、今回の事業で蒔いた種が大きく花開くことを期待しております。

- ・高額な補助金に基づいてスタートしたオルガノン事業であるが、当初の目的がどの程度達成されたのであろうか。見方によっては予算の執行に追われ、大学間連携の目的が二義的になったともいえる。コンソーシアム岡山に継承されるのを機に、一層合理的な大学間連携促進のためには、法人化を図る必要があると考えられる。
- ・岡山オルガノンという独自の文化を構築し、参加各大学が協力しあう一つの地域活性化のための事業として大成功であったと言える。
- ・それぞれの大学が有する学術ならびに研究における高度な知識が他大学と共有でき、しかもそれを地域社会の活性化にまで結び付けて行こうとする今回の試みは有意義なものであり、それなりの価値を見いだすことが出来たと評価する。しかし、一方では折角の単位互換の授業に参加できる学生は少なく、単科大学では資格獲得のための極めてタイトなカリキュラムに追われ協力が困難な面も指摘された。その反面、総合大学においては、今日、大学に入学してくる学生は多様な目的をもっており、その中には自分の行く道や将来性を全く考えずに入学して来る学生も数多い。そのような学生にとっては、他大学の授業や地域企業の話を経験として、自分の行く道を決定したり、場合によっては相手の大学とうまく数字的に成り立てばバーター取引も成立するかもしれない可能性も生まれてくる。いずれにせよ折角3年間15大学が力を合わせて努力し、それなりの効果をあげてきた事業であるので、引き続き継続可能な大学間ではこの事業を一步一步推し進め、大学間のメリットばかりでなく、いまだ不十分な地域社会の活性化や地域産業の振興にも広く貢献できる事業として発展してゆくことを望みたい。
- ・「岡山オルガノンの構築」では、年次計画に沿って各種の事業が展開されてきた。将来構想委員会等での検討により、今後は「大学コンソーシアム岡山」に事業を引き継ぐ方針が打ち出されている。今後とも、双方向ライブ遠隔事業、VOD遠隔授業での魅力ある授業の提供が求められるとともに、キャリア教育科目の配信、連携型FD・SD活動の推進など、これまで整備してきたインフラの積極的な活用が求められている。一例を示せば、FD・SD活動の一環として、教員相互の授業公開での活用が考えられる。これまでも、同一大学内の複数キャンパスを結んでのテレビ会議システムを利用した授業公開の実践事例が散見される。しかし今後は、複数大学の連携事業として、多地点を接続した双方向ライブ型、あるいはVOD型の動画配信を活用した授業公開の実現により、さらなる教育改善が期待される。
- ・第3回岡山オルガノン連携評価委員会の配布資料と報告を基にして評価する限りでは、「おおむね満足できる」(期待する効果はあるが、未到達の部分もある)と「十分に満足できる」の中間の評価になるだろう。連携校間における(A)教養教育の充実・共同FD/SD活動による「学士力」育成、(B)実践的キャリア指導・社会活動参画による「社会人基礎力」育成、(C)地域連携による人材育成・地域貢献活動による「地域発信力」育成、という3つの力の育成が、短期間に行われた集中的な事業としては、十分満足できる成果であると評価できると思われる。その点では④に値する。他方、中・長期のスパンの中に位置付けると、個々の取組を通して生じた問題点や課題を明らかにし、今後の継続的な展開によって、一段と成果を高めることが期待される段階にあると解される。その点では③に値する。

- ・競合関係にある県内各大学が共通の事業を展開することを通じて協力関係を構築できた点、そして大学連携教育センターが連携校間の調整をよく図り、各オフィスを中心として事業の展開が円滑に行われた点は評価できる。特に地域貢献、社会貢献の点ではかなりの成果が挙げられた。しかし、地域への情報発信、浸透という点では未だ不十分である。単位互換制度を活用したライブ配信、VOD配信による遠隔授業は、科目数、受講者数ともに少なく、講義内容、実施方法、学習管理システムの改善を要する。大学コンソーシアムに移行後の事業設計、大学の費用負担の展望が不明確である。
- ・3年間という短い期間の中で、15もの大学がそれぞれの特色を活かしながら、「学士力」、「社会人基礎力」、「地域発信力」の向上を図れたことは、大変意義あることと評価できる。大学教育連携センターをはじめ、サテライトオフィスが効率よく機能し、連携校と密に連絡・調整をとり、15大学が一体となって取り組んだ結果、非常に特色ある事業が展開できたと思われる。来年度以降もこれまで築き上げた取り組みを継続し、オルガノンの3本柱を発展させることを望む。
- ・本連携取組事業の目的に沿って多面的に尽力することによってかなりの成果を上げつつあると考えられる。しかしながら、今後さらに推進していくための基礎づくりとしては不十分である。
- ・一つ一つの事業の実施に少し振り回されている感があり、この際、事業全体を抜本的に見直し、「学士力」・「社会人基礎力」・「地域発進力」のそれぞれの内容の精査と三者の基本的関係を明確にする努力をし、地域に生きた学生の育成と地域連携の推進などについて、総合的検討を進めることを強く要望したい。
- ・オルガノンの事業は、個々の事業で順調に成果をあげたと思います。テレビ会議システムの導入は、当初使いこなさに慣れない点もあり、むずかしいかとも思いましたが、授業や会議に用いてポテンシャルが高いものであることがはっきりしてきました。今後は、連携校以外の外部への接続利用のことも視野に入ってくることになりましょう。ソフトやハードの更新に費用が掛かりそうで心配な面もありますが、補助金終了後の持続的な活用についてさらに検討をすすめていくのがよいでしょう。3年間を通じて、大学連携が進んだことが、オルガノンの何よりの成果であると高く評価します。さらに、将来構想委員会をたちあげ、大学コンソーシアム岡山への事業継承を確かなものにしたことは、この事業の大きな財産として評価されます。
- ・初年度は後半からのスタートであり、実質2年半のプロジェクト期間であったにもかかわらず、各分野において計画に沿った取組が行われ、全般的に概ね目標のレベルに達しているものと考えられる。代表校の「大学教育連携センター」と3大学の「サテライトオフィス」が、学士力・社会人基礎力・地域発信力の3つの基本目標の達成を目指して分担しながら連携し、各連携校との綿密な連絡調整を行いながら、鋭意、各種事業に取り組まれた成果と認識しており、関係者のご尽力に敬意を表したい。今後、大学コンソーシアム岡山に円滑に継承され、更に拡充・発展していくことにより、本事業の目的である、岡山県から発信される地域創成型の人材育成につながっていくことを大いに期待している。
- ・ライブ型とVOD型による遠隔教育事業は、3年間でその枠組みを整え、来年度以降も引き続き実施されることとなったが、大学の多い岡山県の強みを生かす好取組であり、大いに評価したい。今後は、さらなる事業の充実を図り、その継続に力を注いでいただくとともに、学生に積極的にPRするなど利用者の増加を図っていただきたい。また、聴講生のような形で一般県民が受講できるような仕組みを検討していただきたい。

- ・地域活性化事業や学生交流事業は、学生が地域で活躍できる場として大変有意義であり、今後も学生の積極的な参加を促すとともに、定着化を図っていただきたい。
- ・大学の役割は従来の学問的な分野のみならず地域に対する社会貢献が求められている。本事業は大学の地域に対する情報発信力の強化という点でまさに的を射た事業であった。本事業を実施することで参加大学間の意思の疎通を図ることが出来るとともに、大学間の認識等の格差の是正にも大きく貢献することが出来た。
- ・本事業は3年間で終了したが各設備は整っており、今後これらの設備を有効活用して引き続き継続して実施することが必要である。「大学コンソーシアム岡山」が事業を引き受けることで計画されているが、予算等の制約から一部の事業しか実施することが出来ない。24年度以降も事業の継続についての支援が望まれる。
- ・計画に挙げた項目は遂行できた。各大学の連携が深まり、人的交流も拡大したと考えられる。教育における費用対効果の評価は容易にできないが、ライブ型など新たな試みに対する参加はもうひとつだった。しかし逆に言えば、短期間でここまでできたことは評価できよう。3年間で得たインフラを今後どう生かし、伸ばしていくかが課題になるだろう。そのためにも、オルガノン自身が反省点を踏まえてしっかりと自己評価し、大学コンソーシアムへの事業継承に結び付けていくことが求められる。
- ・3年間の活動を拝見してきたが、初年度は立ち上げ期、2年目は拡充期、3年目は完成期にふさわしい活動を展開してこられたと思う。
- ・岡山オルガノンに対する国からの補助期間は本年度で終了するが、これまでに開発・展開されてきた事業を見直し、継続発展させる事業計画をすみやかに建てられることを願う。
- ・すでに将来構想委員会で大学コンソーシアム岡山に事業を継承するとの方針が決まり、大学コンソーシアム岡山においてもその方向で検討を進められていると聞き、安堵している。
- ・地域連携教育のモデルをこれからも発信していただくことを期待する。
- ・難しい大学間連携が、一つの形となり、ステップバイステップに具体化されている。後は、「継続は力なり」で、内容を充実し、参加者の輪を広げれば、岡山の大きな「学の力」となると評価できる。

(7) その他のコメント

- ・本学としては、LIVE 配信遠隔授業の配信以外に、十分な協力が出来ませんでした。ただし、医科大学という本学の特異性については、関係の方々にご理解いただけたと思っております。そのなかで、参加可能なプロジェクトについては、岡山県あるいは倉敷市に在る高等教育機関として、本学学生のメリットやデメリットという観点のみならず、広く県内の教育の質の向上や、それぞれの機関の連携・協調という面から、参加できたことに感謝しております。今回の種々の取組は全学生に対して全大学という取組が中心であった印象があります。大学コンソーシアム岡山に継承後には、文科省による新たな競争的資金としての課題について、県の産学官連携などの取組や、国の産業戦略のライフイノベーションとグリーンイノベーションが挙げられます。例えば単位互換やFD/SD などでも、「医療医学福祉部会」、「環境部会」、「エコロジー産業部会」などを設けて、その枠内での単位互換や授業の共有などを実施すると、少し色合いが変化して、興味を持たれる大学や学部なども出てくるのかも知れません。ある意味「日ようび子ども大学」などは「教育部会」だった印象もあります。統合的に実施するプロジェクトと、参加大学のうち、緩いながらもおおまかなテーマに特化したサブグループの構築などは面白いかも知れません。
- ・今後はコンソーシアム岡山に継承されるが、単位互換制の枠を超えた合理的かつ柔軟な企画が望まれる。
- ・今後、コンソーシアムの中に、岡山オルガノンの事業がどのように根付くか？少なくとも10年くらいのスパンで考えていただきたい。
- ・この3年間の15大学の取り組みは、岡山理科大学の強力なリーダーシップの存在もさることながら教育県岡山ならではの各校の積極的な努力の結果であったといえよう。今後もこの取り組みをきっかけとして、引き続き参加可能な大学を中心に、今回十分に果たせなかった地域住民や地域産業をも取り込んだ『地域創生型の人材育成』を大々的に掲げた『岡山独自の地域に根差したユニークな大学教育モデル』として発展確立を目指していただきたい。
- ・岡山オルガノンの企画する各種の取組に参加して、他の連携大学との情報交換を図ることが可能となり、良い意味での刺激を受けることができた。そして、連携大学間での相互の交流により、本学の長所や短所がより明確になった。補助期間終了後も、これまでの成果を踏まえてさらなる改善・充実を図りたい。
- ・2012年1月20日に行われた第3回岡山オルガノン連携評価委員会で配布された関連番号資料とその時の報告を基に評価を試みた。点検項目の内容を勘案すると、全体に各種の取り組みを計画的、集中的、生産的に実施された汗の結晶ともいえる成果の数々であることが看取できる。全体的にはすぐれた成果が上がっているとみなされる。このことにかんがみ、その間における関係者のご苦勞とご努力に敬意を表したい。全体にプロジェクトの計画が実際の実践過程を通してどの程度実現されたかを自己点検によって見究め、問題点や課題を明らかにして、将来の取り組みへ反映することが期待される。その点、計画を実践に移す営みは相応の成功をおさめていると評価できるが、どの程度実現しているかの角度から自己点検によって問題点を見究める作業が必ずしも十分ではなく、したがって今後取り組むべき課題が必ずしも明確になっていないという印象を与えるのではあるまいか。本年度から、本プロジェクトの評価委員会に参加した関係上、3年前からの平素の活動自体を十分に掌握していない上での評価をせざるを得ないという限界があることは否めない。理解が皮相的かつ不行き届きになって、予断や偏見があ

るかもしれないと危惧される。本活動の重要性を考慮すれば、中長期の持続的な展開が不可欠の課題であると考えられる。

- ・地域社会の中で大学が果たすべき役割への認識が極めて不十分であるため、どのような活動を展開するにしても、十分な成果につながらない。本会発足の理念であり発足推進力であった産学官連携の意義と具体策を基本的に再考し、大学の使命の一つである「地域連携」の重要性への認識を高めるための何らかの企画を考えて欲しい。
- ・今回の「岡山オルガノン」プロジェクトでは、連携校間に双方向ライブ型方式によるテレビ会議システムを整備することができたことが大きな成果の一つであるとする。こうしたハードを今後も有効に活用していくために、単位互換科目のライブ型遠隔授業について、ユニークな科目設定等による配信内容の一層の充実や連携校間のライブ科目授業専用時間の徹底など、ライブ型遠隔授業を受講しやすい環境づくりに努めるとともに、FD・SD研修や各種テレビ会議等、このシステムのメリットを生かした様々な活用方法についても模索するなど、ソフト面での意欲的な取組を期待したい。また、来年度以降、「岡山オルガノン」プロジェクトを継承することとなる大学コンソーシアム岡山の次期会長校が、同プロジェクトの代表校である岡山理科大学に内定したが、コンソーシアムに新設される委員会制度の活用等により、1大学に過度の負担とならないような連携・協力を期待したい。
- ・岡山オルガノン事業は今年度で終了し、大学コンソーシアム岡山に事業の一部を引き継ぐ予定と聞いているが、3年間の取組の成果を生かしながら、岡山の大学力を結集し、学生だけでなく広く県民にも「学びの機会」を提供していただければ幸いである。
- ・計画、実施に携わられた皆様の努力に心から敬意を表します。

3. センター・サテライトオフィスによる自己評価の集計結果

今回は補助期間の最終年度に当たるので、従来のように評価結果の分析を掲載せず、代わりに大学教育連携センターおよび3サテライトオフィスの関係者8名が、それぞれ担当した分野について自己評価を行った結果を掲載することにした。なお、この自己評価は各連携評価委員の評価と並行して行われたことを付記しておく。連携評価委員の評価結果とこれらの自己評価を真摯に受け止め、今後の事業継承において、さらなる充実へ向けた取り組み展開が期待される。

評価項目	自己評価	委員評価
(1) 共通計画		
①大学教育連携センターおよび各オフィスの運営	4.0	3.7
②「将来構想委員会」の開催	3.3	3.8
③「岡山オルガノン代表者委員会」の開催	3.7	3.6
④「岡山オルガノン事業報告会」の開催	3.7	3.5
⑤平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加		
⑥「連携評価委員会」の開催、最終報告書の作成	4.0	3.6
(2) 学士力育成のための計画		
⑦単位互換制度を活用した配信科目の追加検討・協議・決定	3.0	3.3
⑧新規VOD科目のコンテンツ制作、8月～9月にICT活用教材作成講習会の実施	3.3	3.3
⑨独自の共同SD研修会「クリエイター対策講座」を実施	4.0	3.8
⑩FD研修事業「i*See 2011」の共催	4.0	3.4
⑪「共同FD・SD実施報告会」(遠隔授業による成果報告を含む)の開催	3.0	3.6
(3) 社会人基礎力育成のための計画		
⑫連携校および高校(高大連携)への出張講義の実施<実践的キャリア指導チームの強化充実>	3.0	3.6
⑬学生参画によるキャリア教育担当者意見交換会(ワークショップ)の開催	3.0	3.2
⑭「実践マナー&ビジネスマインド短期集中講座」の実施	3.0	3.4
⑮「社会人基礎力養成シンポジウム」の開催	4.0	3.6
(4) 地域発信力育成のための計画		
⑯双方向ライブ型方式による遠隔授業の継続配信	4.0	3.0
⑰「大学連携による地域活性化シンポジウム」の開催	4.0	3.7
⑱「エコナイト」の開催	4.0	3.7
総合評価		
総合評価	3.8	3.4
本事業3年間を通しての総合評価	3.5	3.5

【コメント】

(1) 共通計画

- ・①②③⑤については、大学教育連携センターや各オフィスが互いに連携し、事業計画を事前の会議等で作成し実行したことは、高く評価できる。

- ・④については、学生参画型での主体的な取組が報告され、教員と学生との相互の情報交流が図られてよかった。しかし、参加者が少なく、広報活動が不十分であった。
- ・⑥については、こまめに事業報告書の作成、評価委員会での発表内容に関する事前調整が行われ、充実していた。

(2) 学士力育成のための計画

- ・概ね目標は達成されており、来年度以降の継続に際してさらなる充実が期待される。事業三年目にあたり、順調に単位互換科目の拡充をはかっているが、受講生の人数は必ずしも多いとはいえない。多くの学生が魅力を感じるような科目を提供して行くことも必要であろう。SD・FD研修事業に関しては、県内の大学間での「ヨコのつながり」が盛んになったことは有意義な成果であると認められる。

(3) 社会人基礎力育成のための計画

- ・⑫「実践的なカリキュラム作成」と「社会人セミナーで実績のあるプロ講師によるチームづくり」の2点に徹底的にこだわった結果、目指した高レベルの体験型プログラムが構築できた。単発・集中型・正規講義それぞれに年々講義の要請は増え続け、2年7カ月の期間に計178講義(月平均5.7回)を実施したことは、なにより高評価の表れと振り返る。作成したプログラムを産学連携・高大連携においても提供・貢献できた点には満足している。
- ・⑬受講学生、社会人、企業の教育担当へのヒヤリングと意見交換会の実施は、講座の充実と講師のスキルアップ面において狙った以上の効果があった。実社会現場の「生の声」は集中講座やシンポジウムに活かすことができ、その点は参加者から高評価が得られた。ヒヤリング結果はワークショップ(8大学参加)でも報告したが、より多くの連携校の担当者・関係者と共有し、企業の関係者も交えての検討・議論の場にまで拡大したかった。
- ・⑭2カ年とも、受講学生の満足度100%の集中講座が提供できた。学生に加えて社会人の受講も見られたが、ここから学生と社会人の交流機会が創出され、自主的な活動も始まった点は思わぬ副産物であった。学生から強い要望があがった「合宿セミナー」の実現に向け、社会人協力者との相談も始めたが、期間中には現実的な動きには至らなかった。
- ・⑮学生・社会人の交流スタイルによる「シンポジウム」は、参加者からは企画内容に高い評価いただき、来年度以降の継続希望と協力申し出を得ることができた。実施担当としては、それ以上にワーキング活動の成果を反映できたことと、地元の企業の協力を得て今後の産学連携イベントへのつながりが構築できた点を、大きな収穫・成果と振り返る。

(4) 地域発信力育成のための計画

- ・⑯十分な準備にかかわらず、履修生が少ないのは、学生の学習意欲の欠如と言って良いのではないか。
- ・⑰第2分科会の取り組みは適切で目標を達成した。
- ・⑱連携校学生の協働作業として評価されて良い。
- ・7月7日の1日を盛り上げる事業の他に、持続性のあるテーマも検討すると良い。
- ・大学間の連携という方式のあり方をもっと多面的に追求して欲しい。
- ・⑲手間がかかる取り組みではあるが、今後も時間をかけて、拡大することを願いたい。

- ・⑰地域が埋没しそうな今、地域の問題点は活性化であり、この事業は必要である。
- ・⑱かなり定着化してきたと思われる。
- ・双方向ライブ型方式による遠隔授業は、開講科目数、受講者数ともに少なく、一層の工夫、努力を要する。地域活性化シンポジウム、エコナイトはそれなりの成果を上げているが、地域に向けての一層の情報発信、広報活動が期待される。
- ・地域活性化シンポジウム等を開催することにより地域が参画することが出来、市民とのつながりを強化することが出来た。
- ・「日ようびこども大学」「エコナイト」等を開催したことにより、市民と学生の交流活動の推進及び本事業の取り組みを市民に理解してもらうことに大きく貢献した。
- ・遠隔授業は今後大きな役割を發揮することが期待されているので、提供科目を増やし、多くの学生が受講するように指導と衆知徹底を図りたい。エコナイトについては、もっと地域住民などを巻き込んで行えるようにするべきであろう。
- ・双方向ライブ型遠隔講義（⑯）は開発と運用に関わる努力の割には履修者数が少ないように思える。教室間の双方向だけでなく、学習における双方向も検討の要がある。
- ・地域活性化シンポジウム（⑰）とエコナイト（⑱）は地域連携にふさわしい取り組みである。
- ・⑯については、大変効果的、また、ユニークな講座だが、参加者が少ないのは何故かの分析と対策が必要。
- ・エコナイトの取組みは、地域発信としてイメージ的にも実践的にも効果的な取組みと評価できる。
- ・ライブ配信は本学も関与しました。現状では受講生が少なくても、ノウハウを熟知し、実施できる体制を構築することは必要だと感じますので、オルガノンの取組で実施できてよかったですと思います。⑰については、岡山商科大学で実施されましたが、今後、児童館の跡地など開催場所を考慮されると発展すると感じました。エコナイトは全県的な取組に発展しているようで、素晴らしいことだと評価します。
- ・全体的に地域発信力育成のための計画は⑯⑰⑱を通じて③以上であり、「おおむね満足できる」と「十分に満足できる」の中間に位置づくとも評価できるであろう。⑯については、単位化が困難な状況のなかで関係者が努力されている取組であるが、連携校の参加を増やして一層の活性化が期待される。⑰⑱については、内容および実績を高めていると評価できるが、自己点検評価を踏まえて取組を今後持続する場合の課題を明らかにすることが期待される。
- ・双方向ライブ型方式による遠隔授業については、基本操作マニュアルが作成され、円滑に運用できる体制が完成した。このこと自体は評価でき今後の発展に期待するものであるが、残念ながら講義のテーマや単位履修者の数が極めて少ないことが問題である。この参加者が少ない原因分析と対策は是非とも必要ではあるが、折角『オルガノン時間』を取り決めても、基本的には各大学の授業時間割が異なることが影響しているのではないだろうか。一つの試みとして、夏期休暇中などにシンポジウムや集中講義形式での単位互換授業を試みることもいかがであろうか。
- ・⑰については、テーマを選び、大学の教職員と学生のみでなく広く地域の住民や企業人も参加できるようなものにできればと考える。
- ・すなわち、大学のみでなく地域と一体化して進めるプログラムを導入し、学生・大学・地域住民・企業の連携を深めて行く体制作り、テーマの選び方、会の開催方法などを熟慮してゆかね

ばなるまい。また、他大学やその地域の住民や企業にも十分な余裕をもった広報活動をしてゆくことも重要であろう。

- ・『エコナイト』は夏（七夕）と冬（クリスマス）の2回行っており、とくに七夕の折には、市内の高校とも連携して町をあげて行うことが出来た。しかし、冬は大学のみの取り組みに終わった。折角なので大学が音頭取りを行い、周辺の高校、行政や企業にも声かけを行い、町をあげての『エコナイト』と発展してゆくことを望みたい。
- ・なお、本校ではライトダウンとマイ・カー乗るまあ day も着実に定着しつつある。
- ・双方向ライブ型方式による遠隔授業については、開講時間だけでなく対象者を絞り込んだ講義などの工夫が利用拡大には必要と考える。その他の計画については非常に評価できるものとなっている。
- ・双方向ライブ型の授業配信が継続され、かつ充実してきたことは評価されます。受講学生数が少ない点は、配信時間割等の工夫を要することになるでしょう。地域活性化シンポジウム、エコナイト等、地域との連携をはかる取組の充実がめざましいようです。エコナイトは岡山市や岡山県とも連携をはかることができ、有意義だったと評価されます。
- ・全般的に概ね目標のレベルに達しているものとする。
特に、⑰大学連携による地域活性化シンポジウムでは、各連携校が自校の教育の特色を生かした形で取り組み、教育関係者をはじめ多くの県民の参加を得たところであり、また、⑱エコナイトの開催など、地域の企業や行政と連携した活動の拡充も見られたところである。
こうした取組が、今後、大学間連携による地域の活性化につながっていくものと大いに期待している。
- ・双方向ライブ型は将来を見据えたテーマだが、結果をみると試行錯誤の途上にあるといえる。3年間の教訓から得たものを、今後はどう生かすか。
- ・双方向ライブ型方式による遠隔授業の継続配信については本学から安藤教授の「哲学」を配信したが、受講者数の不足は残念であった。大学間での授業開始時間の不均等という負要因の解決が前提だろう。
- ・「大学連携による地域活性化シンポジウム」及び「エコナイト」の開催は成功であった。
- ・ライブ型遠隔授業の受講者の少なさが課題である。学生が興味を持つような魅力的な講義を配信することは無論、学生への情報提供を強化し、この制度をより多くの学生に周知しなければならない。地域活性化シンポジウムには一般の方が多数参加され、大学と地域が一体となった取り組みが展開できた。エコナイトは、イベントに参加する学生が昨年よりも増え、環境保護の重要性に対する理解が年々浸透している。
- ・双方向ライブ授業は、ハイビジョンで画像が鮮明であり音質も良好であるため、多くの成果をもたらしている。しかし費用対効果の面で分析すれば、受講人数をさらに増やす必要があるのではなかろうか。加えて、双方向ライブ授業の運営、受講手続や成績処理等に要する専任教職員の負担は、日常の本来的な業務に上乗せされたものである。負担を軽減させるための対策が検討されなければならない。
- ・⑳については、来年度以降も継続されるが、これまでの受講者数が少なく、学生への一層の周知が必要と思われる。
- ・㉑については、多くの学生が参加して実施しており、大学生の社会貢献、学生間の連携、自己有用感の醸成につながったのではないかと。
- ・㉒15 大学に TV 会議システムが導入され双方向ライブ型遠隔講義の運用が開始されたことは、

高く評価できる。また、平成 23 年度は、双方向ライブ型科目として 11 大学 14 科目が開講されたことは、高く評価できる。

しかし、受講者数が前後期合わせて 27 名であることには、学生、教職員への周知が不十分であるので努力が必要である。

- ・⑰学生、子供を対象とした大学連携での地域発信の方向性が明らかになったことは、高く評価できる。
- ・⑱平成 23 年度は全大学の学生、教職員参加のエコ活動となり、また岡山県、岡山市との連携も行えたことは、高く評価できる。
- ・ライブ講義に関しては、講義開始時間の統一など、大きな障壁が存在し、さらなる工夫が必要であることが明らかとなった。ライブ講義の時間を短くして自学する時間を設定するなどの対策が必要であろう。日ようびこども大学は盛況であり、大学と地域を繋ぐイベントとして成果を上げたことと評価したい。エコナイトに関しては、各大学単位での活動だけではなく、より複合的な連携体制における活動が求められる。

(5) 総合評価

- ・事業も三年目を迎え、今後の事業継続に向けての設備面及び制度面での整備が進んでいると判断される。しかし、来年度以降は「大学コンソーシアム岡山」への合流が決まっているものの、特に単位互換の実施については、まだ解決すべき課題が多いようにも見受けられる。再来年度の完全な合流に向け、来年度中の制度面での整備が期待される。
- ・各事業、計画的に実行され、イベントにおいては昨年を上回る参加者を募る結果となったことは、オルガノンに対する周囲の評価であると考えられる。また、最終年度にあたり事業の集大成となる最終報告書の作成や事業報告会の実施は、オルガノンが果たした役割の重要性を再発信し、次年度以降の事業継承を円滑に進める布石となった。
- ・今後の学生参画と地域交流における取組の発展を踏まえた合理的な展開事業の方向性を導くことができたことと評価できる。
- ・本年度の自己評価は 3.5 に近いが、一応 4 としておく。かなり難儀をしたが本事業の大学コンソーシアム岡山への継承が年度内にまとまった点を、良しと考えた。
- ・15 大学間で同一のシステムを導入した e-learning システムが完成し、運用できるようになったことは高く評価できる。また多くの遠隔講義科目（ライブ型、VOD 型）が開発され実用に供されるようになったことも高く評価できる。
- ・地域発信力として、大学の教育研究テーマの内から、岡山県内特定地域研究、住民（子供）を対象とした研究の多いことを見出し、順次大学が連携して地域への発信ができたことは高く評価できる。連携 15 大学には多くの教育研究資源が内在しているので、連携できるテーマを発掘し、今後も地域発信に努力していく必要がある。
- ・岡山オルガノン事業の継承を大学コンソーシアム岡山に受け継ぐ基盤作りができたことと考える。

(6) 本事業 3 年間を通しての総合評価

- ・単位互換において、様々な問題により受講者が特定の大学の学生に限定されているため、今後出来るだけ問題を解消し、(例えば各大学において単位互換の認定単位数を増やす等により、) 受講者を増やす必要がある。また、ライブ型授業の単位互換では受講時間の制約により、それ

の実施効果が今後も多く期待出来ないので、多数の科目を無理してまで配信する必要はないと思われる。

- 当初の事業計画は概ね達成されていると見られる。しかし、単位互換科目の履修者数を見ると必ずしも多いとはいえない。受講者アンケートの結果等から判断する限り一連の授業は好評のようであり、すぐれた取組であることは認められるが、その取組の恩恵が限定されて範囲にしか及んでいない点は残念である。来年度以降は「いかにして履修者数を増加させるか」、すなわち「いかに多くの学生に対して、この取組の成果を還元できるか」ということが強く求められる。
- 内容が多岐に渡り、壮大な事業であったが、三年間を通して目標に向けた取組が組織的に実行されてきた。またセンター及び各オフィスを中心に、定期的な会議や委員会の開催による入念な意見交換は、15大学の足並みを揃え、総合的によい結果を生み出した。
- VOD型・ライブ型による新しい単位互換制度の構築は、連携大学内における規約の調整や科目の提供、システムの整備など、長期的な努力が実を結ぶ形となり、岡山の大学教育向上に大きな役割を果たした。今後、講義時間相違などの課題を解消し、履修生拡大へと繋げてほしい。
- シンポジウムやエコナイトを始めとする、地域及び産学官連携事業は学生と地域が直接関わり、情報交換することができる有効な事業であり、今後も継続して実施することが望まれる。また連携して行うため、早期に事業内容について話し合う場が必要であると考ええる。
- 岡山県内15大学の共通項を連携大学で共有しながら、地域活性化に寄与する努力を十分に行うことができたと評価できる。
- 地域社会の中で大学が果たすべき役割について、また連携事業の重要性への認識を高めることができた。
- 今後の連携大学と地域における新たな連携について、早めに企画・検討・見直しを行っていく必要がある。
- 連携事業に参画した学生が社会人になったときに役立つ効果を創出するための取り組みを今後も検討していき、また地域から必要とされる大学になるよう前向きな姿勢が必要であると考ええる。
- 3年間の補助期間を経過してほぼ当初の事業が達成されたと考えるが、岡山県情報ハイウェイの利用を中心とした岡山県との連携、遠隔教育の普及度（特にライブ型教育の浸透について）、および共同FD事業の実施内容の点に、未達成な部分が残ったと考える。3年間という期間は、取組を担当したものとしてはやはり長かったと感じている。当初申請した事業内容に対し、この間に生じた社会的実施条件の変化へ対応ができなかったことが主な原因であると考えている。しかし、当センターとサテライトオフィスにおいて本事業の成功へ向けて努力していただいた関係各位、および連携校で新しい取組にご対応いただいた教職員諸氏に感謝を申し上げますとともに、今後の事業継承の成功こそが真に求められていることをお互いに確認すべきであると考ええる。したがって、今後は大学コンソーシアム岡山の中で、引き続き継承事業に関する自己評価と外部評価を続けるべきであろう。
- 3カ年間で、3つのテーマについて大学が連携しながら成果を上げたことは、高く評価できる。その方法として、コアになる大学教育連携センター、3つのサテライトオフィスがそれぞれのテーマを実施するために委員会を設置し、相互に連携しながら計画、実施した組織化は、高く評価できる。大学間で、専門性の違いから、どうしても統一的に活動のできない場合も生じる

ことが明らかになり、今後の大学連携での計画実施には注意を払う必要がある。このプロジェクトの中で開発された e-learning システム、大学連携による地域への発信活動が、16 大学からなる大学コンソーシアム岡山に継承されることは、今後の文部科学省の実施する大学間連携事業への申請を可能にする母体とすることができる。

- 本事業の取組により、岡山県内 15 大学間で情報を共有化するための基盤ができたと考える。この 3 年間は、大学教育連携センターや各オフィスが、他の連携校や地域の教育機関などと情報を共有化したことで、岡山オルガノンの構築、すなわち、学士力、社会人基礎力、地域発信力の融合を図ることができた。今後も大学コンソーシアム岡山が岡山オルガノン事業を継承するとともに、新たな事業に取り組むことで、岡山県下の教育力の向上を図る必要がある。

(7) その他のコメント

- 双方向ライブ型遠隔講義に関して、テレビ会議システム基本操作マニュアルに載っていないトラブルが発生した場合に備えた対処の流れを整備する必要がある。
- 地域発信力に関して、行政、大学、地域が取り組みを共有するパイプ作り、情報を発信する方法の検討、実施体制の構築を図り、一層の充実と発展を期待する。

(趣旨)

第1条 この要項は、岡山理科大学、岡山大学、岡山県立大学、岡山学院大学、岡山商科大学、川崎医科大学、川崎医療福祉大学、環太平洋大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、山陽学園大学、就実大学、中国学園大学、ノートルダム清心女子大学（以下、「構成大学」という）が、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムに基づく構成大学間の連携取組事業（以下、「連携取組事業」という）に関し締結した「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムの共同実施に関する協定書」第2条に基づき、連携評価委員会の組織及び運営に関し、必要事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 連携評価委員会は次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 構成大学が実施した連携取組事業の内容および成果の評価を行うこと。
- (2) 構成大学が実施した連携取組事業の内容に関して指導および助言を行うこと。

(組織)

第3条 連携評価委員会の組織は次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 有識者（産学官の外部委員）
- (2) 構成大学代表者（学長等）
- (3) その他委員会が必要と認めた者（学生を含む）

(委員長)

第4条 連携評価委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

- 2 委員長は、連携評価委員会の会議を主宰し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(委員会の成立等)

第5条 連携評価委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 連携評価委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 連携評価委員会は、必要があるときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 連携評価委員会の事務は、構成大学の協力を得て、岡山理科大学内に設置している大学教育連携センターにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、連携評価委員会に関し、必要な事項は別に定める。

(平成22年1月22日：岡山オルガノン代表者委員会にて承認)

(1) 有識者（産学官の外部委員）

所 属	職 名	氏 名
岡山県	県民生活部長	浅野 嘉彦
岡山県教育委員会	教育長	竹井 千庫
社団法人岡山経済同友会	代表幹事	中島 基善
山陽新聞社	代表取締役社長	越宗 孝昌
立命館大学共通教育推進機構	教授	木野 茂
両備ホールディングス株式会社	代表取締役社長	小嶋 光信

(2) 構成大学代表者（学長等）

所 属	職 名	氏 名
岡山大学	学長	森田 潔
岡山県立大学	学長	三宮 信夫
岡山学院大学	学長	原田 博史
岡山商科大学	学長	井尻 昭夫
川崎医科大学	学長	福永 仁夫
川崎医療福祉大学	学長	岡田 喜篤
環太平洋大学	学長	梶田 叡一
吉備国際大学	学長	松本 皓
倉敷芸術科学大学	学長	唐木 英明
くらしき作陽大学	学長	有本 章
山陽学園大学	学長	赤木 忠厚
就実大学	学長	押谷 善一郎
中国学園大学	学長	松畑 熙一
ノートルダム清心女子大学	学長	高木 孝子
岡山理科大学	学長	波田 善夫